Pioneer sound.vision.soul

AVデジタルサラウンド・アンプ

VSX-D811S

メールサービス登録のご案内

http://www.pioneer.co.jp/members/

お買い上げいただきました製品についての「お客様オンライン登録」をお願いいたします。ご登録いただきますと、プレゼントや懸賞商品が当たるキャンペーン/イベント情報や各種製品情報等のご案内をさせていただきます。
ご登録は上記URLにアクセスしてご利用ください。

新規登録されたお客様には、毎月プレゼントを抽選にて差し上げております。詳しくは、上記URLにアクセスしてください。

取扱説明書

このたびは、パイオニアの製品をお買い求めいただきましてまことにありがとうございます。

この取扱説明書をよくお読みになり、正しくお使いください。特に、本書および別冊の「安全上のご注意」は必ずお読みください。

なお、「取扱説明書」および「安全上のご注意」は「保証書」、「ご相談窓口・修理窓口のご案内」と一緒に必ず保管してください。

安全上のご注意 付属の「安全上のご注意」もお読みください

安全に正しくお使いいただくために

絵表示について

この取扱説明書および製品への表示は、製品を安全に正しくお使いいただき、あなたや他の人々への危害や財産への損害を未然に防止するために、いろいろな絵表示をしています。その表示と意味は次のようになっています。
内容をよく理解してから本文をお読みください。

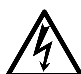


この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容を示しています。



この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が傷害を負う可能性が想定される内容および物的損害のみの発生が想定される内容を示しています。

絵表示の例



△記号は注意（警告を含む）しなければならない内容であることを示しています。
図の中に具体的な注意内容（左図の場合は感電注意）が描かれています。



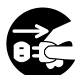
⃠記号は禁止（やってはいけないこと）を示しています。
図の中や近くに具体的な禁止内容（左図の場合は分解禁止）が描かれています。



●記号は行動を強制したり指示する内容を示しています。
図の中に具体的な指示内容（左図の場合は電源プラグをコンセントから抜け）が描かれています。

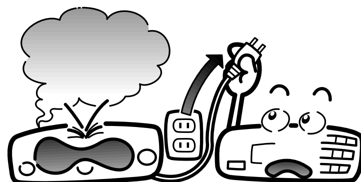
⚠警告

〔異常時の処置〕



プラグを抜け

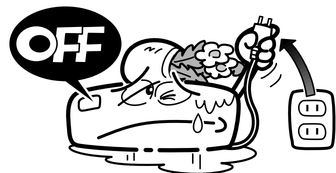
● 万一煙が出ている、変なにおいや音がするなどの異常状態のまま使用すると火災・感電の原因となります。すぐに機器本体の電源スイッチを切り、必ず電源プラグをコンセントから抜いてください。煙が出なくなるのを確認して販売店に修理をご依頼ください。お客様による修理は危険ですから絶対おやめください。





プラグを抜け

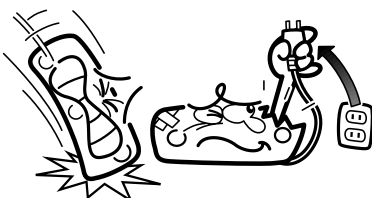
● 万一内部に水や異物等が入った場合は、まず機器本体の電源スイッチを切り、電源プラグをコンセントから抜いて販売店にご連絡ください。そのまま使用すると火災・感電の原因となります。



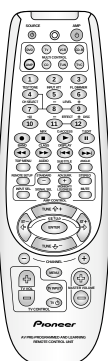


プラグを抜け

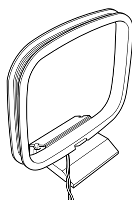
● 万一本機を落としたり、カバーを破損した場合は、機器本体の電源スイッチを切り、電源プラグをコンセントから抜いて販売店にご連絡ください。そのまま使用すると火災・感電の原因となります。



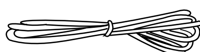
付属品を確認する



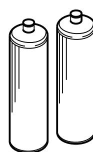
リモコン



AMループアンテナ



FMアンテナ



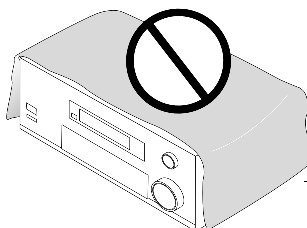
単3形乾電池（2本）
（IEC R6P）

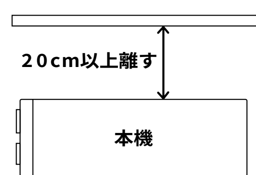
- 取扱説明書（本書）
- 安全上のご注意
- 保証書
- ご相談窓口・修理窓口のご案内

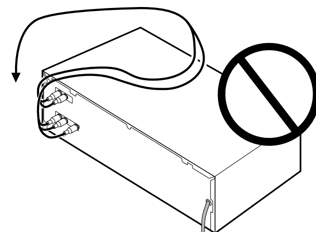
設置について



- 放熱のため本機の上に物を置いたり、布やシートなどを被せた状態でのご使用は絶対にお止めください。異常発熱により故障の原因となる場合があります。
- ラック等に設置する場合は、上部に20cm以上空間をあけてください。
- 本機の上に接続コードを曲げて放置すると、電源トランスから磁界の影響により、スピーカーからハムノイズが出る場合がありますのでご注意ください。

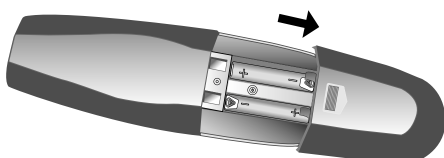




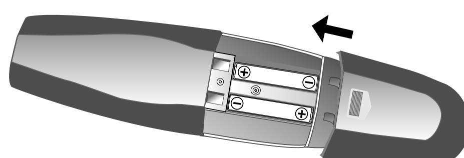


リモコンに電池を入れる

1



2





電池を誤って使用すると、液漏れしたり破裂する危険性があります。以下の点について特にご注意ください

- 新しい乾電池と一度使用した乾電池を混ぜて使用しないでください。
- 乾電池のプラスとマイナスの向きを電池ケースの表示どおりに正しく入れてください。
- 乾電池には同じ形状のものでも電圧の異なるものがあります。種類の違う乾電池を混ぜて使用しないでください。
- 長い間（1ヵ月以上）リモコンを使用しないときは、電池の液漏れを防ぐため、乾電池を取り出してください。もし、液漏れを起こしたときは、ケース内についた液をよく拭きとってから新しい乾電池を入れてください。
- 不要となった電池を廃棄する場合は、各地方自治体の指示（条例）に従って処理してください。



- 電池を交換する際は、なるべく5分以内に交換することをおすすめします。5分以内に交換しないと、メーカーコードが解除される可能性があります。メーカーコードが解除されてしまった場合は、再度プリセットし直してください（60～62ページ）。
- リモコンの操作範囲が極端に狭くなってきたら、電池を交換してください。

目　次

「ホームシアター入門」は7～13ページになります。

目　次

目　次

「ホームシアター入門」は7～13ページになります。

準備

ホームシアター入門

各部の名称とはたらき

接　続

基本操作

いろいろな使い方

細やかな設定

ラジオ放送を聞く

リモコンによる他機器の操作

その他

本機の特長　～こんなことができます～

ホームシアターの実現

✣ ドルビーデジタル、DTSデコーダー搭載 (68ページ)

ドルビーデジタル音声やDTS音声で収録された映画や音楽ソフトを臨場感豊かに再生し、映画館やコンサートホールの迫力をご家庭で手軽にお楽しみいただけます。

✣ MPEG-2 AACデコーダー搭載 (68ページ)

BSデジタル放送のサラウンド音声も、マルチチャンネルサラウンドでお楽しみいただけます。

✣ ドルビープロロジックII回路搭載 (69ページ)

2チャンネルステレオ音声や、ドルビーサラウンド音声で収録されたソフトもドルビープロロジックII回路を使ってマルチチャンネルサラウンドでお楽しみいただけます。

✣ 6ch イコールパワーアンプ搭載

ドルビーデジタルやDTSソースを高音質な7.1ch再生でお楽しみいただけます。

✣ アナログ7.1ch 入力端子搭載

5.1chや7.1chのアナログ出力を持ったDVDプレーヤーや外部機器と接続することができます。

バラエティ豊かなホームシアター

✣ 豊富なリスニングモード （33～35ページ）

映画や音楽ソースを多彩な音場モードでサラウンド再生することができます。

✣ ミッドナイトリスニングモード (37ページ)

夜中に映画などを小音量で聴いているときでも大音量で聴いているときの臨場感を味わうことができます。

✣ ラウドネスモード (37ページ)

夜中に音楽などを小音量で聴いているときでも、大音量で聴いているときと同じ効果で味わうことができます。

✣ バーチャルサラウンドバックモード （34ページ）

まるでサラウンドバックチャンネルから音が出ているかのようにデコードします。５本のスピーカーで6.1ch再生のような効果を味わうことができます。

簡単便利！！

✣ QUICK SETUP機能搭載 (12ページ)

複雑な設定を対話式に簡単に設定できます。

✣ マルチコントロールリモコン付属

プリセット機能おいび学習機能を搭載したマルチコントロールリモコンで他社製品も操作できます。

✣ 豊富な接続端子

豊富な接続端子を備え、光デジタル端子や映像のS端子、コンポーネントビデオ端子にも対応しているため、テレビ周りの映像機器を一手に引き受けることができます。

環境に優しく

✣ 省エネルギー設計

本製品は、待機時(スタンバイ時)消費電力を1W以下に抑えた設計となっております。

ホームシアター入門　<基礎知識編>

ホームシアターを簡単に楽しむ前に、まず知っておきたいこと

DVDの標準音声フォーマットは、大きく分けて「**ドルビーデジタル**」と「**DTS**」の2つが現在主流とされています。

● ドルビーデジタルとは．．



DVDの標準音声フォーマットのことです。モノラルやステレオで記録されているソフトもあれば、現在最も主流とされているドルビーデジタル（5.1ch サラウンド）で記録されているソフトもあります。ドルビーデジタル（5.1ch サラウンド）で記録されているソフトとは、5つのチャンネルの個別にそれぞれのシーンに合った音声が記録されていて、サブウーファーから出力される低音も記録されているソフトのことを言います。このソフトを、本機を通して再生することで臨場感あふれるマルチチャンネル再生をお楽しみいただくことができます。

● DTSとは．．



DTSとは、デジタルシアターシステム（Digital Theater Systems）の略で、5.1chのデジタル・サラウンド録音再生方式です。DTSデジタル・サラウンドで記録されたDVDソフトも、ドルビーデジタル（5.1ch サラウンド）で記録されているソフトと同様に5.1chで音声を楽しむことができます。

● DVDソフトの音声記録方式を確かめるには．．

DVDソフトのパッケージを確認してください。（全てのソフトに以下と同じ表示がされているとは限りません。）

ドルビーデジタル5.1chで記録されているソフト

日本語/5.1ch サラウンド 

1.英　語（5.1ch サラウンド）
2.日本語（5.1ch サラウンド） 

次ページ②をご覧ください。

英語音声のみドルビーデジタル5.1chで記録されているソフト

1.英語（5.1ch サラウンド）
2.日本語（2ch サラウンド） 

1.のときは次ページ②を、
2.のときは次ページ③をご覧ください。

ドルビーデジタル5.1chで記録されていないソフト

1.オリジナル(英語)/ ドルビーサラウンド
2.日 本 語 吹 替　/ ドルビーサラウンド

1.日本語（ドルビー・デジタル・ステレオ）
2.英語（ドルビー・デジタル・ステレオ）

次ページ③をご覧ください。

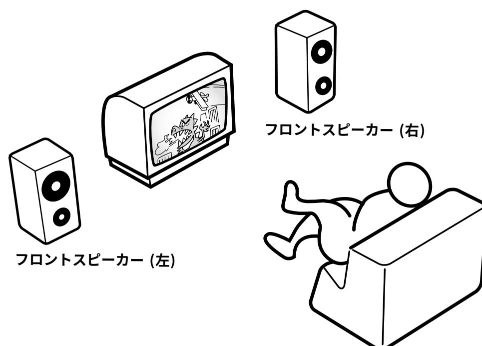
DTS サラウンドで記録されているソフト

日本語（DTS サラウンド） 

次ページ②をご覧ください。

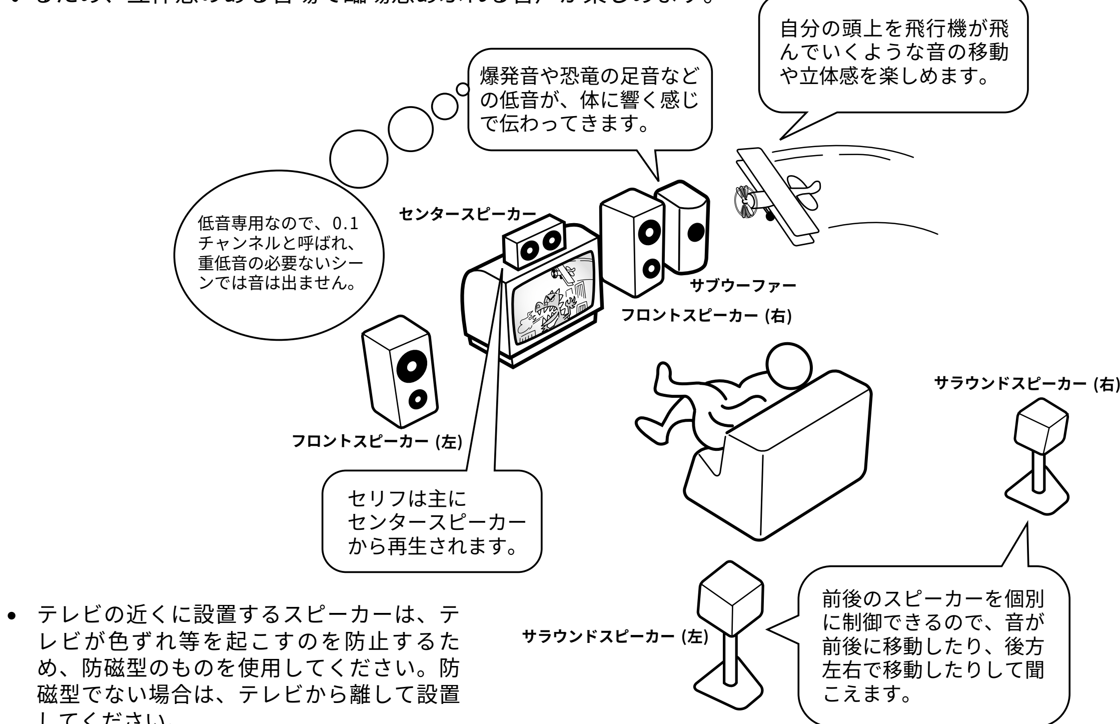
① ステレオ再生とは．．

左右2つのスピーカーから別々の音が再生されます。通常の音楽用CDは、このステレオ2chで録音されていますので、本機のようにスピーカーが5本とサブウーファーが接続されているシステムでも、音はフロントスピーカーからしか再生されません。



② ドルビーデジタル5.1chまたはDTSサラウンド再生とは．．

ドルビーデジタル（5.1chサラウンド）またはDTSサラウンドで記録されているソフトを、全部で5本のスピーカーとサブウーファーから、それぞれ別々の音で再生することです。5.1ch独立で音声が記録されているため、立体感のある音場で臨場感あふれる音声が楽しめます。



- テレビの近くに設置するスピーカーは、テレビが色ずれ等を起こすのを防止するため、防磁型のものを使用してください。防磁型でない場合は、テレビから離して設置してください。

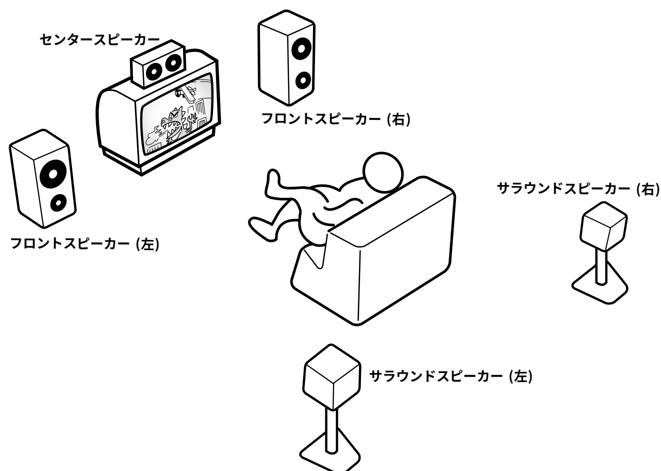


・ サラウンドバックスピーカーを接続することでDTS-ES信号の入ったソースは6.1chで再生することができます。また、本機ではドルビーデジタル（5.1chサラウンド）またはDTSサラウンドで記録されているソフトをマトリクスデコードの7.1chで再生することができます。

③ ドルビープロロジック再生とは．．

DOLBY SURROUND

ソフトのパッケージに、ドルビーサラウンド（DOLBY SURROUND）とかドルビーステレオ（DOLBY STEREO）と表記されているソフトを、5本のスピーカーで再生することです。
ただし、ドルビーデジタル（5.1ch サラウンド）やDTS サラウンドで記録されたソフトとは違い、ドルビーサラウンドやドルビーステレオで記録されているソフトは2チャンネル信号です。この2チャンネル信号からセンター、サラウンド（右、左）の音を作り出します。



LET'S TRY!

さぁ、実際に次ページの<デジタルサラウンドへの近道>で接続、設定してホームシアターを構築してみましょう！

ホームシアター入門 <デジタルサラウンドへの近道>

ここでは 1 から 6 までのステップで、ホームシアターを簡単に楽しむための手順を説明します。
よりよいサラウンドを楽しむためには最適なサラウンドの設定を行ってください。

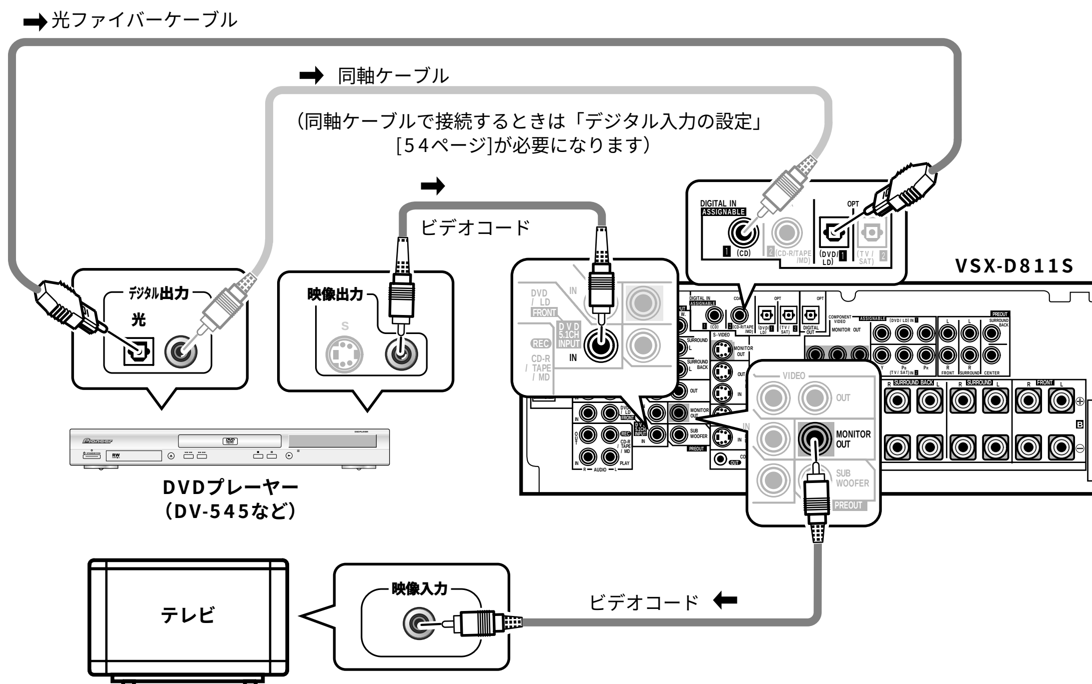
1 DVDプレーヤーとの接続（機器の接続を行う場合、あるいは変更を行う場合には必ず電源を切り、電源コードをコンセントから抜いてください。）

DVDソフトにはドルビーデジタルやDTS といったマルチチャンネル音声が収録されています。これらを再生するためにはデジタル接続が必要となります。

接続は「光デジタル端子で接続する」をご覧ください。お手持ちのDVDプレーヤーに光デジタル出力端子がない場合は同軸ケーブルで接続し、「デジタル入力の設定」（54ページ）をご覧になり設定を行ってください。接続はどちらか一方の接続のみを行ってくだい。**両方の接続を行う必要はありません。**

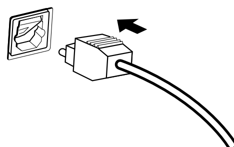
光デジタル端子で接続する

お手持ちのDVDプレーヤーを本機の光デジタル端子で接続する場合は下記の接続を行ってください。
接続の前に、別売のビデオコード2本、光ファイバーケーブル1本をご用意ください。



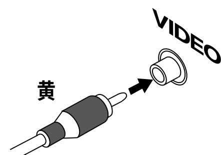
■ 光ファイバーケーブル

- 急な角度に折り曲げないでください。保管するときは、直径が15cm以上になるようにしてください。
- 接続の際は端子の向きを合わせてしっかり奥まで差し込んでください。誤った向きでむりやり挿入すると、端子が変形し、ケーブルを抜いてもシャッターが閉らなくなることがあります。



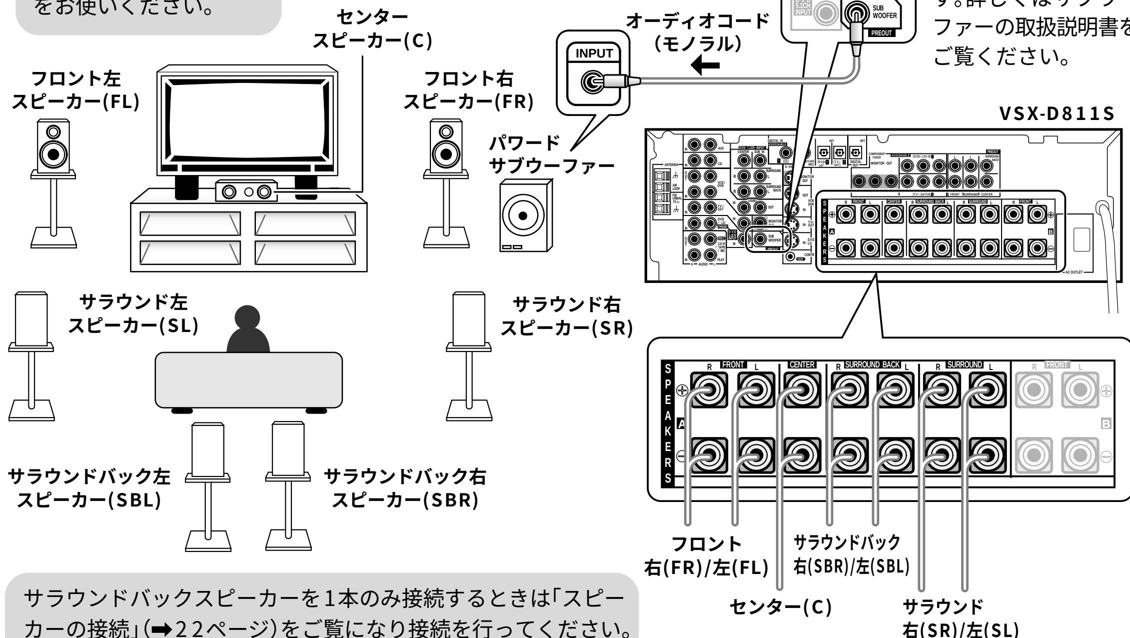
■ビデオコード

一般的な映像用コードで、コンポジットフォーマットの映像信号を伝送します。



2 スピーカーとの接続（機器の接続を行う場合、あるいは変更を行う場合には必ず電源を切り、電源コードをコンセントから抜いてください。）

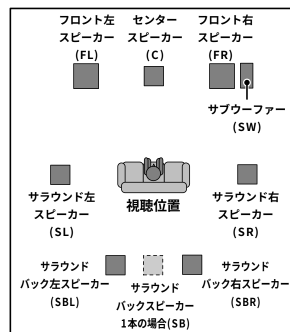
スピーカー7本(フロントL/R、センター、サラウンドL/R、サラウンドバックL/R)と、サブウーファーを接続してください。(本機で最適なサラウンドを楽しむには、スピーカー7 本とサブウーファーを接続することをおすすめします。)接続にはスピーカーに付属のスピーカーコードか市販のスピーカーコードとオーディオコード1本をお使いください。



サラウンドバックスピーカーを1本のみ接続するときは「スピーカーの接続」(➡22ページ)をご覧になり接続を行ってください。

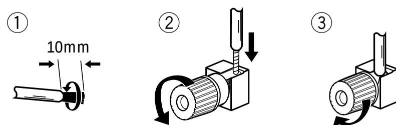
メモ

- 使用するスピーカーは公称インピーダンスが6Ω〜16Ωのものを使用してください。
- 接続するスピーカーの本数に応じて「スピーカーの設定」が必要です。接続に応じたスピーカーの設定がされていないとサラウンド再生がされません。特にセンタースピーカーを接続しない場合は、映画のセリフが出ない場合がありますので「簡単設定」(➡12ページ)または「スピーカーの設定」(➡46ページ)を参照して、スピーカーの設定を必ず行ってください。
- サブウーファーを接続しない場合は、「スピーカーの設定」(➡46ページ)を参照して、フロントスピーカーを大(LARGE)に、「サブウーファーの設定」(➡48ページ)を参照して、サブウーファーを無し(OFF)に設定してください。



上図のようにスピーカーを設置してください。

■SPEAKER(スピーカー)端子

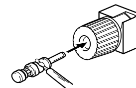


① 線をネジる。

② スピーカー端子をゆるめ、スピーカーコードを差し込む。

③ スピーカー端子を締めつける。

バナナプラグを接続することもできます(詳しくはプラグの説明書をお読みください。)

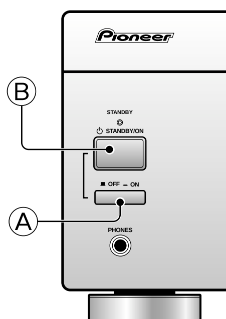




注意

スピーカーコードを接続するときは、芯線をしっかりねじって、スピーカー端子からはみ出していないことを確認してください。芯線がスピーカー端子からはみ出してリアパネルに接触したり、+/ーが接触すると保護回路が働いて電源がスタンバイ状態になることがあります。

3 設定の準備



1 本体の電源コードをつないで、電源を入れる。

Ⓐボタンを押して、スタンバイインジケーターの点灯を確認します。 スタンバイインジケーターが点灯している状態でⒷボタンを押して、電源をONにします。

2 テレビの電源を入れ、テレビの入力切換を本機の出力映像が表示されるように設定する。

4 DVDのサラウンド再生

1 DVDプレーヤーの電源をONにします(本機とテレビの電源がONであることも確認します)。

2 INPUT SELECTORを回して、本機の表示をDVD/LDにします。（ディスプレイ表示を下図の状態にします）

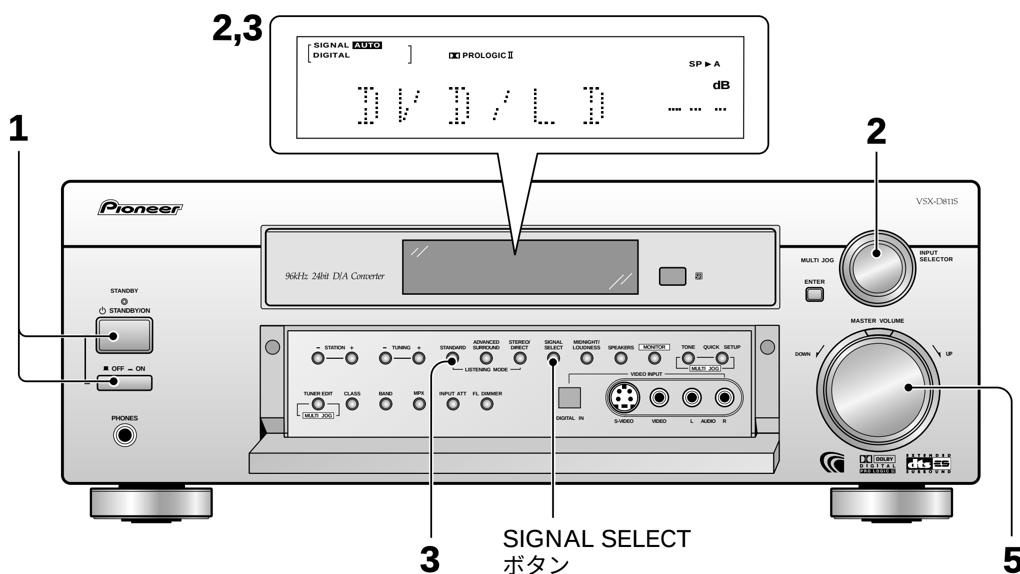
SIGNAL SELECT表示がDIGITAL(AUTO)になっていることを確認してください。表示がANALOGになっていたらSIGNAL SELECTボタンでDIGITAL(AUTO)に切り換えます。

3 ◻◻PRO LOGICⅡインジケーターが点灯していることを確認します。

点灯していないときはSTANDARDボタンを押してインジケーターを点灯させます。

4 DVDを再生します。

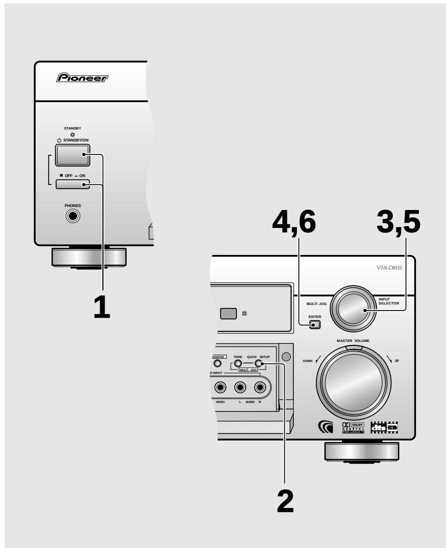
5 適当な音量になるまでMASTER VOLUMEをUP方向へ回します。



5 簡単設定(QUICK SETUP SYSTEM)

以下の手順の通りに設定を行うことで、快適なリスニング環境を簡単に設定することができます。簡単設定の中にあるルームタイプの設定ではS、M、Lの中からご自分の部屋のスピーカー配置に近いタイプを選ぶことで、スピーカーから聴こえる音のタイミングや大きさのズレを補正し、適切なサラウンド効果が得られるようなります。工場出荷時は「M」に設定されています。

メモ 簡単設定を行った時点で「システムセットアップ」(➡42〜54ページ)の設定内容はリセットされますのでご注意ください。



1 **本機の電源を入れる。**

2 QUICK SETUP

簡単設定モードにする。

スピーカーの選択になります。

3 MULTI JOG

回して選ぶ

接続しているスピーカーの本数を選ぶ。

マルチジョグを回すたび以下のように切り換わります。

3.0ch ↔ 3.1ch ↔ 4.0ch ↔ 4.1ch ↔ 5.0ch ←
7.1ch ↔ 7.0ch ↔ 6.1ch ↔ 6.0ch ↔ 5.1ch ←

それぞれの詳細は以下の通りです。

	フロントスピーカー	センタースピーカー	サラウンドスピーカー	サラウンドバックスピーカー	サブウーファー
3.0ch	○	○	−	−	−
3.1ch	○	○	−	−	○
4.0ch	○	−	○	−	−
4.1ch	○	−	○	−	○
5.0ch	○	○	○	−	−
5.1ch	○	○	○	−	○
6.0ch	○	○	○	1本	−
6.1ch	○	○	○	1本	○
7.0ch	○	○	○	2本	−
7.1ch	○	○	○	2本	○

−(無し)
○(有り)

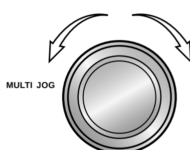
メモ

・ルームタイプ設定機能は､各スピーカーまでの距離(➡49～51ページ)を切り換えています。
これらの項目を更に細かく設定することにより､より快適なサラウンド空間をつくり出すこともできますが､これらの項目の設定と､簡単設定では､後から行った設定での値が優先されます。

4 

スピーカーの本数を決定する。

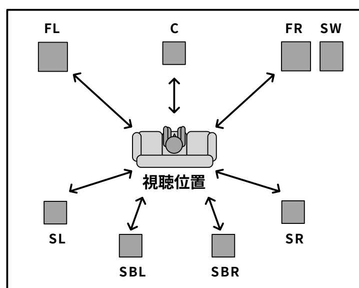
ルームタイプの選択になります。

5 

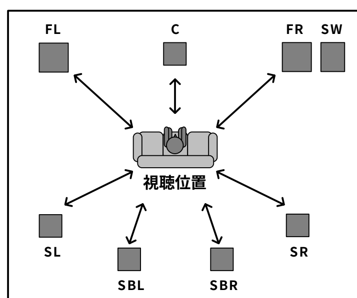
ルームタイプを選ぶ。

マルチジョグを回すたびS、M、Lが切り換わります。詳しくは前ページ説明をご覧ください。

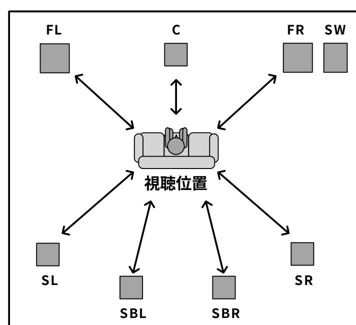
S(サラウンドスピーカーが近いとき)



M(全てのスピーカーがほぼ等距離のとき)



L(サラウンドスピーカーが遠いとき)



ルームタイプ	フロントスピーカーまでの距離	センタースピーカーまでの距離	サラウンドスピーカーまでの距離	サラウンドバックスピーカーまでの距離
S	3.6 m	3 m	1.8 m	0.9 m
M (工場出荷時の設定)	3.6 m	3 m	2.1 m	1.5 m
L	3.6 m	3 m	2.7 m	2.1 m

メモ

・簡単設定終了後に､「スピーカー出力レベルの調整」(➡55ページ)を行うことで､より快適なリスニング環境を設定することができます。

6 

簡単設定を決定する。

ディスプレイに｢CONFIRM YOUR SELECTION｣と表示され、スピーカーの本数とルームタイプの設定確認が表示されます。設定確認の表示が終了後、簡単設定は自動的に終了します。

6 より快適にサラウンドを楽しむために

1 いろいろな音場効果を加えることができます

「いろいろな使い方」をご覧になってリスニングモードを選択したり（➡33～35ページ)、便利な音声再生用機能をお好みで選択してみてください（➡37～38ページ)。

2 快適にお使い頂くために細やかな設定を行うこともできます

細やかな設定（システムセットアップ）をご覧になり（➡42～55ページ）、必要に応じて細やかな設定を行ってください。

リモートコントロール

アンプコントロール部

本機を操作するときに使います。

SOURCE ⏻ ボタン
他機器の電源をONまたはOFF（スタンバイ状態）にします。

数字/アンプ操作ボタン
TEST TONE：テストトーンを使って各チャンネルのスピーカーレベルを調整するときに使います。
INPUT ATT：アナログ信号が入力されているとき、入力信号のレベルが高すぎて音が歪んでいるときに押すと聴きやすくなります。
FL DIMMER：表示部の明るさを調整します。
CH SELECT：テストトーンを使わずに、手動でチャンネルを切り換えて各チャンネルのスピーカーレベルを調整するときに使います。
LEVEL＋/－：スピーカーレベル（CHレベル）の調整モードで、各チャンネルのスピーカーレベルを調整します。
EFFECT＋/－：スピーカーエフェクトレベルを調整します。

REMOTE SETUPボタン（60〜67ページ）
いろいろなリモコンの設定を行います。

LEDランプ
リモコンから信号を発信しているときに点灯します。

AVアンプ ⏻ ボタン
本機の電源をONまたはOFF（スタンバイ状態）にします。

MULTI CONTROLボタン
本機の入力を切り換えます。また他機器を操作するときの操作モードを切り換えます。

AMPボタン
リモコンをアンプ操作モードにします。

AMP CONTROLボタン
STANDARD：マルチチャンネル信号はそのまま忠実にデコード再生し、2チャンネル信号はドルビープロ ロジックIIでデコードするのでサラウンド再生をしたいときに効果的です。
ADV.SURR.：パイオニアオリジナルのサラウンドモードです。5つのモードから好みの音場を選択することができます。
STEREO：あらゆる入力信号をステレオ再生（左右2つのスピーカーのみでの再生）します。
INPUT SEL.：入力を切り換えます。
SIGNAL SEL：デジタルとアナログの入力を切り換えます。
MIDNIGHT/LOUDNESS：ミッドナイトリスニングモードやラウドネスモードをONにすると、音量を下げて映画などを楽しむ場合などでも、サラウンド効果が最適なレベルに自動調整されます。
MUTE：音量を一時的に最小にします。

チューナーコントロール部

チューナーを操作するボタンです。本機のチューナーをこれらのボタンで操作するには、上記「アンプコントロール部」のMULTI CONTROLボタンで「TUNER」を押します。
DVDやCDなどの他機器の操作については「リモコンによる他機器の操作」（➡60〜67ページ）をご覧ください。

MPXボタン（57ページ）
モノラル受信とステレオ受信を切り換えます。

BANDボタン（56ページ）
AM放送とFM放送を切り換えます。

CLASSボタン（57〜59ページ）
メモリークラスA、B、Cのいずれかを選びます。

D.ACCESSボタン
数字ボタンを使ってダイレクトに放送局を受信します。

T.EDITボタン（58ページ）
放送局を記憶したり、放送局に名前をつけます。

DISPLAYボタン（58ページ）
入力がチューナーのときに周波数とメモリーさせた名前を切り換えます。

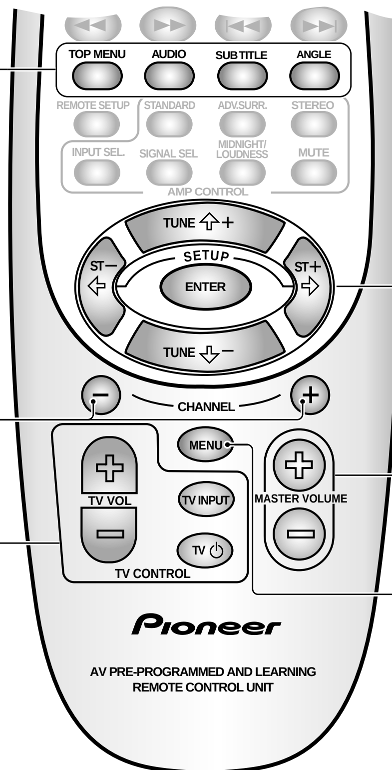
TVコントロール部や他機器/アンプコントロール部

TVや他機器/本機を操作するときに使います。
お手持ちのテレビをTV CONTROLボタンで操作するには、MULTI CONTROLボタンの「TVC」にお手持ちのテレビのプリセットコードを割り当ててください。（60～62ページ）
お手持ちのDVDをDVD CONTROLボタンで操作するには、MULTI CONTROLボタンの「DVD」にお手持ちのDVDのプリセットコードを割り当ててください。（60～62ページ）

DVD CONTROLボタン（67ページ）
リモコンがDVD操作モードのときにDVDプレーヤーを以下のように操作することができます。
TOP MENU：DVDプレーヤーのトップメニュー画面を表示します。
AUDIO：ディスクに記録されている音声を選択します。
SUB TITLE：ディスクに記録されている字幕を選択します。
ANGLE：ディスクに記録されているアングルを選択します。

CHANNNEL＋/－ボタン（67ページ）
リモコンがTVやVCRなどの操作モードのときにTVやVCRなどのチャンネルを変えることができます。

TV CONTROLボタン（67ページ）
MULTI CONTROLボタンの「TVC」にプリセットコードを割り当てられたTVの操作ができます。リモコンがアンプ操作モードや他機器の操作モードのときでも操作することができます。
TV VOL：TVの音量を調節するとき押します。
TV INPUT：TVの入力を切り換えるときに押します。
TV ⏻：TVの電源をONまたはOFF（スタンバイ状態）にします。



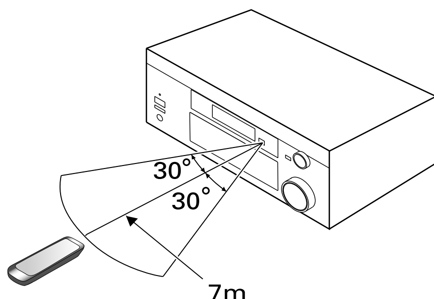
↑/↓/←/→/ENTERボタン
リモコンがアンプ操作モードのときは、セットアップで項目の選択、決定を行います。
リモコンがTUNER操作モードのときは、放送局の受信やステーションメモリークラスの選択などに使います。

MASTER VOLUMEボタン
本機の音量を調節するとき押します。

MENUボタン（67ページ）
DVDやTVなどのメニュー画面を表示させます。リモコンをその機器の入力にしてから押します。

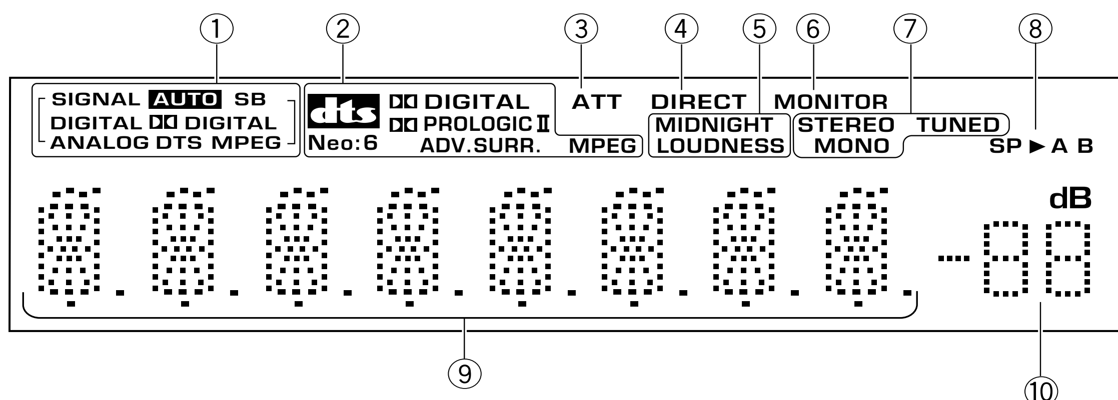
リモコンの操作範囲

本機をリモコンで操作するときは、リモコンをフロントパネルのリモコン信号受光部に向けてください。



- リモコンと本機との間に障害物があったり、リモコン受光部との角度が悪いと操作ができない場合があります。
- リモコン受光部に直射日光や蛍光灯などの強い光が当たると誤動作することがあります。
- 赤外線を発射する機器の近くで本機を使用したり、赤外線を利用したほかのリモコン装置を使用したりすると、本機が誤動作することがあります。逆にこのリモコンを操作すると、他の機器を誤動作させることもあります。

ディスプレイ



① SIGNAL SELECTインジケーター

DIGITAL :
デジタル音声信号が選択されているとき点灯します。

ANALOG :
アナログ音声信号が選択されているとき点灯します。

AUTO :
SIGNAL SELECTの設定をAUTOに設定しているときに点灯します。アナログ信号よりもデジタル信号を優先します。

DD DIGITAL :
ドルビーデジタル信号が入力されると点灯します。

DTS :
DTS信号が入力されると点灯します。

MPEG :
MPEG信号が入力されると点灯します。

SB :
EX、ES等の6.1ch検出信号が入力されると点灯します。

② デコードインジケーター

DTS :
STANDARDモードがONのときにDTS信号が入力されると点灯します。

Neo:6 :
Neo:6処理をしているときに点灯します。

DD DIGITAL :
ドルビーデジタル5.1ch処理をしているときに点灯します。

DD PROLOGICII :
ドルビープロロジックII処理をしているときに点灯します。

ADV.SURR :
ADVANCED SURROUND処理をしているときに点灯します。

MPEG :
MPEG信号を処理しているときに点灯します。

③ ATTインジケーター
INPUT ATTがONのときに点灯します(アナログ信号を選択している場合のみ効果があります)。

④ DIRECTインジケーター (P38)
ダイレクト再生モードが ON のときに点灯します。

⑤ MIDNIGHTインジケーター (P37)
ミッドナイトリスニングモードが ON のときに点灯します。

LOUDNESSインジケーター (P37)
ラウドネスモードがONのとき点灯します。

⑥ MONITORインジケーター (P40)
MONITORモードがONのときに点灯します。

⑦ TUNERインジケーター (P56～59)

STEREO :
ステレオで受信しているときに点灯します。

MONO :
MPXボタンを押してFM受信をモノラルに設定したときに点灯します。

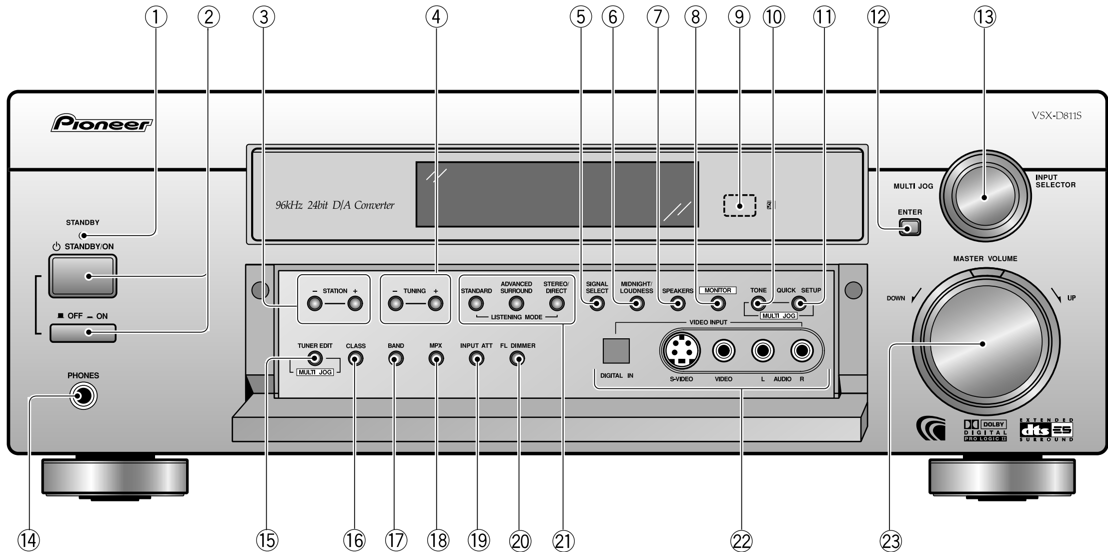
TUNED :
ラジオ放送を受信しているときに点灯します。

⑧ スピーカーインジケーター
現在選択されているスピーカーシステムが点灯します。

⑨ キャラクター表示部

⑩ VOLUME(音量レベル)表示部
現在の主音量レベルを表示します。音量レベルは、電源がオフにされても保持されています。－－－ dBでMINレベルを表わし、－0 dBでMAXレベルを表わします。

フロントパネル



① **STANDBYインジケーター**
本機がスタンバイモードにあるとき点灯します。

② **主電源 ■ OFF ▬ ONボタン**
本機を使用するときは、最初にこのスイッチをONにしてください。
⏻STANDBY/ONボタン
本機の電源を入れたり、スタンバイモードにするときに押します。

③ **STATION(+/−)ボタン (P57〜59)**
記憶した放送局を呼び出すときに押します。

④ **TUNING(+/−)ボタン (P56)**
放送局を選択します。

⑤ **SIGNAL SELECTボタン (P32)**
デジタルとアナログの入力を切り換えます。

⑥ **MIDNIGHT/LOUDNESSボタン (P37)**
ミッドナイトリスニングモードやラウドネスモードのON/OFFを選択するときに押します。

⑦ **SPEAKERSボタン (P23)**
スピーカーシステムを選択するときに押します。

⑧ **MONITORボタン (P40)**

⑨ **リモコン受光部**
本機をリモコンで操作する場合は、ここにリモコンを向けます。

⑩ **TONEボタン (P38)**
トーンコントロールを調整するときに押します。押すたびにBASSとTREBLEが切り換わります。調整はTONEボタンを押した後にMULTI JOGとENTERボタンで行います。

⑪ **QUICK SETUPボタン (P12)**
QUICK SETUPを行うときに押します。設定はQUICK SETUPボタンを押した後にMULTI JOGとENTERボタンで行います。

⑫ **ENTERボタン**
設定項目などの決定を行います。

⑬ **INPUT SELECTOR/MULTI JOG**
入力を選択します。また、TONE、QUICK SETUP、TUNER EDITなどの設定にも使用します。

⑭ **PHONES(ヘッドホン)端子**
ヘッドホンを差し込む端子です。

⑮ **TUNER EDITボタン (P57、58)**
放送局を記憶するときに押します。

⑯ **CLASSボタン (P57〜59)**
放送局を記憶、呼び出す時の分類を変更する時に押します。

⑰ **BANDボタン (P56)**
AMとFMを切り換えるときに押します。

⑱ **MPXボタン (P57)**

⑲ **INPUT ATTボタン (P14)**
アナログ信号が入力されているとき、入力信号のレベルが高すぎて音が歪んでいるときに押すと聴きやすくなります。

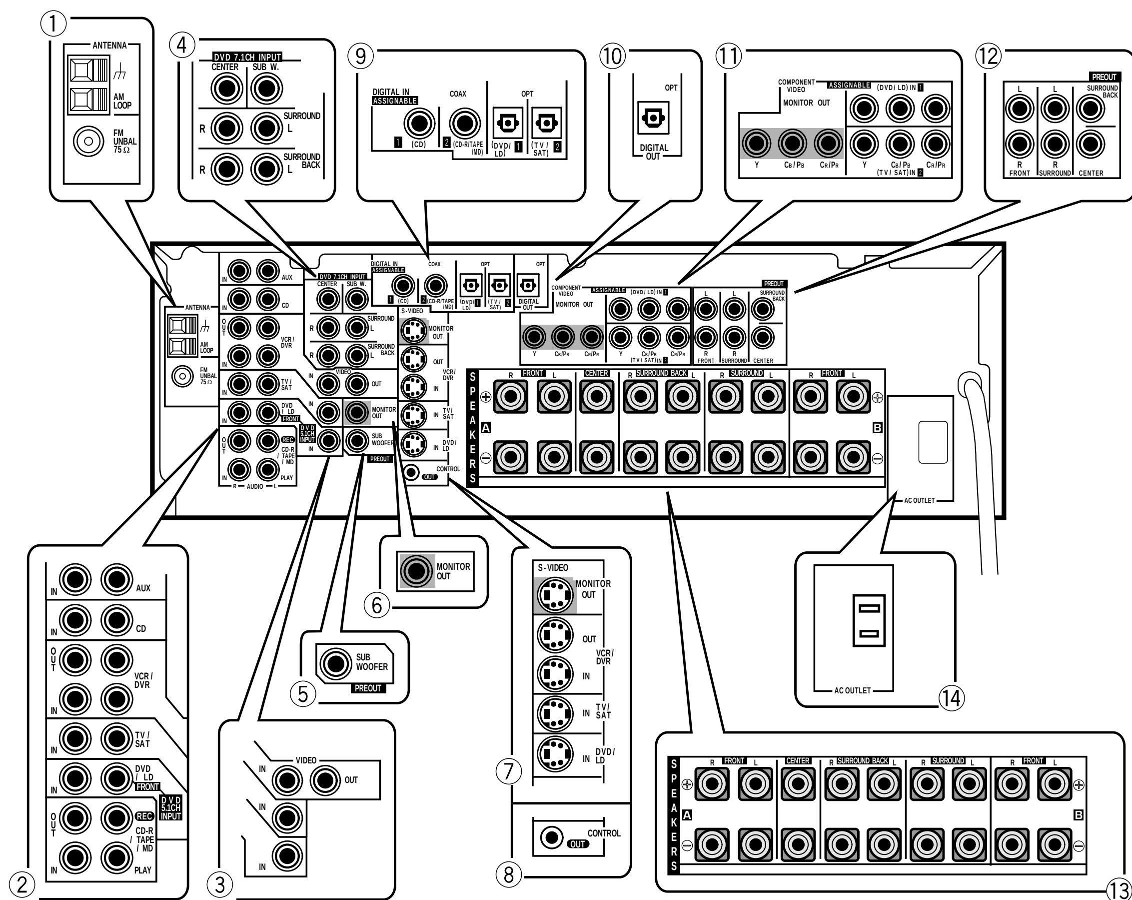
⑳ **FL DIMMERボタン (P41)**
表示部の明るさを調整します。

㉑ **リスニングモード選択ボタン (P33〜35)**
リスニングモードを選択するときに押します。

㉒ **VIDEO INPUT**
VIDEOファンクション用の入力端子です。

㉓ **MASTER VOLUME**
本機の音量を調節するとき回します。

後面部(リアパネル)



① **アンテナ端子**
付属のAM/FMアンテナを接続します。

② **アナログ音声入出力端子**
アナログ機器の入出力端子と接続します。

③ **VIDEO入出力端子**
ビデオ機器のアナログ映像入出力端子と接続します。

④ **DVD 7.1CH INPUT端子**
5.1CHまたは7.1CHアナログ出力の付いたDVDプレーヤーと接続します。FRONT L/Rは、②のDVD/LD端子に接続します。

⑤ **SUB WOOFER PREOUT端子**
パワーアンプ内蔵型サブウーファーと接続します。

⑥ **MONITOR OUT端子**
③のVIDEO入力端子に入力された信号を出力します。

⑦ **S-VIDEO MONITOR OUT端子**
以下のS-VIDEO入力端子に入力された信号を出力します。

S-VIDEO入出力端子
ビデオ機器のS-VIDEO入出力端子と接続します。

⑧ **コントロール出力端子**
コントロール端子の付いた複数のパイオニア製品を1つの機器のリモコン受光部を使って、集中コントロールするための端子です。

⑨ **デジタル入力端子**
デジタル出力を持つ機器と接続します。端子に表示された機器と違う機器を接続するときはデジタル入力の設定が必要です。

⑩ **デジタル出力端子**
デジタル入力を持つ機器と接続します。

⑪ **COMPONENT VIDEO 入力端子**
COMPONENT VIDEO出力を持つ機器と接続します。端子に表示された機器と違う機器を接続するときはコンポーネントビデオ入力の設定が必要です。

COMPONENT VIDEO MONITOR OUT端子
COMPONENT VIDEO 入力端子に入力された信号を出力します。

⑫ **PREOUT端子**
他のパワーアンプと接続します。

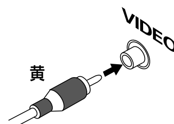
⑬ **スピーカー端子**
各チャンネル用のスピーカーと接続します。

⑭ **AC OUTLET**
他機器の電源コードを接続します。

接続コードについて

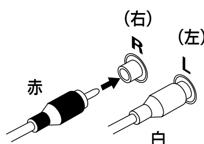
■ビデオコード

一般的な映像用コードで、コンポジットフォーマットの映像信号を伝送します。



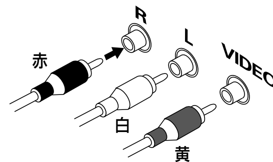
■オーディオコード

オーディオ機器の接続に使用します。



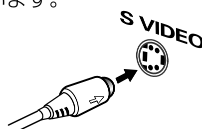
■オーディオ/ビデオコード

オーディオコードとビデオコードの一体化したもの。



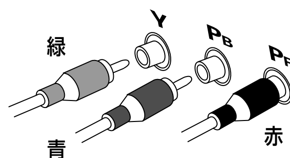
■Sビデオケーブル

映像信号のY とC の2 つの信号(色差信号)からなり、コンポジットよりも高品位な映像品質を楽しむのに適しています。



■コンポーネント映像ケーブル

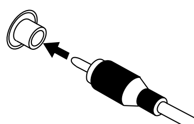
映像信号のY、C_B/P_B、C_R/P_Rの3つの信号(色差信号)からなり、S ビデオケーブルよりも高品位な映像品質を楽しむのに適しています。(ビデオコード3本での接続も可能です)



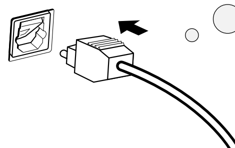
■同軸ケーブル/光ファイバーケーブル

デジタル機器の接続に使用します。

同軸ケーブル
(またはオーディオ/ビデオコード)



光ファイバーケーブル

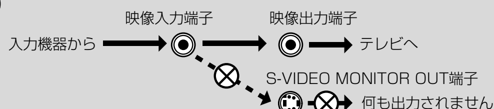


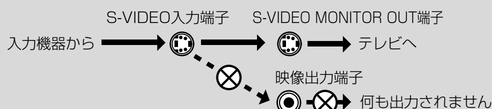
- 接続の際は端子の向きを合わせてください。誤った向きでむりやり挿入すると、端子が変形し、ケーブルを抜いてもシャッターが閉らなくなることがあります。
- 長さは3m以下のものを使用してください。
- プラグにホコリが付着したときは、柔らかい布で拭いてから接続してください。

映像信号について

テレビとの接続で映像信号は各入力機器と同じタイプのコードを使用してください。S-VIDEO入力端子に入力された信号はS-VIDEOMONITOR OUT端子からのみ出力され、映像入力端子に入力された信号は映像出力端子からのみ出力されます。同じようにCOMPONENT VIDEO 入力端子に入力された信号はCOMPONENT VIDEO MONITOR OUT 端子からのみ出力されます。

例)





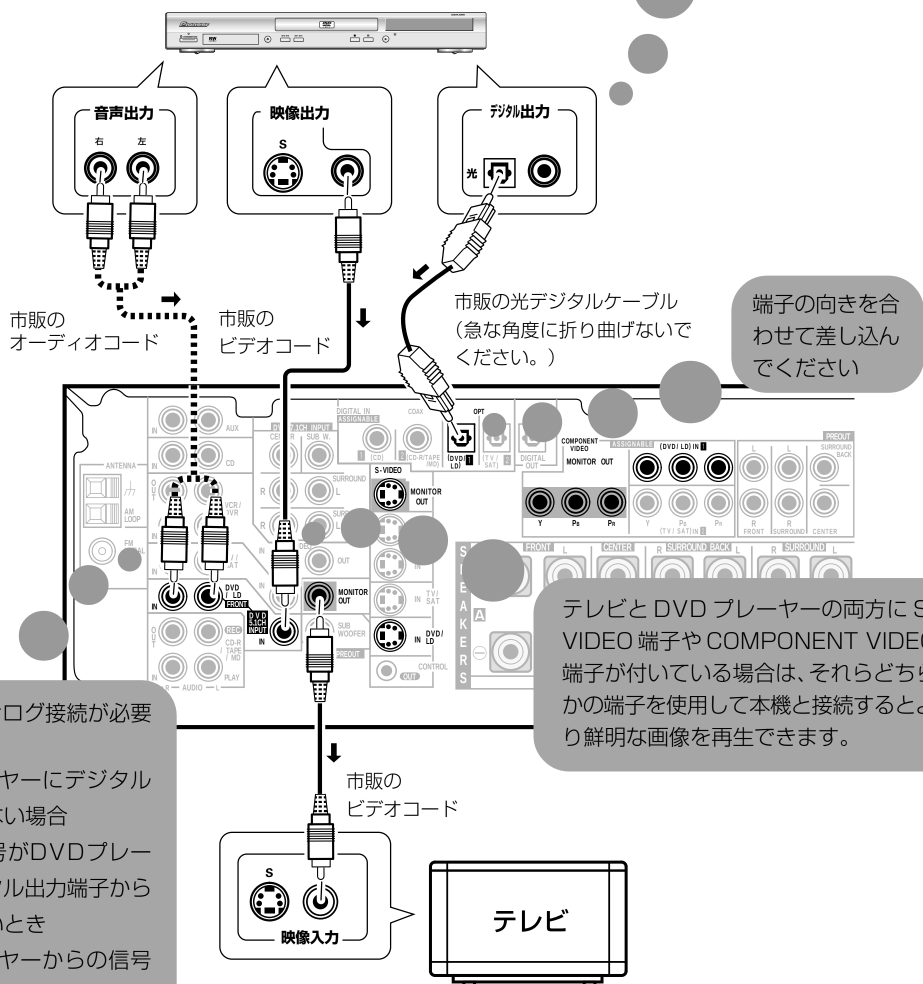
ただしテレビによっては、S-VIDEO 入力と映像入力の両方を接続していると、信号の有り無しに関わらず常にS-VIDEO 入力が優先され、本機と映像入力端子でのみ接続している機器の映像を見ることができない場合があります。詳しくはテレビの取扱説明書をご覧ください。

DVDプレーヤーとTV(モニター)の接続



機器の接続を行う場合、あるいは変更を行う場合には必ず電源を切り、電源コードをコンセントから抜いてください。

ドルビーデジタル、DTS信号を再生するにはデジタル接続が必要です。



テレビとDVDプレーヤーの両方にS-VIDEO端子やCOMPONENT VIDEO端子が付いている場合は、それらどちらかの端子を使用して本機と接続するとより鮮明な画像を再生できます。

次の場合はアナログ接続が必要です。
- DVDプレーヤーにデジタル出力端子がない場合
- 聴きたい信号がDVDプレーヤーのデジタル出力端子から出力できないとき
- DVDプレーヤーからの信号をCD-R/TAPE/MDまたはVCR/DVR出力端子から出力したいとき

メモ

- S-VIDEO端子を使って接続する場合は、DVDプレーヤーの「S映像出力端子」と本機の「S-VIDEIO DVD/LD IN端子」を接続し、テレビの「S映像入力端子」と本機の「S-VIDEIO MONITOR OUT端子」を接続します。
- COMPONENT VIDEO端子を使って接続する場合は、DVDプレーヤーの「COMPONENT VIDEO映像出力端子」と本機の「COMPONENT VIDEO (DVD/LD) IN 1 端子」を接続し、テレビの「COMPONENT VIDEO映像入力端子」と本機の「COMPONENT VIDEO MONITOR OUT端子」を接続します。

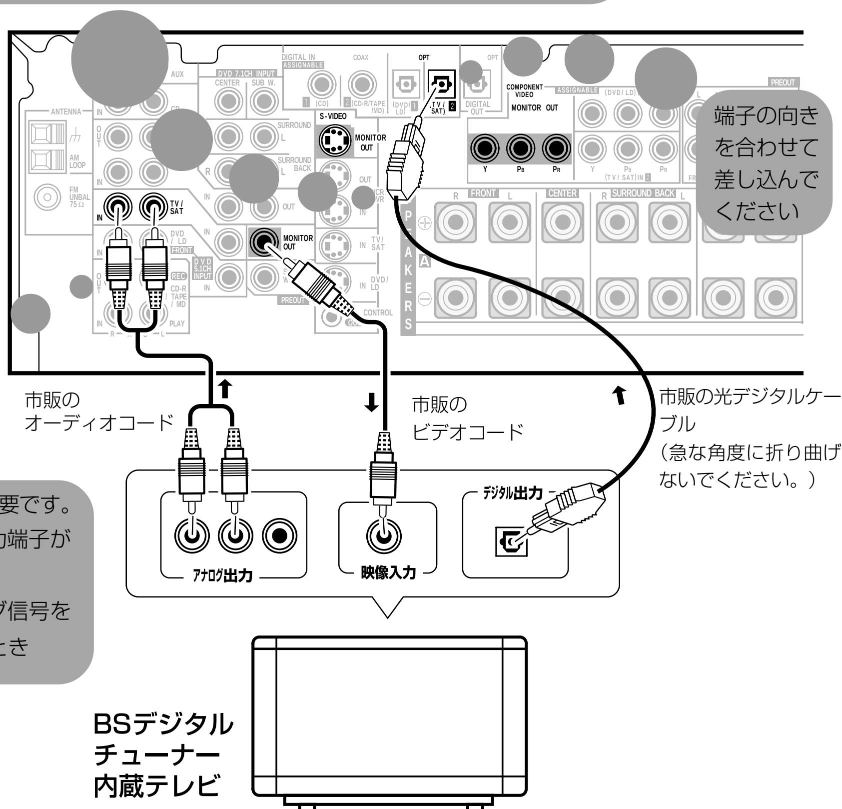
TVまたは衛星チューナーの接続



注意 機器の接続を行う場合、あるいは変更を行う場合には必ず電源を切り、電源コードをコンセントから抜いてください。

BSデジタルチューナー内蔵テレビの場合

MPEG-2 AAC信号を再生するにはデジタル接続が必要です。



次の場合はアナログ接続が必要です。
- チューナーにデジタル出力端子がない場合
- 地上波放送などのアナログ信号を本機を通して楽しみたいとき

BSデジタルチューナー内蔵テレビ

メモ

- S-VIDEO端子を使って接続する場合は、BSデジタルチューナー内蔵テレビの「S映像入力端子」と本機の「S-VIDEIO MONITOR OUT端子」を接続します。
- COMPONENT VIDEO端子を使って接続する場合は、BSデジタルチューナー内蔵テレビの「COMPONENT VIDEO映像入力端子」と本機の「COMPONENT VIDEO MONITOR OUT端子」を接続します。

スピーカーの接続



注意 **機器の接続を行う場合、あるいは変更を行う場合には必ず電源を切り、電源コードをコンセントから抜いてください。**

- センタースピーカー、サラウンドスピーカー、サラウンドバックスピーカー、サブウーファーのいずれかを接続しない場合は、設定（➡46〜48ページ）が必要になります。
- スピーカーは公称インピーダンスが6Ω〜16Ωのものを使用してください。
- 本機とスピーカーの⊕端子および⊖端子どうしを正しく接続してください。
- サラウンドバックスピーカー端子にはアンプを内蔵していないサブウーファーを接続することも可能です。その場合は「サラウンドバックスピーカーの設定」（➡47ページ）で「SB SUBWF」を選択して下さい。

テレビ（センタースピーカーとして使用する場合）

AUDIO IN

テレビをセンタースピーカーとして使用する場合は、本機のPREOUT CENTER端子とテレビのオーディオ入力端子を接続してください。この場合は上図のセンタースピーカーは接続しません。接続するテレビの取扱説明書もご覧ください。

市販のオーディオコード

市販のスピーカーコード

INPUT

パワーアンプ内蔵型サブウーファー

フロント右スピーカー

フロント左スピーカー

サラウンドバック右スピーカー

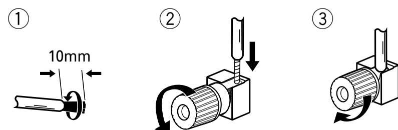
サラウンドバック左スピーカー

サラウンド右スピーカー

サラウンド左スピーカー

センタースピーカー

■SPEAKER（スピーカー）端子

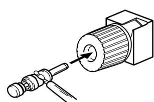


① 線をネジる。

② スピーカー端子をゆるめ、スピーカーコードを差し込む。

③ スピーカー端子を締めつける。

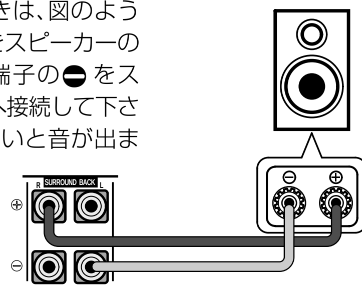
バナナプラグを接続することもできます（詳しくはプラグの説明書をお読みください。）



メモ

- サラウンドバックスピーカーを1本のみ接続するときは、図のように本機R端子の⊕をスピーカーの⊕端子へ、本機L端子の⊖をスピーカーの⊖端子へ接続して下さい。この接続をしないと音が出ません。

サラウンドバックスピーカー（またはサブウーファー）

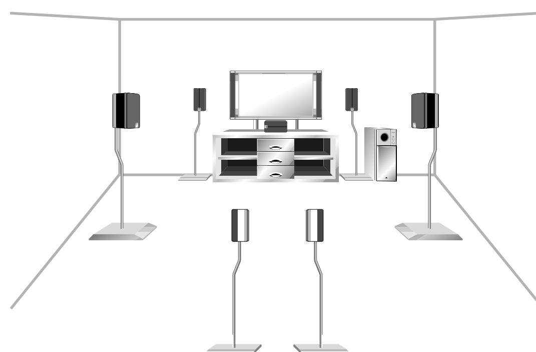


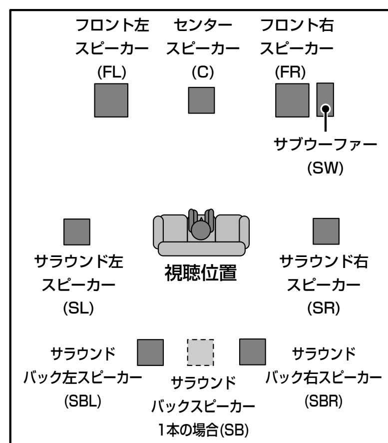
メモ

スピーカーコードの芯線をよじるときは、ばら線が束からはみ出さないように注意してよじってください。はみだした線があると、その線が隣りのチャンネルのスピーカーコードやリアパネル（後面の金属部分）にショート（接触）し、本機の電源が入らない場合があります。

スピーカーの配置

サラウンド効果を最大限に引き出すため、下図のようにスピーカーを配置してください。





メモ

- 左右のスピーカーはテレビから等距離になるように設置してください。
- テレビの近くに設置するスピーカーは、テレビが色ずれ等を起こすのを防止するため、防磁型のものを使用してください。防磁型でない場合は、テレビから離して設置してください。
- センタースピーカーはテレビの上側または下側に置き、センターチャンネルの音がテレビと同じ位置に配置されるようにしてください。
- サラウンドスピーカー、サラウンドバックスピーカーは耳の高さからやや上方に設置すると効果的です。
- サラウンドスピーカー、サラウンドバックスピーカーをフロントスピーカーとセンタースピーカーから極端に離して設置すると、サラウンド効果が十分に発揮されません。
- サブウーファーは前方で、フロントスピーカーまでの距離と等距離になる位置に置くことをおすすめします。

ご注意:

センタースピーカーをテレビの上に置くときは、適切な方法で固定してください。固定しないと地震などの外部の振動により、スピーカーがテレビから落下してケガをしたり、スピーカーを破損する原因となります。

スピーカーBシステムについて

本機はAとBの2組のスピーカーを接続できます。スピーカーシステム「A」、「B」、「A+B」の選択は各ファンクションごとに設定することができます。スピーカーシステムの切り換えはSPEAKERSボタンで行います。

- スピーカー「A」を選択したときはサラウンド再生に対応し、最大6.1チャンネルのスピーカーでお楽しみ頂けます。この場合はSTANDARDボタンやADVANCEDボタンを押してください。
- スピーカー「B」または「A+B」を選択したときはサラウンド再生に対応しません。スピーカー「B」を選択したときは自動的にステレオモードとなりスピーカーBからのみ音が出ます。このとき、フロントチャンネル以外の音声はダウンミックスされ、スピーカーBより出力されます。「A+B」を選択したときも、同じようにステレオモードになります。サブウーファーを除く他のチャンネルの音声はすべてダウンミックスされ、スピーカーAとBから出力されます。

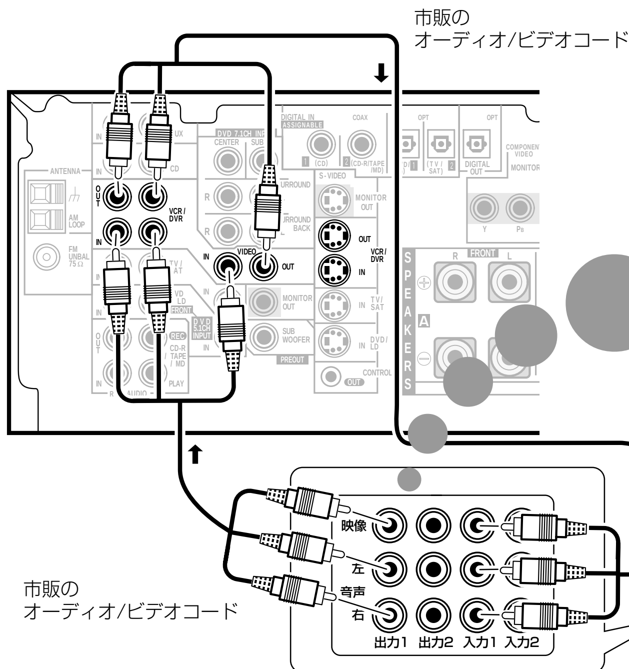
メモ

- SPEAKERSボタンでスピーカーシステムを切り換えた場合、自動的にステレオモードになります。サラウンド再生を行うときはSTANDARDボタンまたはADVANCEDボタンを押します。

ビデオ機器の接続

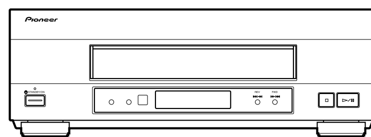


機器の接続を行う場合、あるいは変更を行う場合には必ず電源を切り、電源コードをコンセントから抜いてください。



VCR/DVR OUT端子を通して本機を録画(録音)用のセレクターとして使用するには

VCR/DVR OUT端子からは、デジタル接続の有無に関わらず、各映像入力端子に入力された映像信号と、各音声入力端子に入力された音声信号が、そのまま何の加工もされずに出力されます(リスニングモードなどの本機の各機能の効果も同様に盛り込まれません)。入力機器と本機を、デジタル接続やS映像ケーブルだけで接続している場合は、ビデオコードやオーディオコードでも接続してください。

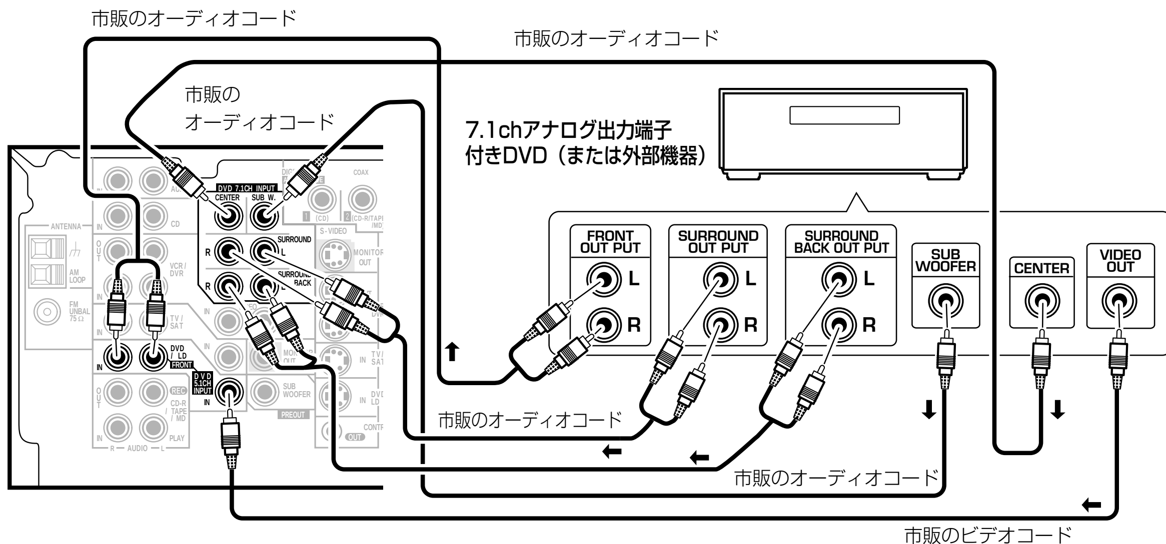


ビデオデッキ、
DVDレコーダーなど



・S-VIDEO端子を使って接続する場合は、ビデオデッキなどの「S映像出力端子」と本機の「S-VIDEIO VCR/DVR IN端子」を接続し、ビデオデッキなどの「S映像入力端子」と本機の「S-VIDEIO VCR/DVR OUT端子」を接続します。

DVD 7.1chアナログ接続





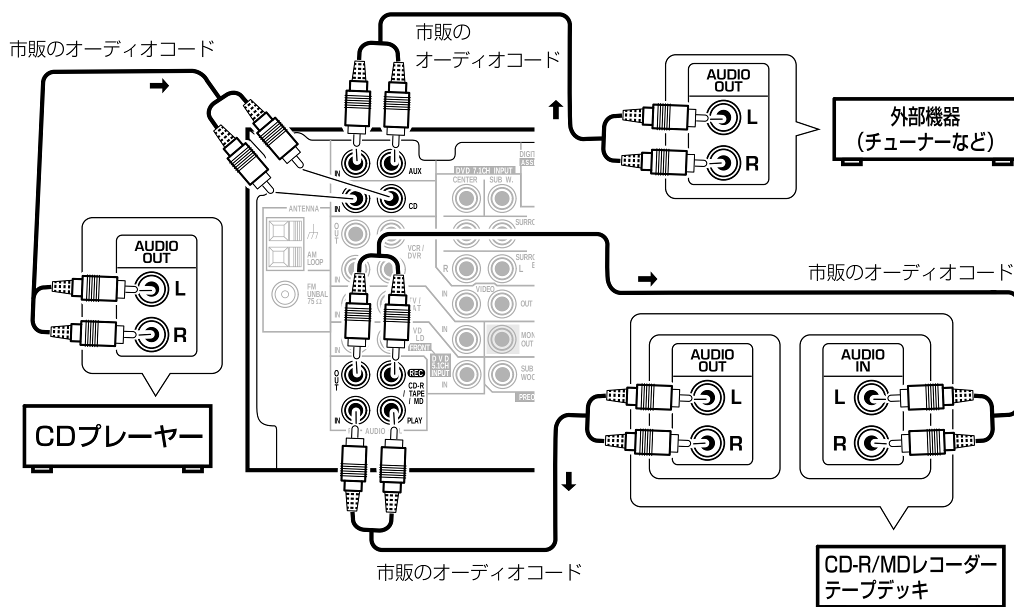
「マルチチャンネルサラウンドバック入力1ch/2ch設定」(➡52ページ)で「SB 1ch IN」に設定したときは、本機のDVD7.1CH INPUTのサラウンドバック端子のR ch側に接続します。

オーディオ機器の接続

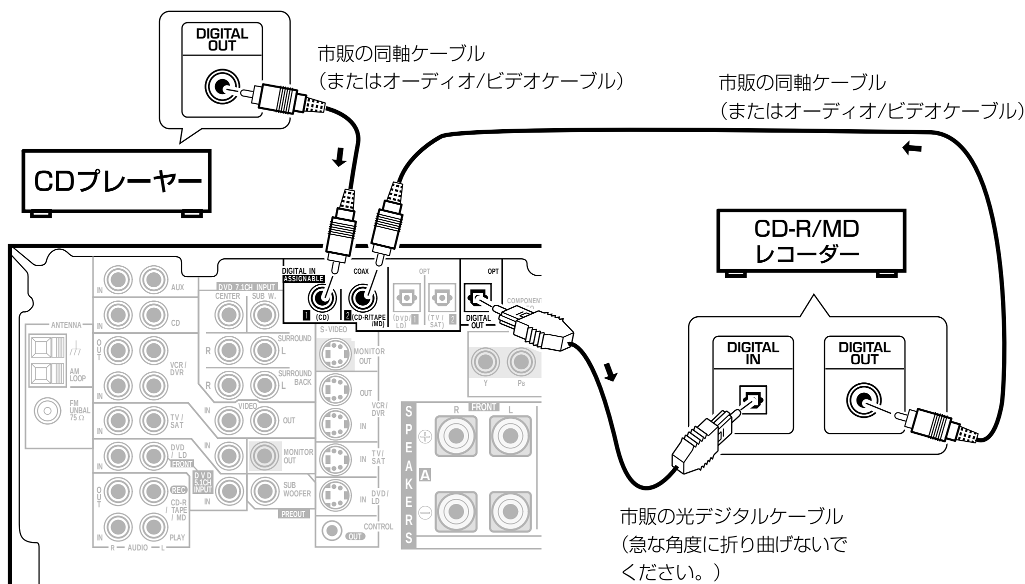


機器の接続を行う場合、あるいは変更を行う場合には必ず電源を切り、電源コードをコンセントから抜いてください。

アナログ接続

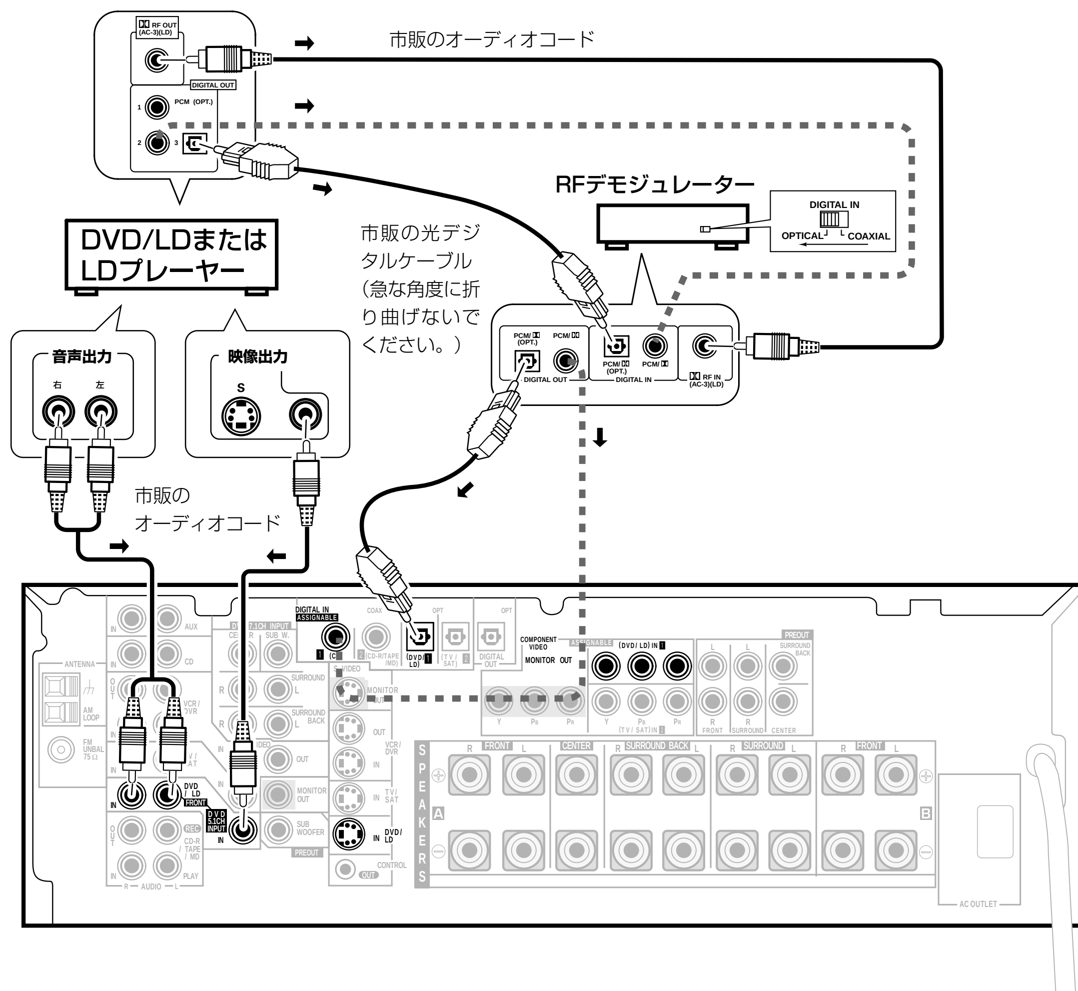


デジタル接続



DVD/LDまたはLDプレーヤーの接続

ドルビーデジタルやDTSサラウンド対応ソフトを再生するには、デジタルオーディオ接続が必要です。
DVD/LDプレーヤーまたはLDプレーヤーに RF出力端子がある場合は、市販のRFデモジュレーターを使用して RF端子も接続します。RFデモジュレーターはRF信号をデジタル信号に変換します。このデジタル信号を本機のデジタル入力端子に接続します。詳しくは、RFデモジュレーターの取扱説明書をご覧ください。LDのアナログオーディオディスクはデジタル出力されませんのでアナログオーディオ接続も行ってください。

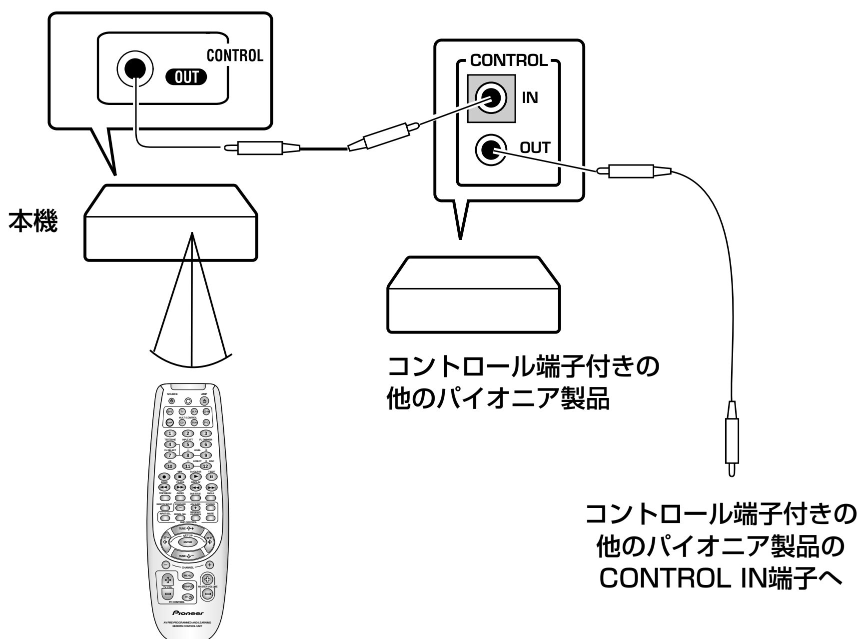


メモ

- S-VIDEO端子を使って接続する場合は、DVDプレーヤーの「S映像出力端子」と本機の「S-VIDEIO DVD/LD IN端子」を接続します。
- COMPONENT VIDEO端子を使って接続する場合は、DVDプレーヤーの「COMPONENT VIDEO映像出力端子」と本機の「COMPONENT VIDEO (DVD/LD) IN1端子」を接続します。

他のパイオニア機器を操作するための接続

コントロールコードを接続すると、本機を通して他のコントロール端子付きのパイオニア製品を操作できるようになります。操作は本機のリモコン受光部に向けて行います。このとき、リモコン信号は本機のリモコン信号受光部で受信され、CONTROL OUT端子を通して他機器に送信されます。



メモ

- コントロールコードは別売です。ご使用の際は、モノラルミニプラグ付きコードをお買い求めください。
- コントロール端子の接続をする場合は、必ずアナログの入出力も接続してください。デジタルの入出力だけでは、正しく動作しません。

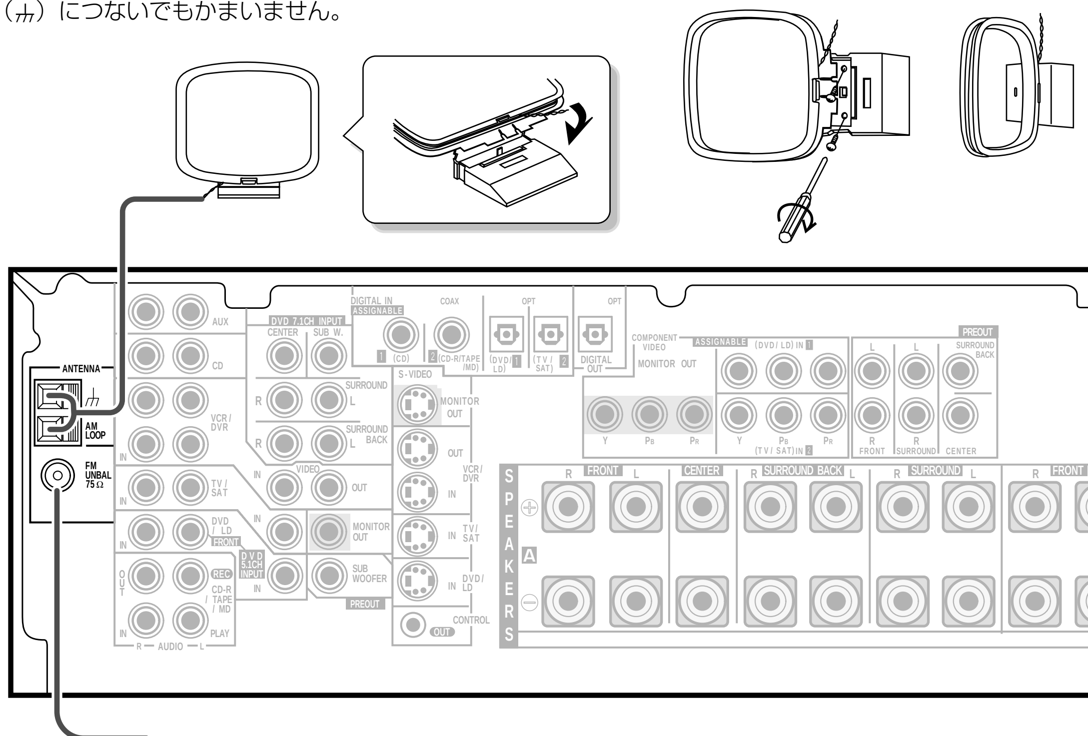
アンテナの接続

アンテナは下図のように接続します。付属のAM/FMアンテナは簡易アンテナです。感度が悪く聞こえにくい場合は次ページ「外部アンテナの接続」をご覧になり、外部アンテナを接続することをおすすめします。

● AMループアンテナ（付属）

下図のように組み立てます。AMループアンテナのコード2本をAMアンテナ接続端子に接続します。どちらをアース側端子（⏚）につないでもかまいません。

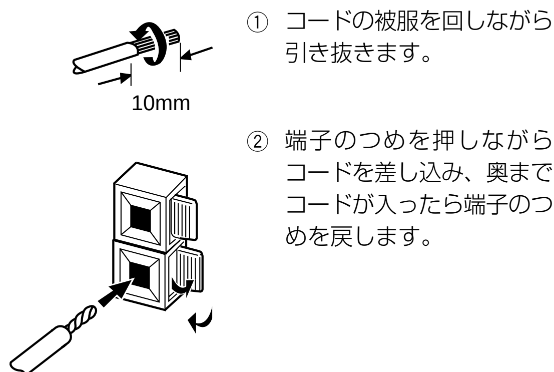
壁などに取り付けるにはネジやピンなどを使って取り付けます



● FMアンテナ（付属）

中央のピンにアンテナコードを差し込みます。

● アンテナコードと本機の接続端子



① コードの被服を回しながら引き抜きます。

② 端子のつめを押しながらコードを差し込み、奥までコードが入ったら端子のつめを戻します。

アンテナ接続に関するご注意

アンテナ接続について

アンテナ端子のアースマーク(⏚)はアンテナを接続した場合の雑音低減をはかるためのものです。安全アースではありません。

AM ループアンテナ

- 平らな面に置き、受信状態の最も良い方向に向けてください。
- アンテナは、本機から離して金属物と接触しない場所に置いてください。また、パソコン、テレビなどからもできるだけ離してください。ノイズの原因となります。
- 壁などに取り付ける場合は、AM 放送の受信状態が最も良い方向を見つけ、取り付け位置を決めてください。

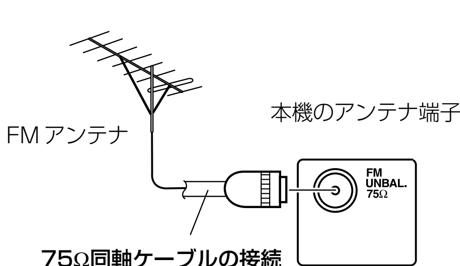
FM アンテナ

- FMアンテナは、たらしておいたり、丸めたままにしないで最も良い受信状態が得られるように、ピンとはってください。
- 付属のFMアンテナは、FM放送を手軽に受信するためのものです。よりよい受信のためには専用アンテナを使用してください。

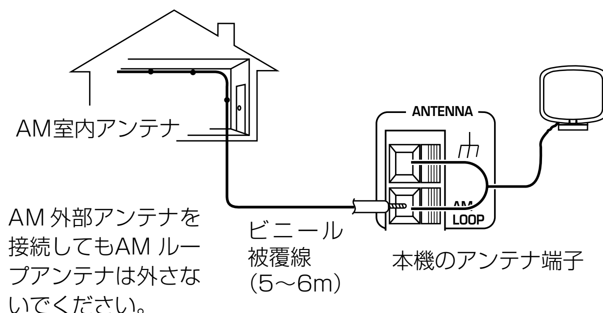
外部アンテナの接続

付属のアンテナでよく聞こえないときは、ＡＭ外部アンテナ（ビニール被覆線）、市販のＦＭ屋外アンテナを接続することをおすすめします。

● FM屋外アンテナ（75Ω同軸ケーブル）の接続
　下図のように接続してください。

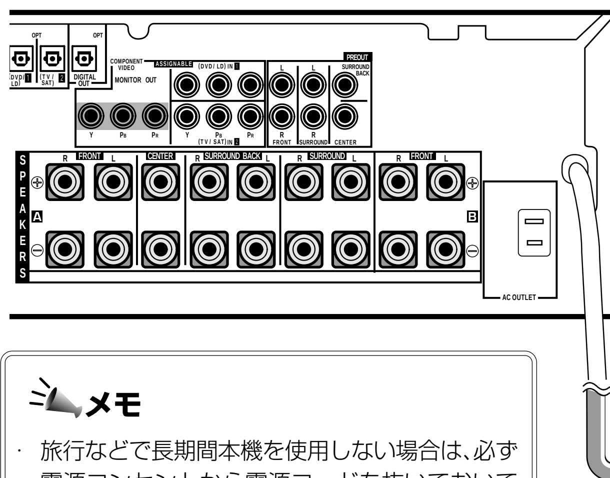


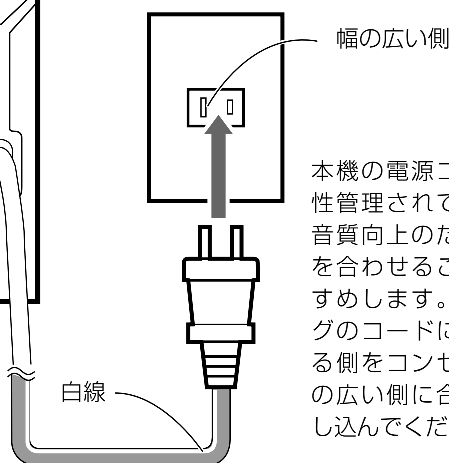
● AM外部アンテナ（ビニール被覆線）の接続
　下図のように接続してください。



電源コードの接続

全ての接続が終了したら、電源コードを家庭用電源コンセント（AC 100V）に接続します。





本機の電源コードは極性管理されています。音質向上のため、極性を合わせることをおすすめします。電源プラグのコードに白線のある側をコンセントの幅の広い側に合わせて差し込んでください。


メモ

・ 旅行などで長期間本機を使用しない場合は、必ず電源コンセントから電源コードを抜いておいてください。

予備電源コンセント（AC OUTLET）の接続（連動100W以下）

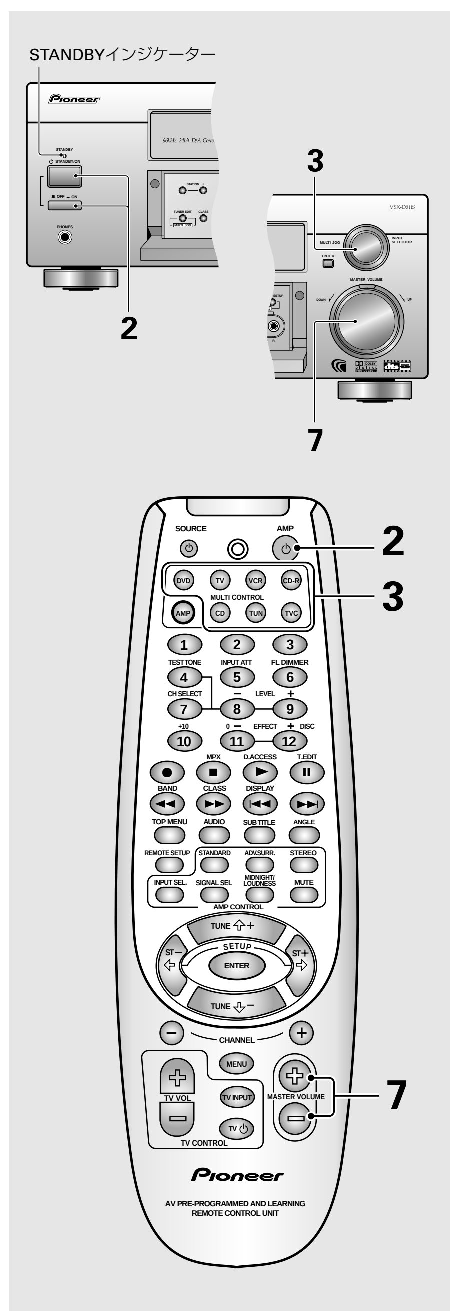
本機の電源スイッチのON/スタンバイ（OFF）の切換に連動して、接続した機器の電源をON/OFFできます。

このとき、接続した機器の電源スイッチはONにしておいてください。また、消費電力が100Wを超えないようにしてください。

⚠注意

■ 消費電力がパネルに表示されているWの数値を超える電気器具（トースター、ドライヤーなど）は絶対に接続しないでください。機器の故障や火災の恐れがあります。
■ テレビは接続しないでください。
　表示されている消費電力が本機のパネル表示値より少なくても、電源を入れたときに大きな電流が流れて、パネル表示値を超える場合があります。

基本再生



1 TV、入力機器（DVDプレーヤーなど）、サブウーファーの電源を入れる。

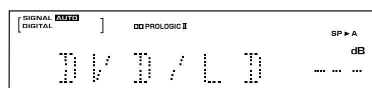
2

■OFF ▁ON

⏻ STANDBY/ON

本体の主電源ボタン(■OFF/▁ON)を押してから⏻STANDBY/ONボタンを押して本機の電源を入れる。

表示部に入力名(DVDなど)が表示されることを確認してください。



3

MULTI JOG

回して選ぶ

入力を選択する。

回すたびに入力が順次切り換わります。

入力信号の設定(SIGNAL SELECT)はAUTOに設定されています。必要に応じて入力信号の種類を選びます。

「ANALOG/DIGITAL信号の切り換え」(➡32ページ)

4 **テレビの設定をする。**

画面に、本機からの出力映像が映し出されるようにテレビの入力切り換えをしてください。(テレビ放送を楽しむときはこの操作をする必要はありません)

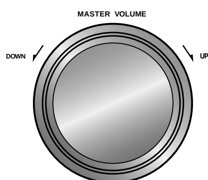
5 **入力機器の設定をする。**

DVDプレーヤーなどの場合、デジタル出力信号の設定が必要な場合があります。(詳しくは次ページの「入力機器の設定確認」をご覧ください。)

6 **入力機器の再生を開始する。**

各インジケーターが点灯します。

7



音量を調整する。

–––dB(最小)〜–0dB(最大)の間で調整できます。

音が出ないときは、「音が出ないスピーカーがあるときは、、」(➡72ページ)をご覧ください。

メモ

- ご使用後はリモコンのAMP⏻ボタンまたは本体の⏻STANDBY/ONボタンを押してください。電源が切れてスタンバイインジケーターが点灯します。
- 長時間ご使用にならないときは、本体の主電源ボタン(■OFF/▁ON)をOFFにすることをおすすめします。

映像出力信号について

テレビや入力機器にS-VIDEO端子やCOMPONENT VIDEO端子が付いている場合は、本機のS-VIDEO入力端子やCOMPONENT VIDEO入力端子を使用して接続すると、より鮮明な画像を再生できます。

その際、テレビとの接続はS-VIDEO MONITOR OUT端子かCOMPONENT VIDEO MONITOR OUT端子を使用してください。S-VIDEO入力端子に入力された信号はS-VIDEO MONITOR OUTからのみ出力され、COMPONENT VIDEO入力端子に入力された信号はCOMPONENT VIDEO MONITOR OUTからのみ出力されます。

ご注意:

- テレビによっては、S-VIDEO入力端子と映像入力の両方を接続していると、信号の有り無しに関わらず常にS-VIDEO入力が優先され、本機と映像入力端子でのみ接続している機器の映像を見ることができない場合があります。詳しくはテレビの取扱説明書をご覧ください。

入力機器の設定確認

入力機器側で、次の2つの項目が正しく設定されていないと「音が出ない」、「音に迫力がない」などの症状が起こることがあります。各入力機器または各ソフトの説明書を見てご確認ください。

1. **入力機器のデジタル出力**
   入力機器側に以下の信号のデジタル出力設定がある場合、出力されるように設定してください。
   - ドルビーデジタル　(➡68ページ)
   - DTS　(➡68ページ)
   - MPEG(MPEG-2 AAC)　(➡68ページ)
   - 96 kHz PCM　(➡68ページ)　:2チャンネルステレオ信号

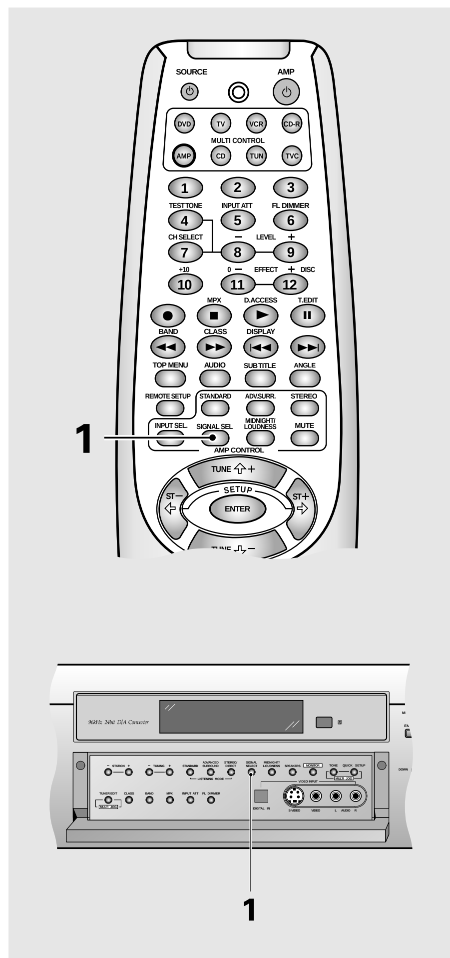
2. **再生ソフトの音声の確認**
   再生ソフトや放送が複数の音声を持つ場合、必要に応じてお聴きになりたい信号を選択してください。選んだ信号の種類やリスニングモードの選択(➡33～35ページ)に応じて音の出るスピーカーが変わります。

ご注意:

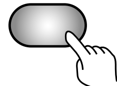
- プレーヤーまたはソフトによっては２チャンネルステレオ信号（アナログ信号やPCM信号など）以外は出力できないことがあります。そのような信号を本機に入力し、マルチチャンネルサラウンドでお楽しみ頂くためには、リスニングモードを「スタンダード」などに切り換える必要があります。(➡33～35ページ)

アナログ／デジタル信号を切り換える

本機ではアナログとデジタルの入力信号を切り換えることができます。この入力信号を切り換えるにはSIGNAL SELECTボタンを使用します。工場出荷時は「AUTO」に設定されています。



1



再生したい入力信号を選ぶ

ボタンを押すたびに、以下のように切り換わります。

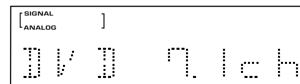


AUTOにしたときはDIGITAL→ANALOGの優先順位で自動的に入力信号を選択します。7.1chについては「DVD 7.1chアナログ入力を再生する」(➡39ページ)をご覧ください。

入力信号がAUTOのとき



入力信号が7.1chのとき



入力信号がDIGITALのとき



入力信号がANALOGのとき



デジタル接続をしているのに、DIGITALが選択できないときは以下の原因が考えられますのでご確認ください。

- 入力機器の電源が入っていない。
- 入力機器側でデジタル出力がOFFに設定されている。
- デジタル出力信号が出ないソフトを再生している。(詳しくは入力機器の取扱説明書などでご確認ください。)

メモ

- 4つのデジタル入力端子のいずれにも割り当てられていない入力については、SIGNAL SELECTはANALOGに固定されます。(54ページ「デジタル入力の設定」をご覧ください)
- カラオケ機器のマイク音声、およびアナログオーディオのみ収録されているLDの音声はデジタル出力からは出力されません。必ずSIGNAL SELECTでANALOGを選択してください。
- 本機は、ドルビーデジタル、PCM(32kHz、44kHz、48kHz、96kHz)、DTS、MPEG-2 AACのデジタル信号にのみ対応しています。これ以外のデジタル信号は再生できませんので、その場合はアナログ接続してSIGNAL SELECTボタンでANALOGを選択してください。
- SIGNAL SELECTボタンでANALOGを選択した状態で DTS対応のソフトを再生すると、プレーヤーによってはDTS信号がデコーディングされずにそのまま再生されてしまうため、ノイズが発生します。ノイズの発生を防ぐには、これらの機器をデジタル接続し(25ページ)、SIGNAL SELECTボタンでDIGITALを選択してください。
- DVDプレーヤーの機種によっては、DTS信号を出力しないものがあります。詳しくは、お使いのDVDプレーヤーの取扱説明書をご覧ください。

リスニングモードの種類と効果

本機では再生するスピーカーの数や、お聴きになるソフトのジャンルに合わせて最適なサウンドを選択することができます。本機のリスニングモードは3つのタイプ(STANDARD、ADVANCED SURROUND、STEREO)に分かれています。モードの切換方法については、「リスニングモードの選択」(➡35ページ)をご覧ください。

STANDARD(ソフトに忠実な再生)

デジタル信号を入力しているときは、再生するソフトの音声フォーマットを検出しデコード方式を自動的に切り替えて再生します。2chソースについてはマトリクス・サラウンド・デコードを行います。その際、マトリクス・サラウンド・デコード方式を以下の5つの中から選択することができます。マルチチャンネル信号(5.1chソースや「6.1再生検出信号」の記録されたソースなど)を受信しているときはディスプレイにデコード名称が表示され、忠実デコードしますので以下のモードを切り換えることはできません。

DDPRO LOGIC

従来のドルビープロロジックと同等の再生モードです。特にドルビーサラウンドエンコード作品をこのモードで視聴すると効果的です。

DDPRO LOGIC II MOVIE

5.1ch化します。映画再生に適したモードで、特にドルビーサラウンド・エンコード作品をこのモードで視聴するとより効果的です。サラウンドchへのダイアローグの漏れ込み(クロストーク)を聞こえにくくする処理などもあり、ドルビーデジタル5.1に迫るセパレーションや移動感などが得られます。

DDPRO LOGIC II MUSIC

5.1ch化します。音楽再生に適したモードで、通常のステレオ録音されたソース(CDなど)を再生するときに効果的です。サラウンドchは定位よりも拡がり　感を重視しています。

Neo6: Cinema

6.1ch化します。映画再生に適したモードで、2chを6.1chソースと同じような雰囲気でお楽しみいただけます。映画館特有の移動感をお楽しみ頂けます。

Neo6: Music

6.1ch化します。フロントからは原音をそのまま再生するため音質の変化が無く、音楽再生に適したモードといえます。また、センターとサラウンド、サラウンドバックchから出力される音声が音場にナチュラルな拡がり感を加えます。

ADVANCED SURROUND

このモードは、映画のサウンドトラックやそれ以外のオーディオビジュアルソフトを最適な音声で楽しむことができるオリジナルのサラウンドモードです。以下5つの中からお好きなモードを選択することができます。2chソースについてはあらかじめサラウンド化してからオリジナルの処理を加え、それ以外のソースについては忠実にデコードして処理を加えます。（MPEG-2 AAC信号を入力しているときは選択できません）

MOVIE

映画再生に適したモードで、特にドルビーサラウンド、ドルビーデジタル、ＤＴＳ・エンコードの映画作品をこのモードで視聴するとより効果的です。映画館さながらの迫力や臨場感をお楽しみいただけます。

MUSIC

音楽再生に適したモードで、通常のステレオ録音されたソース（CDなど）に限らずドルビー、DTS・エンコードされた音楽作品を再生するときに効果的です。コンサートホールの雰囲気をお楽しみいただけます。

VIRTUAL SB

まるでサラウンドバックチャンネルから音が出ているかのようにデコードします。
5本のスピーカーで6.1ch再生のような効果を楽しむことができます。

EXPANDED

ドルビーサラウンドや2チャンネルで録音されているソースに対しては、ドルビーデジタルの5.1chサラウンドのような効果を実現します。また、ドルビーデジタルに対してはより広がりのある音場を実現します。

6-STEREO

標準のステレオ（２チャンネル）音声を加工することなく、６チャンネルにて再生しますので、部屋のどの場所にいてもステレオ感をお楽しみいただけます。

STEREO

左右のフロントスピーカーからステレオ音声（2ch）で再生するモードです。
ドルビーデジタルやDTSなどのマルチチャンネルソースは2chにダウンミックス（変換）して再生します。

STEREO

サラウンドに関する設定での各設定を反映し、「便利な音声再生用機能」（➡３７～３８ページ）の効果を加えてステレオ再生することができます。

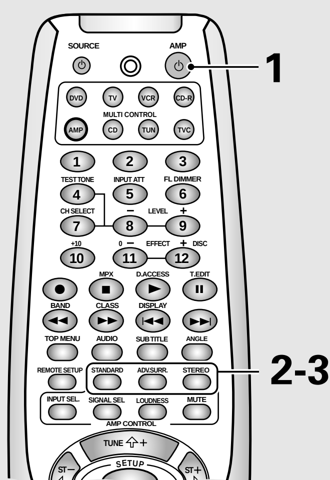
DIRECT

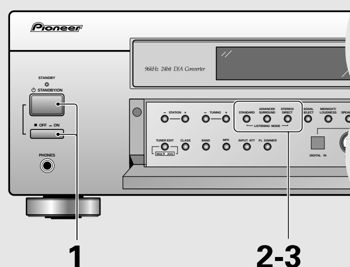
2chソースを原音に忠実な高品位ステレオ再生します。「スピーカーの設定」（➡46ページ）における設定は反映されます。

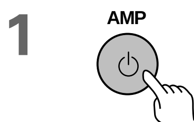

メモ

- 「DIRECT」を選択しているときに、「便利な音声再生用機能」（➡37～38ページ）をONにすると、自動的に「STEREO」に切り換わります。

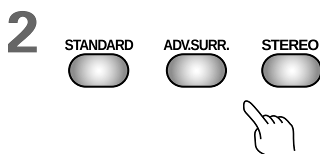
リスニングモードの選択



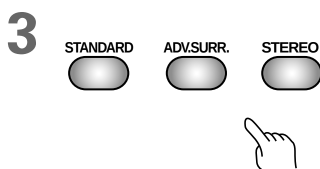


1 

本機の電源を入れる。

2 

リスニングモードのタイプを選ぶ。

3 

手順2で選んだタイプのボタンを押してお好みのリスニングモードを選ぶ。

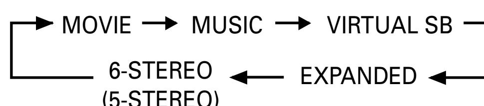
各タイプごと、ボタンを押すたび以下のように切り換わります。

STANDARD

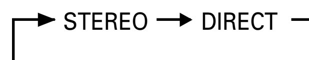
2chソースについてのみ以下のモードが切り換わります。マルチチャンネル信号を受信しているときはディスプレイにデコード名称が表示され、忠実にデコードしますので以下のモードを切り換えることはできません。



ADVANCED SURROUND



STEREO



メモ

- 工場出荷時は「STEREO」に設定されています。ただしDVD入力のみSTANDARDに設定されています。
- DTSの2chステレオ信号については、リスニングモードの選択に関わらずステレオ再生します。
- 96kHz リニアPCM信号を再生しているときは、ステレオのみ選択することができます。それ以外のモードに設定しているときに96kHz リニアPCM信号が入力されると、自動的にSTEREOに切り換わります。
- Neo:6はリニアPCM信号が入力されている場合のみ選択できます。

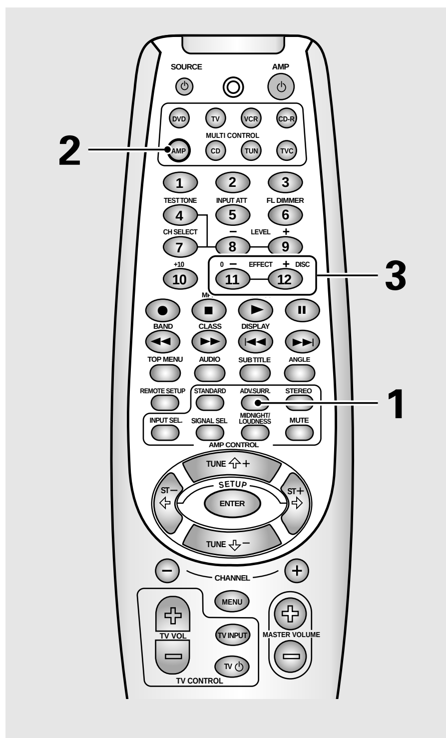
各リスニングモードにおける サラウンドバックスピーカーからの音声出力について

サラウンドバックスピーカーを接続し、「細やかな設定」(➡ 42ページ)においてサラウンドバックスピーカーの設定を大(L)または小(S)で設定した場合、入力信号の種類やリスニングモードの選択によってサラウンドバックスピーカーから音が出る場合と出ない場合があります。詳細は以下の表をご覧ください。
入力信号がMPEG-2 AACのときは、6.1chの設定に関係なくサラウンドバックチャンネルから音はでません。

入力信号（ソース）	6.1chの設定（➡47ページ）	リスニング モード					
		STANDARD	ADVANCED MOVIE	ADVANCED MUSIC	VIRTUAL SB	EXPANDED	6CH STEREO
ドルビーデジタル サラウンドEX、DTS-ES	6.1AUTO	○	○	○	✘	○	○
	6.1FIX	○	○	○	✘	○	○
ドルビーデジタル、DTS (サラウンドチャンネルが2ch あるマルチチャンネルソース)	6.1AUTO	✘	✘	✘	✘	✘	○
	6.1FIX	○	○	○	✘	○	○
ドルビーデジタル、DTS (サラウンドチャンネルが1ch のマルチチャンネルソース や2ch STEREOソース)	6.1AUTO	✘	✘	✘	✘	✘	○
	6.1FIX	✘	○	○	✘	✘	○
PCM、アナログソース	6.1AUTO	✘	✘	✘	✘	✘	○
	6.1FIX	✘	○	○	✘	✘	○

○：サラウンドバックスピーカーから音が出ます。
✘：サラウンドバックスピーカーから音が出ません。

ADVANCED SURROUNDモードの効果を調整する



1 ADVANCED SURROUNDモードに設定する（➡35ページ）。

2 AMPボタンを押してリモコンをアンプ操作モードにする。

3 エフェクトレベルの効果を調整する。

エフェクトレベルは10～90の範囲で調整することができます。

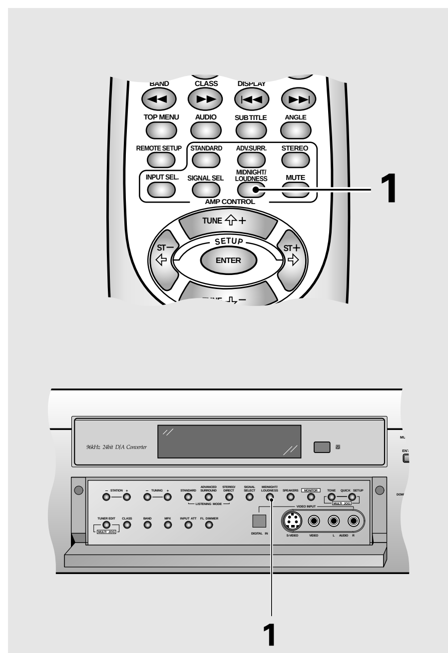
メモ

- 工場出荷時の設定は70に設定されています。
- 6-STEREOモードまたはVIRTUAL SBモードを選択しているときはエフェクトレベルは調整できません。

便利な音声再生用機能

ミッドナイトリスニングモードで楽しむ

夜間など小音量で聴いていると、どうしても響きが少なくなったり、微小な音やセリフが聞こえなかったりします。ミッドナイトリスニングモードをＯＮにすると、小音量でも映画や音楽の情報を聞き漏らすことなくお楽しみいただけます。（各入力ごとにON/OFFを設定できます）



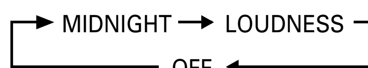
1



ミッドナイトリスニングモードをONにする。

MIDNIGHTインジケーターが点灯します。

リモコンの場合はボタンを押すたびに、以下のように切り換わります。

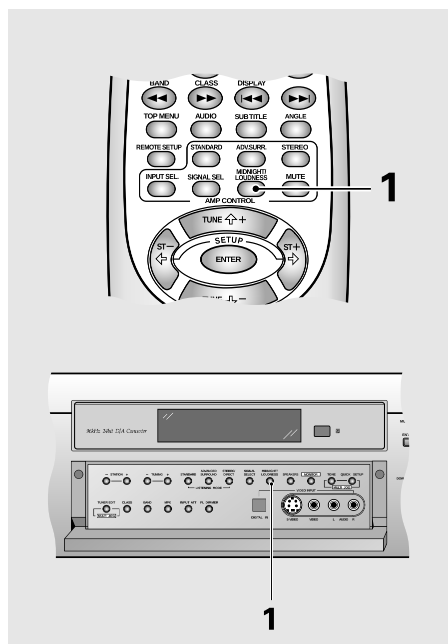


メモ

- 音量に合せてサラウンド効果も自動調整されます。
- DVD 7.1ch 入力モードでは､ミッドナイトリスニングモードは選択できません。
- ダイレクト再生モードのときにミッドナイトリスニングモードをONにすると､ダイレクト再生モードは自動的にOFFになります。
- MPEG-2 AAC信号を入力しているときは操作できません。

小さな音でも音楽を聴き取りやすくする(ラウドネスモード)

ラウドネスモードを使用すると、低音域、高音域のレベルが上がり、小さな音でも音楽を聴き取りやすくできます。



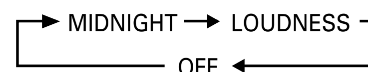
1



ラウドネスモードをONにする。

LOUDNESSインジケーターが点灯します。

リモコンの場合はボタンを押すたびに、以下のように切り換わります。

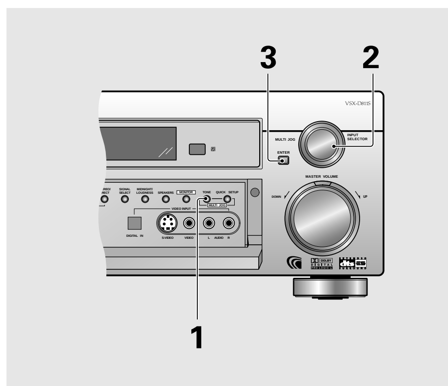


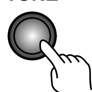
メモ

- DVD 7.1ch 入力モードでは､ラウドネスモードは選択できません。
- ダイレクト再生モードのときにラウドネスモードをONにすると､ダイレクト再生モードは自動的にOFFになります。

低音、高音を調整する(トーンコントロール)

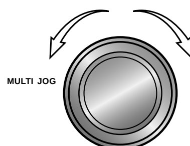
低音、高音の調節(トーンコントロール)は本体のTONEボタンとマルチジョグを使って調整できます。



1 

低音(BASS)か高音(TREBLE)のどちらのトーンを調整するか選択する。

ボタンを押すたびに、低音(BASS)と高音(TREBLE)が切り換わります。

2 

トーンを調整する。

トーンコントロールはそれぞれ±6dBの範囲内で2dBステップで調整できます。

3 

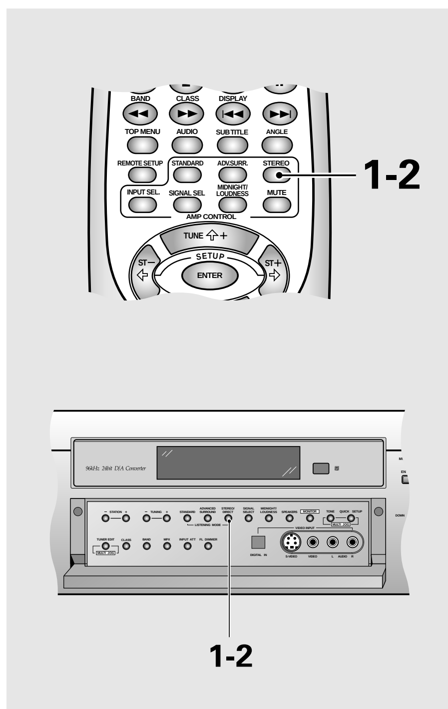
トーンを決定する。

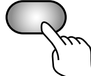
メモ

- トーンコントロールはステレオ再生モードのときのみ有効です。その他のリスニングモードや、DVD7.1chアナログ入力、スピーカーシステムBを選んでいるときはトーンコントロールはできません。

ダイレクト再生モード

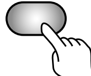
トーンコントロールやチャンネルレベルなど通さずにステレオ再生します。2 チャンネルソースを忠実に再生したいときはこのモードをONにします。



1 

ステレオ再生モードにする。

ディスプレイにSTEREOと表示されます。

2 

もう一度ボタンを押してダイレクト再生モードにする。

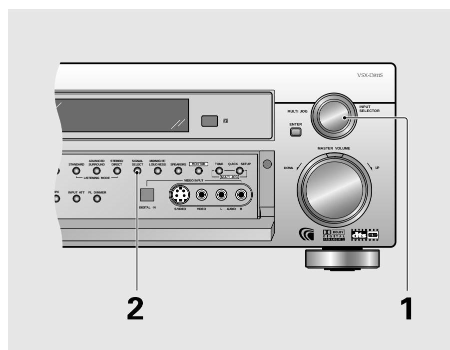
ボタンを押すたびに、ステレオ再生モードとダイレクト再生モードが切り換わります。

メモ

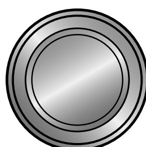
- トーンコントロールやその他のリスニングモードをONにすると、ダイレクト再生モードは自動的にOFFになります。

DVD 7.1chアナログ入力を再生する

DVDオーディオ対応のDVDプレーヤーや、外部デコーダーなどの5.1チャンネルまたは7.1チャンネルアナログ出力付き機器を接続して、5.1チャンネルまたは7.1チャンネルのサラウンド再生を楽しむことができます。

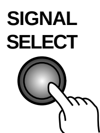


1



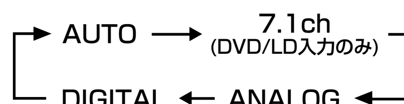
再生するソースをDVD/LDにする。

2

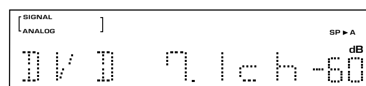


SIGNAL SELECTボタンを押して「DVD7.1ch」にする。

ボタンを押すたびに、以下のように切り換わります。



7.1ch入力を選択したとき

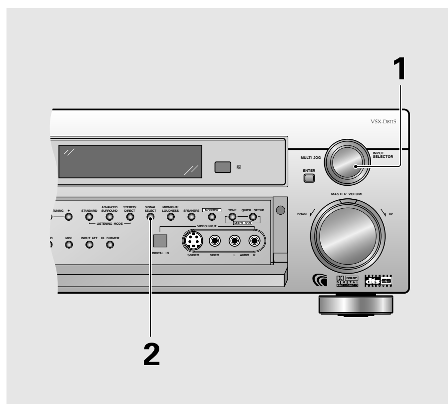


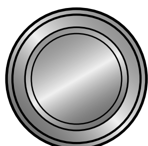
メモ

- DVD 7.1ch入力のときは、STANDARDモード、ADVANCED SURROUNDモード、INPUT ATT、ダイレクト再生モード、トーンコントロール、ミッドナイトリスニングモード、ラウドネスモードの操作はできません。
- DVD7.1ch入力のときは、音量レベルと各チャンネルレベル以外の設定は本機ではできません。

本機を使った録音／録画

オーディオ機器からの音声を、本機の端子に接続された録音機器に録音することができます。
アナログ録音する場合は本機のリアパネルのCD-R/TAPE/MD端子またはVCR/DVR端子に録音機器を接続してください(➡24、25ページ)。デジタル録音する場合は本機のリアパネルのDIGITAL OUT端子に光デジタル入力端子を持つデジタル録音機器を接続し、DIGITAL IN端子に録音ソースのデジタル機器を接続してください(➡25ページ)。



1 

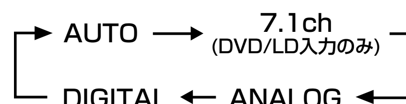
録音するソースを選ぶ。

回すたびに入力が順次切り換わります。

2 SIGNAL SELECT

アナログ録音するときはANALOGを、デジタル録音するときはDIGITALを選ぶ。

押すたびに、以下のように切り換わります。

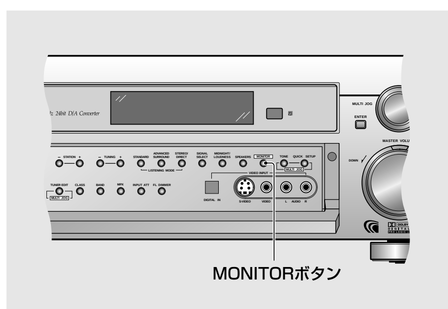


3 録音機器の録音を開始する。

4 録音するソースを再生する。

メモ

- アナログ録音したいときはアナログ接続されている機器どうしの場合のみ録音することができます。デジタル録音の場合も、デジタル接続されている機器どうしのみ録音することができます。
- 本機の音量、チャンネルレベル、トーンコントロール(TREBLE、BASS)、サラウンドの設定は、録音信号には効果がありません。
- 信号や録音機器によっては、デジタル出力はできてもコピーガードによりデジタル録音できないものがあります。この場合はアナログ接続で録音してください。
- 録音するソースがCDR/TAPEの場合、CD-R/TAPE/MDのREC端子には音が出ません。



MONITORボタン

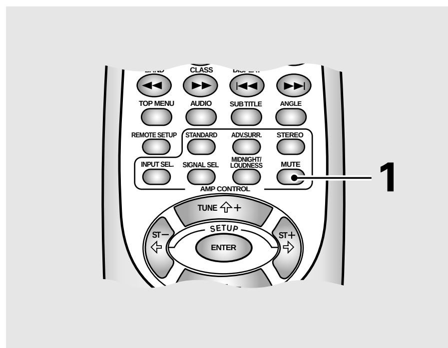
録音モニター

録音モニター付きのカセットデッキをCD-R/TAPE/MD端子に接続すると、録音しながら録音されている音声を聴くことができます。
ソース機器の再生音と録音されている音を切り換えるには、MONITORボタンを押します。

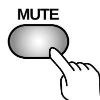
その他の機能

消音（ミュート）

ボタン1つで一時的に音を消す（ミュートする）ことができます。



1

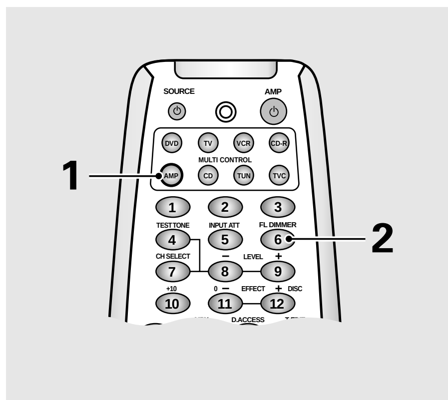


消音ボタンを押す。

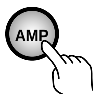
一時的に音が消えます。もう一度押すと、元の音量に戻ります。音量＋／－ボタンでもミュートを解除します。

表示部の明るさ調整（ディマー）

表示部の明るさを4段階に調整することができます。

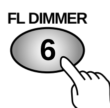


1



AMPボタンを押してリモコンをアンプ操作モードにする。

2



好みの明るさに調整する。

押すたびに表示部の明るさが「明るい」「少し暗い」「暗い」「OFF」の4段階で切り換わります。

メモ

- OFFのときはインジケーターも消灯し、音量レベル表示のみがうっすらと点灯します。
- 設定した明るさに関わらず、何かの操作をしたときは明るく点灯し、2秒後に元の明るさに戻ります。

ヘッドホンを使う



1

ヘッドホンプラグをヘッドホン端子に差し込む。

- 差し込むとスピーカーから音は出なくなります。
- リスニングモードはステレオのみの選択になります。

細やかな設定（システムセットアップ）

本機では、簡単設定(QUICK SETUP SYSTEM)(➡12ページ)で簡単なシステム設定を行うことができますが、「細やかな設定」を行いますと、より快適なリスニング環境をつくり出すことができます。

メモ 以下の「細やかな設定」を行った後に、簡単設定を行うと簡単設定の値が優先されますのでご注意ください。工場出荷時の設定は45ページをご覧ください。

設定項目について

スピーカーの設定　(➡46ページ)

各スピーカー(サラウンドバックスピーカー以外)の有り／無し、ならびに低音域をそのスピーカーで再生するかどうかを設定します。

大(LARGE)　：低音域(100Hz以下)を再生する能力が十分あるスピーカーを接続し、低音域をそのスピーカーで再生する場合。目安はコーンサイズ(振動板の口径)が約12cm以上です。
小(SMALL)　：低音域を再生する能力がないスピーカーを接続し、そのチャンネルの低音域は、ほかのスピーカーやサブウーファーで再生する場合。目安はコーンサイズ(振動板の口径)が約12cm未満です。
無し(＊)　：接続しない場合。(そのチャンネルの音声は、ほかのスピーカーで再生されます)

- サブウーファーを接続しない場合は、フロントスピーカーを大(LARGE)に設定しないと低音が損なわれます。

サラウンドバックスピーカーの設定　(➡47ページ)

サラウンドバックスピーカーのサイズ(大/小または無し)を設定します。また、サラウンドバックスピーカー端子にサブウーファーを接続する場合は、ここでSB SUBWFを選択します。

大(LARGE)　：低音域(100Hz以下)を再生する能力が十分あるスピーカーを接続し、低音域をそのスピーカーで再生する場合。目安はコーンサイズ(振動板の口径)が約12cm以上です。
小(SMALL)　：低音域を再生する能力がないスピーカーを接続し、そのチャンネルの低音域は、ほかのスピーカーやサブウーファーで再生する場合。目安はコーンサイズ(振動板の口径)が約12cm未満です。
SB SUBWF　：サラウンドバックスピーカー端子にサブウーファーを接続する場合の設定です。
無し(＊)　：接続しない場合。(そのチャンネルの音声は、ほかのスピーカーで再生されます)

6.1chの設定　(➡47ページ)

本機がマルチチャンネル信号を入力したときに、自動的に6.1ch再生に切り換えるかどうかを設定します。

6.1 FIX　：6.1ch再生検出信号が記録されているソースは6.1chで忠実デコードし、5.1chソースについてはサラウンドバックチャンネルをマトリクス・デコードして再生します。
6.1 AUTO　：6.1ch再生検出信号が記録されているソースは6.1chで忠実デコードし、5.1chソースについてはサラウンドバックチャンネルをデコードせずに、5.1chで忠実デコードして再生します。

- 「サラウンドバックスピーカーの設定」で無し(＊)に設定していると、「6.1＊＊＊」が表示されここでの設定を行うことはできません。

サブウーファーの設定 （➡48ページ）

サブウーファー（低音域を専門に受け持つスピーカー）の有り／無し／プラスを設定します。

ON ： サブウーファーを接続する場合。
このときサブウーファーからはLFE成分（超低域信号成分）や「スピーカーの設定」で小（SMALL）に設定したチャンネルの低音域が出力されます。ただし、FL–CS–SLと設定したときのセンターチャンネルの低音域はフロントスピーカーから出力されます。

PLS(PLUS) ： サブウーファーを接続し常にサブウーファーから音を出したい場合。
このときサブウーファーからは「ON」に設定したときと同じ信号に加えて、大（LARGE）に設定したチャンネルの低音域も出力されます。これにより、大に設定したチャンネルの低音域はそのチャンネルのスピーカーとサブウーファーの両方から出力されることになります。

OFF ： サブウーファーを接続しない場合。
低音域は他のスピーカーで再生されます。（スピーカーの設定によって低音域を再生するスピーカーは変わります）

- 「スピーカーの設定」でフロントスピーカーを小（SMALL）に設定していると、サブウーファーはONに固定され、OFFやPLSを選ぶことはできません。
- サブウーファーを接続しない場合はフロントスピーカーを大（LARGE）に設定して下さい。大（LARGE）に設定しないと低音が損なわれます。

クロスオーバー周波数の設定 （➡48ページ）

「スピーカーの設定」で小（SMALL）に設定されたスピーカーがあるとき、何Hz以下の低音域を他のスピーカーで再生するのかを設定します。

LFEアッテネータの設定 （➡49ページ）

ドルビーデジタル信号やDTS信号に含まれるLFE成分（超低域信号成分）の信号レベルが大きすぎて、スピーカーから出る音に歪みが生じてしまう場合に、その信号レベルをアッテネート（減衰）する量を設定することができます。

0 dB ： 収録されているレベルのまま再生します。
10 dB ： レベルを10dBアッテネート（減衰）します。
LFE ATT＊＊(OFF) ： LFE成分の音が出なくなります。

フロントスピーカーまでの距離の設定 （➡49ページ）

リスニングポジション（視聴位置）からフロントスピーカーまでの距離を設定します。

それぞれのスピーカーまでの距離を入力することによって、その差により生じる音のタイミングのズレが自動的に補正され、リスニングポジションで適切な音場効果を得ることができます。

センタースピーカーまでの距離の設定 （➡50ページ）

リスニングポジション（視聴位置）からセンタースピーカーまでの距離を設定します。

それぞれのスピーカーまでの距離を入力することによって、その差により生じる音のタイミングのズレが自動的に補正され、リスニングポジションで適切な音場効果を得ることができます。

サラウンドスピーカーまでの距離の設定 （➡50ページ）

リスニングポジション（視聴位置）からサラウンドスピーカーまでの距離を設定します。

それぞれのスピーカーまでの距離を入力することによって、その差により生じる音のタイミングのズレが自動的に補正され、リスニングポジションで適切な音場効果を得ることができます。

サラウンドバックスピーカーまでの距離の設定 （➡51ページ）

リスニングポジション（視聴位置）からサラウンドバックスピーカーまでの距離を設定します。

それぞれのスピーカーまでの距離を入力することによって、その差により生じる音のタイミングのズレが自動的に補正され、リスニングポジションで適切な音場効果を得ることができます。

ダイナミックレンジコントロールの設定 （➡51ページ）

ダイナミックレンジとは再生能力を表す用語で、どのくらい小さな音からどのくらい大きな音までをきちんと（小さな音はノイズに埋もれずに、大きな音は歪まずに）再生できるかを数値（dB）で表わしたものです。ダイナミックレンジコントロールとは、このダイナッミックレンジを圧縮する機能です。音量を下げて映画を楽しむときなどは、ダイナミックレンジを圧縮すると微小な音も聞きやすくなり、映画をより一層楽しむことができます。

OFF ： ダイナミックレンジを圧縮せずにソフトに収録されたまま再生します。
MAX ： ダイナミックレンジを最も圧縮します。
MID ： ダイナミックレンジを少し圧縮します。

- この機能の効果が得られるのは、ダイナミックレンジコントロール対応のドルビーデジタルソフトだけですが、他のソフトを小音量で楽しむときにはミッドナイトリスニングモード（➡37ページ）が効果的です。

デュアルモノの設定 （➡52ページ）

1+1デュアルモノラル信号とは、モノラルの音声チャンネルを2つもつデジタル信号のことで、ここではデュアルモノラル信号が入力されたときにどちらの音声をどのスピーカーから出力するかを設定します。この設定は例えば以下のような1+1デュアルモノラルフォーマットのソースにのみ有効です。

- BS デジタル放送のモノラルの二か国語放送や音声多重放送など
  ………… ステレオの二か国語放送などはデュアルモノラルとは異なるフォーマットになります。
- 2 か国語放送などを DVD レコーダーのデュアルモノラルモードで録画したもの
  ………… 録画モードの名称は機器によって異なります。
  詳しくは DVD レコーダーの取扱説明書をご覧ください。

ch1 ： チャンネル1の音声のみをセンタースピーカーから出力する場合。（スピーカーの設定やリスニングモードの選択によっては左右の（フロント）スピーカーからチャンネル1の音声が出力されます）
ch2 ： チャンネル2の音声のみをセンタースピーカーから出力する場合。（スピーカーの設定やリスニングモードの選択によっては左右の（フロント）スピーカーからチャンネル2の音声が出力されます）
L.c1 R.c.2 ： チャンネル1の音声を左の（フロント）スピーカーから、チャンネル2の音声を右の（フロント）スピーカーから出力する場合。

マルチチャンネルサラウンドバック入力1ch/2ch設定 （➡52ページ）

マルチチャンネル入力におけるサラウンドバック入力端子の接続が1chか2chかを設定します。再生機器のサラウドバック出力端子が1つのときは1chを選択し、再生機器のサラウドバック出力端子がLとRの2つあるときは2chを選択します。

コンポーネントビデオ入力の設定 （➡53ページ）

工場出荷時と同じ接続（リアパネル表記と同じ機器を接続）をしたときはこの設定を変える必要はありません。ここでは、コンポーネントビデオ入力端子に接続した機器を、どの入力ファンクションで再生するかを設定します。どの機器をどこのコンポーネントビデオ入力端子に接続したかを確認しておいてください。

- 工場出荷時、COMPONENT VIDEO 1 は DVD/LD に、COMPONENT VIDEO 2 は TV/SAT に設定されています。

デジタル入力の設定 （➡54ページ）

工場出荷時と同じ接続（リアパネル表記と同じ機器を接続）をしたときはこの設定を変える必要はありません。ここでは、デジタル入力端子に接続したデジタル機器を、どの入力ファンクションで再生するかを設定します。どのデジタル機器をどこのデジタル入力端子に接続したかを確認しておいてください。

- 工場出荷時、COAX 1 は CD に、COAX 2 は CD-R/TAPE/MD に、OPT 1 は DVD/LD に、OPT 2 は TV/SAT に設定されています。

工場出荷時の設定

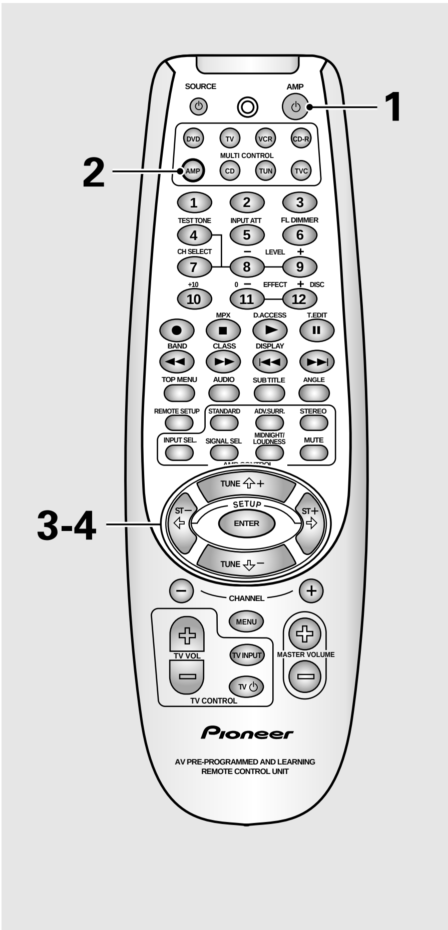
設定項目	初期値	参照ページ
スピーカーの設定	フロント、センター、サラウンド、全て小（S）	46ページ
サラウンドバックスピーカーの設定	小（S）	47ページ
6.1chの設定	6.1 FIX	47ページ
サブウーファーの設定	ON	48ページ
クロスオーバー周波数	100Hz	48ページ
LFEアッテネータ	0dB	49ページ
フロントスピーカーまでの距離	3.0m	49ページ
センタースピーカーまでの距離	3.0m	50ページ
サラウンドスピーカーまでの距離	3.0m	50ページ
サラウンドバックスピーカーまでの距離	3.0m	51ページ
ダイナミックレンジコントロール	OFF	51ページ
デュアルモノの設定	ch1	52ページ
マルチチャンネルサラウンドバック入力1ch/2ch設定	2ch IN	52ページ
シグナルセレクト	AUTO	32ページ
スピーカー出力レベル	フロント 左/右（0dB）、センター（0dB）、サラウンド 左/右（0dB） サブウーファー（0dB）、サラウンド バック左/右（0dB）	55ページ
表示部の明るさ調整（ディマー）	明るい	41ページ
入力	DVD	30ページ
リスニングモード	STEREO (DVD入力のみSTANDARD)	35ページ
音量	――― （最小）	30ページ

細やかな設定

各項目についての詳しい説明は42ページから45ページをご覧ください。

スピーカーの設定

ここで設定の変更を行った時点で、その設定が簡単設定よりも優先されます。



1 本機の電源を入れる。

2 AMPボタンを押してリモコンをアンプ操作モードにする。

3 スピーカーの設定モードを選ぶ。

押すたびに各項目の設定モードに切り換わり、現在の設定内容が表示されます。

SIGNAL DIGITAL　SP▶A
FS-CS-SS -60 dB

4 スピーカー設定の組み合わせを選ぶ。

押すたびに以下の11通りに切り換わります。

		フロントスピーカー(F)	センタースピーカー(C)	サラウンドスピーカー(S)
①	FS-CS-SS -80 dB	小(S)	小(S)	小(S)
②	FL-C∗-SS -80 dB	大(L)	無し(＊)	小(S)
③	FL-C∗-SL -80 dB			大(L)
④	FL-CS-S∗ -80 dB		小(S)	無し(＊)
⑤	FL-CS-SS -80 dB			小(S)
⑥	FL-CS-SL -80 dB			大(L)
⑦	FL-CL-S∗ -80 dB		大(L)	無し(＊)
⑧	FL-CL-SS -80 dB			小(S)
⑨	FL-CL-SL -80 dB			大(L)
⑩	FS-C∗-SS -80 dB	小(S)	無し(＊)	小(S)
⑪	FS-CS-S∗ -80 dB		小(S)	無し(＊)

続けて次ページ以降の設定を行うときは、各項目の手順2から始めます。

設定モードを終了するには決定ボタン ENTER を押します。

メモ

- フロントスピーカーを小(SMALL)に設定するときは、必ず低音域を再生するためにサブウーファーを接続してください。
- サブウーファーを接続しない場合は、フロントスピーカーを大(LARGE)に設定しないと低音が損なわれます。
- 20秒間ボタン操作がない場合には、設定モードを終了します。
- センタースピーカー、サラウンドスピーカーが共に無い組み合わせは選択できません。その場合はリスニングモード(➡35ページ)を「ステレオ」にしてお聴きください。

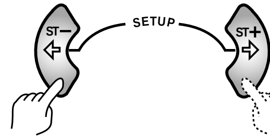
各項目についての詳しい説明は42ページから45ページをご覧ください。

サラウンドバックスピーカーの設定

他の項目の設定操作から続けて行うときは手順2から始めます。

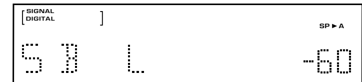
1 46ページの手順1～2の操作を行う。

2

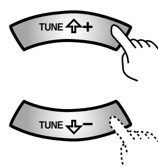


サラウンドバックスピーカーの設定モードを選ぶ。

押すたびに各項目の設定モードに切り換わり、現在の設定内容が表示されます。

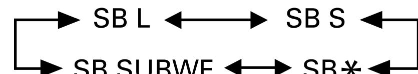


3



サラウンドバックスピーカーのサイズを選ぶ。

押すたびに以下のように切り換わります。



続けて他の項目の設定を行うときは、各項目の設定方法の手順2から始めます。

設定モードを終了するには決定ボタン ENTER を押します。

メモ

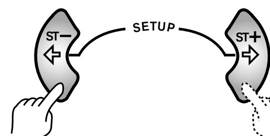
- 「スピーカーの設定」でサラウンドスピーカーが小(S)に設定されている場合は、ここで「SB L」を選択することはできません。
- 「スピーカーの設定」でサラウンドスピーカーが無し(＊)に設定されている場合は、ここで「SB SUBWF」以外を選択することはできません。
- 20秒間ボタン操作がない場合には、設定モードを終了します。

6.1chの設定

他の項目の設定操作から続けて行うときは手順2から始めます。

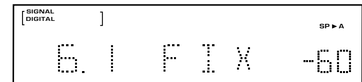
1 46ページの手順1～2の操作を行う。

2

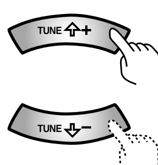


6.1chの設定モードを選ぶ。

押すたびに各項目の設定モードに切り換わり、現在の設定内容が表示されます。



3



6.1AUTOまたは6.1FIXを選ぶ。

押すたびに6.1AUTOと6.1FIXが切り換わります。

続けて他の項目の設定を行うときは、各項目の設定方法の手順2から始めます。

設定モードを終了するには決定ボタン ENTER を押します。

メモ

- 「サラウンドバックスピーカーの設定」でサラウンドバックスピーカーが無し(＊)に設定されている場合、「6.1＊＊＊」と表示され、ここでの設定を行うことはできません。
- 20秒間ボタン操作がない場合には、設定モードを終了します。

細やかな設定

各項目についての詳しい説明は42ページから45ページをご覧ください。

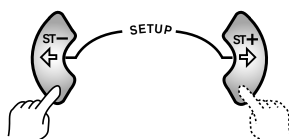
サブウーファーの設定

ここで設定の変更を行った時点で、その設定が簡単設定よりも優先されます。

他の項目の設定操作から続けて行うときは手順2から始めます。

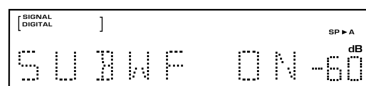
1 46ページの手順1〜2の操作を行う。

2

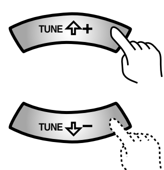


サブウーファーの設定モードを選ぶ。

押すたびに各項目の設定モードに切り換わり、現在の設定内容が表示されます。

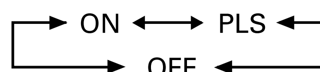


3



ONまたはPLS、OFFを選ぶ。

押すたびに以下のように切り換わります。



続けて他の項目の設定を行うときは、各項目の設定方法の手順2から始めます。

設定モードを終了するには決定ボタン ENTER を押します。

メモ

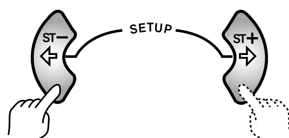
- 「スピーカーの設定」でフロントスピーカーが小(SMALL)に設定されている場合、サブウーファーはONに固定され、OFFやPLSを選ぶことはできません。
- ONに設定していてもスピーカーの設定、リスニングモードの選択、入力信号の種類によってはサブウーファーから音が出ないことがあります。
- 20秒間ボタン操作がない場合には、設定モードを終了します。

クロスオーバー周波数の設定

他の項目の設定操作から続けて行うときは手順2から始めます。

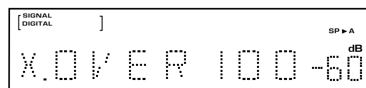
1 46ページの手順1〜2の操作を行う。

2

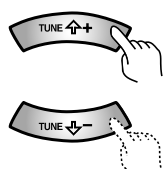


クロスオーバー周波数の設定モードを選ぶ。

押すたびに各項目の設定モードに切り換わり、現在の設定内容が表示されます。

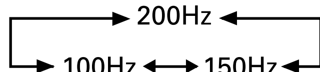


3



クロスオーバー周波数を選ぶ。

押すたびに以下のように切り換わります。



続けて他の項目の設定を行うときは、各項目の設定方法の手順2から始めます。

設定モードを終了するには決定ボタン ENTER を押します。

メモ

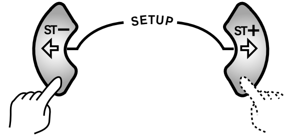
- それぞれのスピーカーの性能によりますが、全て小さいスピーカーを使用している場合は200Hzに設定することをお勧めします。
- 「スピーカーの設定」でフロント、センター、サラウンド、サラウンドバックスピーカーのいずれかが小(SMALL)に設定されているときのみ、クロスオーバー周波数は設定できます。
- 20秒間ボタン操作がない場合には、設定モードを終了します。

各項目についての詳しい説明は42ページから45ページをご覧ください。

LFEアッテネータの設定

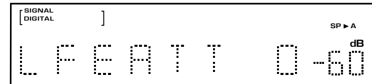
他の項目の設定操作から続けて行うときは手順2から始めます。

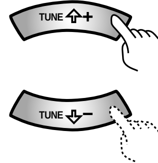
1 46ページの手順1～2の操作を行う。

2 

LFEアッテネータの設定モードを選ぶ。

押すたびに各項目の設定モードに切り換わり、現在の設定内容が表示されます。



3 

アッテネート(減衰)量 を選ぶ。

押すたびに以下のように切り換わります。

0 dB ⟷ 10 dB → LFE ATT ＊＊ (OFF) → 0 dB

続けて他の項目の設定を行うときは、各項目の設定方法の手順2から始めます。

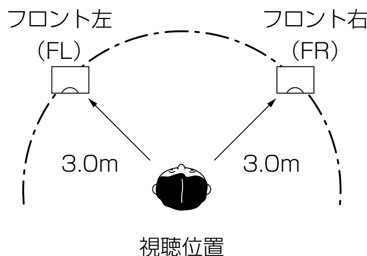
設定モードを終了するには決定ボタン ENTER を押します。

メモ

- すべてのアッテネート(減衰)量で試し、最適な状態に設定することをおすすめします。
- 20秒間ボタン操作がない場合には、設定モードを終了します。

フロントスピーカーまでの距離の設定

ここで設定の変更を行った時点で、その設定が簡単設定よりも優先されます。

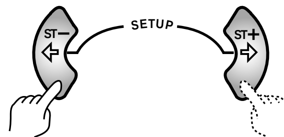


メモ

- フロントスピーカーまでの距離を設定すると、自動的にサブウーファーまでの距離もフロントスピーカーと同じ距離に設定されますので、サブウーファーとフロントスピーカーは視聴位置からほぼ同じ距離になるように設置してください(サブウーファーまでの距離の設定はありません)。
- 20秒間ボタン操作がない場合には、設定モードを終了します。

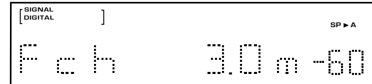
他の項目の設定操作から続けて行うときは手順2から始めます。

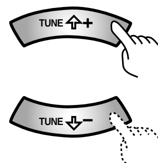
1 46ページの手順1～2の操作を行う。

2 

フロントスピーカーまでの距離の設定モードを選ぶ。

押すたびに各項目の設定モードに切り換わり、現在の設定内容が表示されます。



3 

フロントスピーカーまでの距離を設定する。

0.3～9mの間を0.3m間隔で設定できます。

続けて他の項目の設定を行うときは、各項目の設定方法の手順2から始めます。

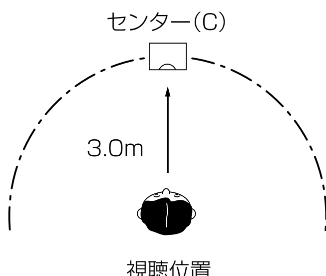
設定モードを終了するには決定ボタン ENTER を押します。

細やかな設定

各項目についての詳しい説明は42ページから45ページをご覧ください。

センタースピーカーまでの距離の設定

ここで設定の変更を行った時点で、その設定が簡単設定よりも優先されます。



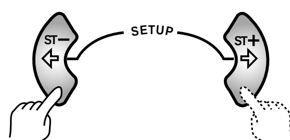
メモ

- 「スピーカーの設定」で、センタースピーカーが無し(＊)に設定されている場合は設定できません。
- 20秒間ボタン操作がない場合には、設定モードを終了します。

他の項目の設定操作から続けて行うときは手順2から始めます。

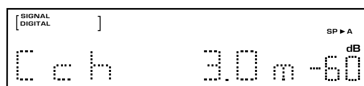
1 46ページの手順1～2の操作を行う。

2

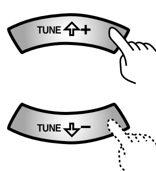


センタースピーカーまでの距離の設定モードを選ぶ。

押すたびに各項目の設定モードに切り換わり、現在の設定内容が表示されます。



3



センタースピーカーまでの距離を設定する。

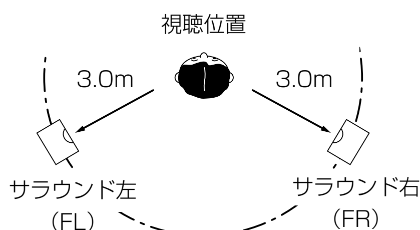
0.3～9mの間を0.3m間隔で設定できます。

続けて他の項目の設定を行うときは、各項目の設定方法の手順2から始めます。

設定モードを終了するには決定ボタン ENTER を押します。

サラウンドスピーカーまでの距離の設定

ここで設定の変更を行った時点で、その設定が簡単設定よりも優先されます。



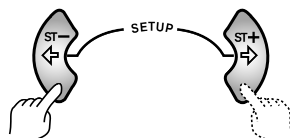
メモ

- 「スピーカーの設定」で、サラウンドスピーカーが無し(＊)に設定されている場合は設定できません。
- 20秒間ボタン操作がない場合には、設定モードを終了します。

他の項目の設定操作から続けて行うときは手順2から始めます。

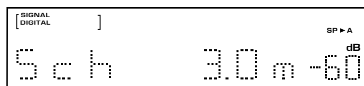
1 46ページの手順1～2の操作を行う。

2

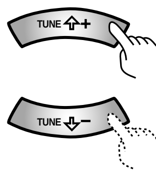


サラウンドスピーカーまでの距離の設定モードを選ぶ。

押すたびに各項目の設定モードに切り換わり、現在の設定内容が表示されます。



3



サラウンドスピーカーまでの距離を設定する。

0.3～9mの間を0.3m間隔で設定できます。

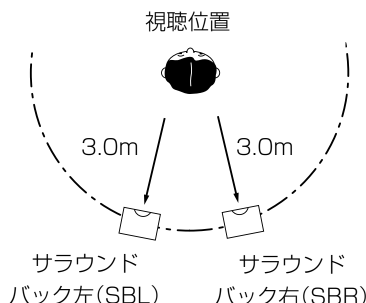
続けて他の項目の設定を行うときは、各項目の設定方法の手順2から始めます。

設定モードを終了するには決定ボタン ENTER を押します。

各項目についての詳しい説明は42ページから45ページをご覧ください。

サラウンドバックスピーカーまでの距離の設定

ここで設定の変更を行った時点で、その設定が簡単設定よりも優先されます。



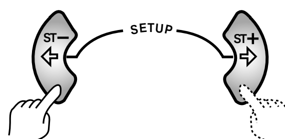
メモ

- 「スピーカーの設定」で、サラウンドバックスピーカーが無し(＊)に設定されている場合は設定できません。
- 20秒間ボタン操作がない場合には、設定モードを終了します。

他の項目の設定操作から続けて行うときは手順2から始めます。

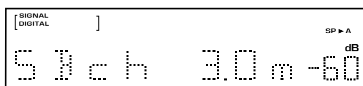
1 46ページの手順1～2の操作を行う。

2

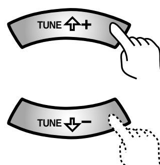


サラウンドバックスピーカーまでの距離の設定モードを選ぶ。

押すたびに各項目の設定モードに切り換わり、現在の設定内容が表示されます。



3



サラウンドバックスピーカーまでの距離を設定する。

0.3～9mの間を0.3m間隔で設定できます。

続けて他の項目の設定を行うときは、各項目の設定方法の手順2から始めます。

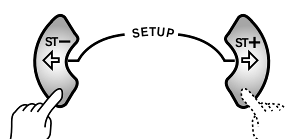
設定モードを終了するには決定ボタン ENTER を押します。

ダイナミックレンジコントロールの設定

他の項目の設定操作から続けて行うときは手順2から始めます。

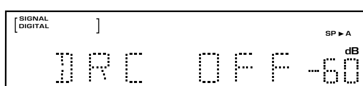
1 46ページの手順1～2の操作を行う。

2

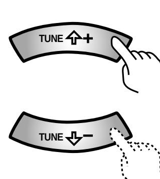


ダイナミックレンジコントロールの設定モードを選ぶ。

押すたびに各項目の設定モードに切り換わり、現在の設定内容が表示されます。

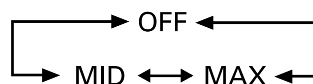


3



OFF、MIDまたはMAXを選ぶ。

押すたびに以下のように切り換わります。



メモ

- 小さい音量で楽しむ場合は、MAXに設定することをおすすめします。
- 20秒間ボタン操作がない場合には、設定モードを終了します。

続けて他の項目の設定を行うときは、各項目の設定方法の手順2から始めます。

設定モードを終了するには決定ボタン ENTER を押します。

細やかな設定

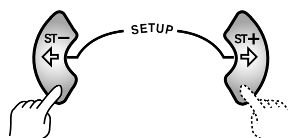
各項目についての詳しい説明は42ページから45ページをご覧ください。

デュアルモノの設定

他の項目の設定操作から続けて行うときは手順2から始めます。

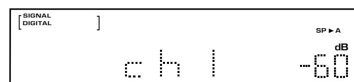
1 46ページの手順1～2の操作を行う。

2

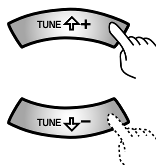


デュアルモノの設定モードを選ぶ。

押すたびに各項目の設定モードに切り換わり、現在の設定内容が表示されます。

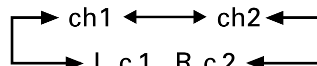


3



再生するスピーカーと音声チャンネルを設定する。

押すたびに以下のように切り換わります。



続けて他の項目の設定を行うときは、各項目の設定方法の手順2から始めます。

設定モードを終了するには決定ボタン ENTER を押します。

メモ

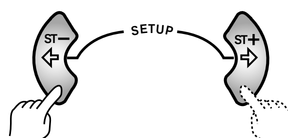
- 20秒間ボタン操作がない場合には、設定モードを終了します。

マルチチャンネルサラウンドバック入力1ch/2ch設定

他の項目の設定操作から続けて行うときは手順2から始めます。

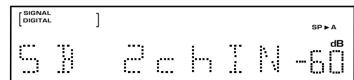
1 46ページの手順1～2の操作を行う。

2

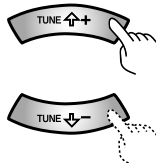


マルチチャンネルサラウンドバック1ch/2ch設定モードを選ぶ。

押すたびに各項目の設定モードに切り換わり、現在の設定内容が表示されます。



3



入力が1chか2chかを切り換える。

押すたびにSB 1ch INとSB 2ch INが切り換わります。

続けて他の項目の設定を行うときは、各項目の設定方法の手順2から始めます。

設定モードを終了するには決定ボタン ENTER を押します。

メモ

- 20秒間ボタン操作がない場合には、設定モードを終了します。
- 「SB 1ch IN」に設定したときは、本機のDVD7.1CH INPUTのサラウンドバック端子のR ch側に接続します。

各項目についての詳しい説明は42ページから45ページをご覧ください。

コンポーネントビデオ入力(COMPONENT VIDEO IN)の設定

工場出荷時と同じ接続(リアパネル表記と同じ機器を接続)をしたときはこの設定を変える必要はありません。ここでは、コンポーネントビデオ入力端子に接続した機器を、どの入力ファンクションで再生するかを設定します。どの機器をどこのコンポーネントビデオ入力端子に接続したかを確認しておいてください。

メモ 工場出荷時、コンポーネントビデオ入力❶（COMP.1）はDVDに、コンポーネントビデオ入力❷（COMP.2）はTV/SATに設定されています。

他の項目の設定操作から続けて行うときは手順2から始めます。

1 **46ページの手順1～2の操作を行う。**

2 **コンポーネントビデオ入力❶の設定モードを選ぶ。**

SETUP
ST－ ST＋

押すたびに各項目の設定モードに切り換わり、現在の設定内容が表示されます。

SIGNAL DIGITAL SP►A dB
COMP 1.DVD -60

3 **コンポーネントビデオ入力❶の設定を切り換える。**

TUNE ⇧＋
TUNE ⇩－

押すたびに以下の様に切り換わります。

→ DVD ⟷ TV ←
→ OFF ⟷ VCR ←

4 **コンポーネントビデオ入力❷も設定を切り換える必要があれば同じように割り当てたい入力に設定します。**



メモ

- 20秒間ボタン操作がない場合には、設定モードを終了します。

続けて他の項目の設定を行うときは、各項目の設定方法の手順2から始めます。

設定モードを終了するには決定ボタン ENTER を押します。

各項目についての詳しい説明は42ページから45ページをご覧ください。

デジタル入力(DIGITAL IN)の設定

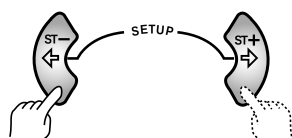
工場出荷時と同じ接続(リアパネル表記と同じ機器を接続)をしたときはこの設定を変える必要はありません。ここでは、デジタル入力端子に接続したデジタル機器を、どの入力ファンクションで再生するかを設定します。どのデジタル機器をどこのデジタル入力端子に接続したかを確認しておいてください。

メモ 工場出荷時、同軸デジタル入力1（COAX.1）はCDに、同軸デジタル入力2（COAX.2）はCD-R/TAPE/MDに、光デジタル入力1（OPT1）はDVD/LDに、光デジタル入力2（OPT2）はTV/SATに設定されています。

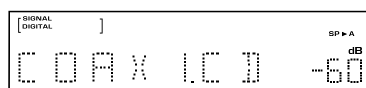
他の項目の設定操作から続けて行うときは手順2から始めます。

1 46ページの手順1～2の操作を行う。

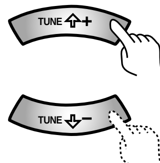
2 同軸デジタル入力 ❶ の設定モードを呼び出す。



ディスプレイを下記の状態にします。



3 同軸デジタル入力 ❶ を設定する。



例えばＤＶＤを接続している場合、「DVD」に設定します。
押すたびに以下の様に切り換わります。



4 同軸デジタル入力 ❷ と光デジタル入力の ❶ 、 ❷ も設定を切り換える必要があれば同じように割り当てたい入力に設定します。

続けて他の項目の設定を行うときは、各項目の設定方法の手順2から始めます。

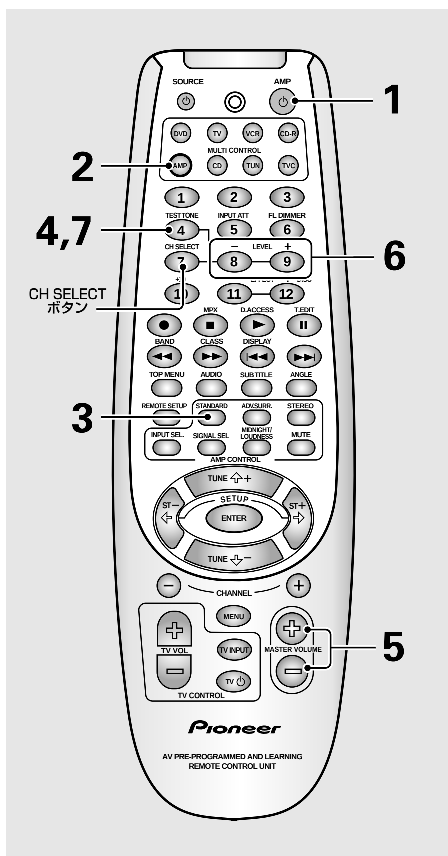
設定モードを終了するには決定ボタン ENTER を押します。

メモ

- 同軸デジタル入力(COAX❶、❷)と光デジタル入力(OPT❶、❷)はいずれも同じ入力を割り当てることはできません(デジタル入力の設定で２つ以上のデジタル端子を同じ入力切換に設定した場合、あとから設定したデジタル入力が優先され、ほかのデジタル入力はオフになります)。
- デジタル入力の設定ができる入力切換はDVD/LD、TV/SAT、CD、CD-R/TAPE/MD、VCR/DVRです。フロントパネルにある光入力端子についてはVIDEOに固定されていますので変更することはできません。

スピーカー出力レベル（各チャンネルの音量レベル）の調整

システムセットアップの設定が終わりましたら、以下の手順で各チャンネルの音量レベルを合わせてください。



メモ

- 工場出荷時は、各チャンネルとも0 dBに設定されています。
- CH SELECTボタンを押して各チャンネルのレベル調整モードに入った場合、5秒間なにも操作がないときは調整モードは終了します。
- サブウーファーのテストトーンは、周波数が低いので実際のレベルより小さく聞こえます。
- サブウーファーの調整は音楽や映画ソースなどを実際に使って適切な値に調整してください。
- サブウーファーのレベルはできるだけサブウーファー側で行い、本機での調整は補助としてお使いください。

1 AMP

本機の電源を入れる。

2 AMP

AMPボタンを押してリモコンをアンプ操作モードにする。

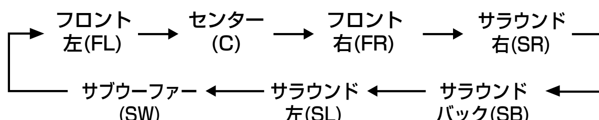
3 STANDARD

リスニングモードをSTANDARDにする。

4 TEST TONE 4

TEST TONEボタンを押す。

テストトーン（ザーという音）がスピーカーの設定（➡46、47ページ）で有りに設定されているスピーカーからのみ以下の順番で出力されます。（手順5へお進みください）



CH SELECT 7

またはCH SELECTボタンを押す。

テストトーンは出力されませんが、押すごとに各チャンネルのレベル調整モードになります。（選択できるチャンネルはスピーカーの設定（➡46、47ページ）やリスニングモードの選択（➡35ページ）によってかわります）

5 MASTER VOLUME

好みの音量に調整する。

6 − LEVEL ＋ 8 9

テストトーンが出力されているチャンネルのレベルを調整する。

各スピーカーからの音が同じ大きさに聴こえるように調整してください。チャンネルレベルは±10dBの範囲で調整できます。

7 TEST TONE 4

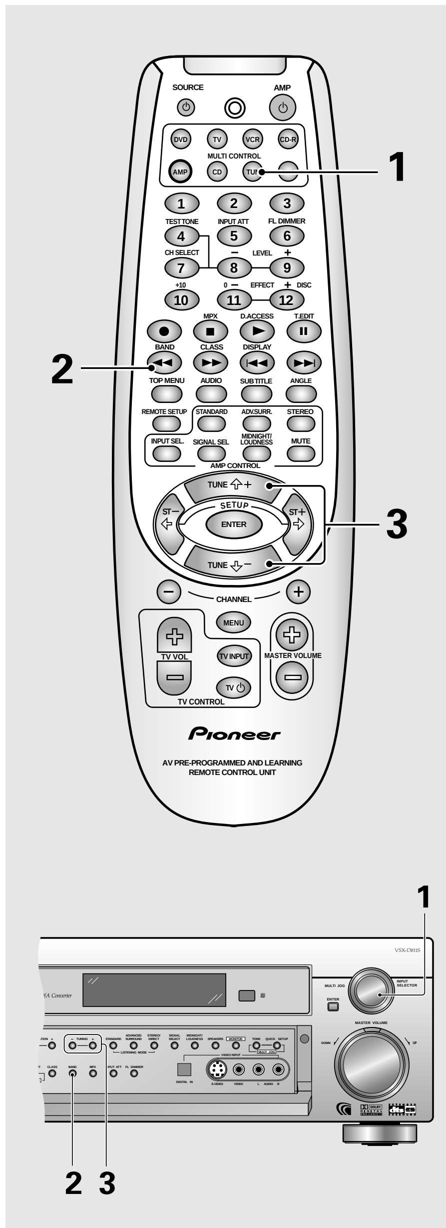
テストトーンボタンを押す。

テストトーンが止まり、レベル調整を終了します。

ラジオ放送を聞く

放送局の受信のしかた

アンテナが接続されていないと、FM/AM放送を聞くことはできません。

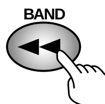


1



チューナーモードにする。

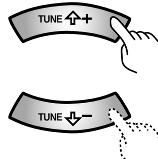
2



AMとFMを切り換える。

押すたびに、AMとFMが切り換わります。

3



放送局を受信する。

受信のしかたには、3種類あります。自動的に放送局を受信するオートチューニング、手動で1ステップずつ周波数を合わせていくマニュアルチューニング、同じく手動で周波数を合わせるハイスピードマニュアルチューニングとがあります。

オートチューニング

ボタンを押して、周波数が動きはじめたら指を離す。

周波数が自動的に変化して、放送局を受信すると止まります。
途中で止めるときはTUNE+ボタンまたはTUNE–ボタンを押します。

マニュアルチューニング

ボタンを1回ずつ押す。

周波数が1ステップずつ変化します。
1ステップはFM放送が0.05MHzで、AM放送が9kHzです。

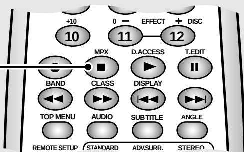
ハイスピードマニュアルチューニング

ボタンを押し続けます。

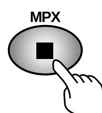
周波数が連続して変化します。指を離すと止まります。

MPXモードを使う

FM局を聞いているとき、受信電波が弱いため、TUNEDもしくはSTEREOインジケーターが点灯しないときがあります。そのようなときはMPXモードでモノラル受信にすることでノイズを低減させることができます。



1



モノラル受信にする。

MONOインジケーターが点灯します。

押すたびに、モノラル受信とステレオ受信が切り換わります。

放送局を記憶する

本機では、よく聞く放送局をA.B.Cのクラスに各10局、合計30局まで記憶することができます。

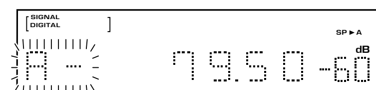
1 記憶したい放送局を受信する。（➡56ページ）

2

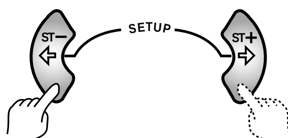


放送局の記憶モードにする。

ステーション番号が点滅します。



3



ステーション番号を選ぶ。

A0～C9までのステーション番号をお好みで選択することができます。

本体の場合はMULTI JOGで選びます。

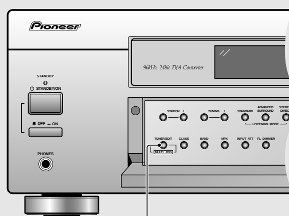
4

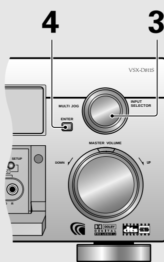


記憶したいステーション番号を決定する。

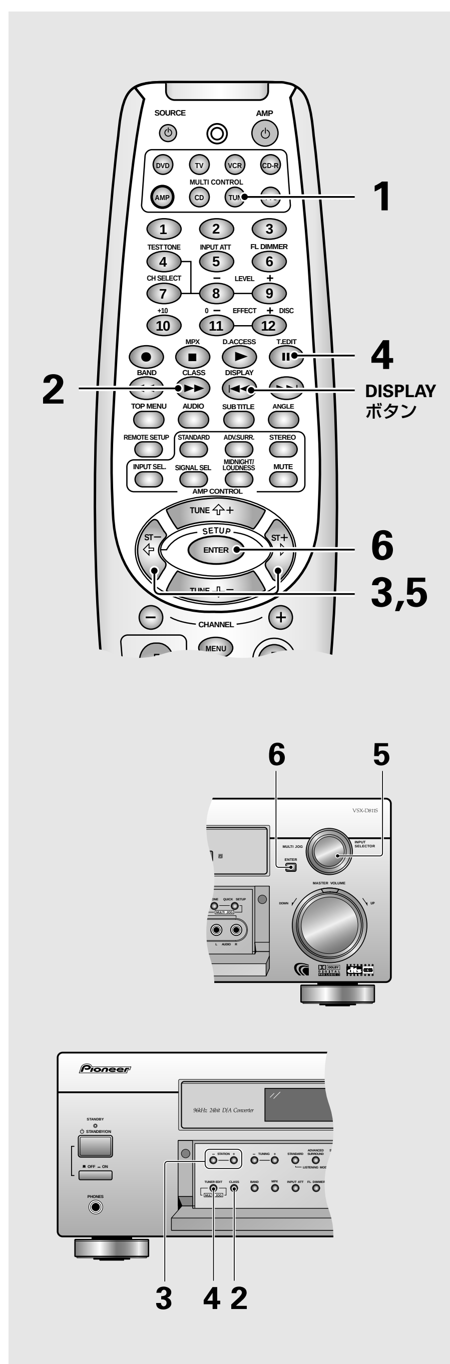
ステーション番号が記憶されます。

5 手順1～4を繰り返して30局まで記憶することができます。





放送局に名前をつける（ステーションネーム）



1 チューナーモードにする。

2 名前をつけたい局が記憶されているメモリークラスを選ぶ。

3 名前をつけたい局が記憶されているステーション番号を選ぶ。

4 ステーションネームモードにする。

「S.T NAME」と表示されステーションネームモードになります。

5 入力したい文字を選ぶ

本体の場合はMULTI JOGで選びます。

入力できる文字は以下の通りです。

ABCDEFGHIJKLMNOPQRSTUVWXYZ

[\ ]_!0123456789

” %&’()∗+,–./-==?a(スペース)

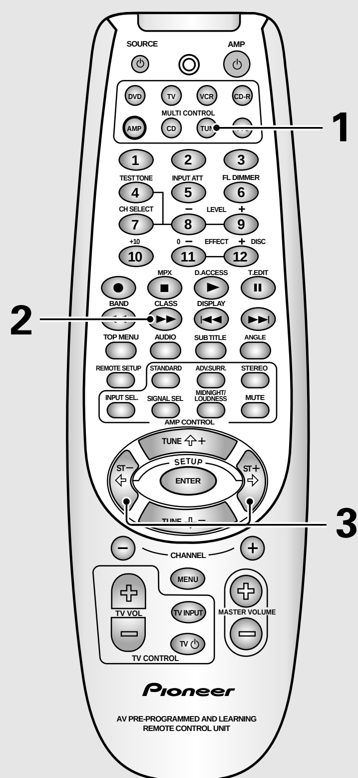
6 選んだ文字を決定する。

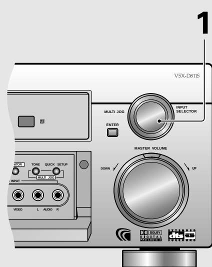
7 手順5〜6を繰り返して名前をつける。

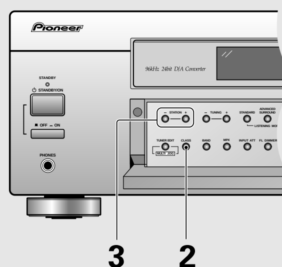
メモ

- 最大4文字までの入力となります。
- リモコンのDISPLAYボタンを押すことで、周波数とメモリーさせた名前を切り換えることができます。

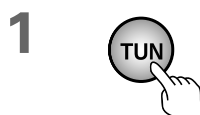
記憶した放送局を呼び出す





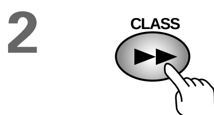


1



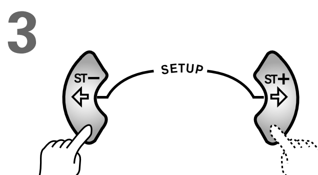
チューナーモードにする。

2



呼び出したい局が記憶されているメモリークラスを選ぶ。

3



呼び出したい局が記憶されているステーション番号を選ぶ。

メモ

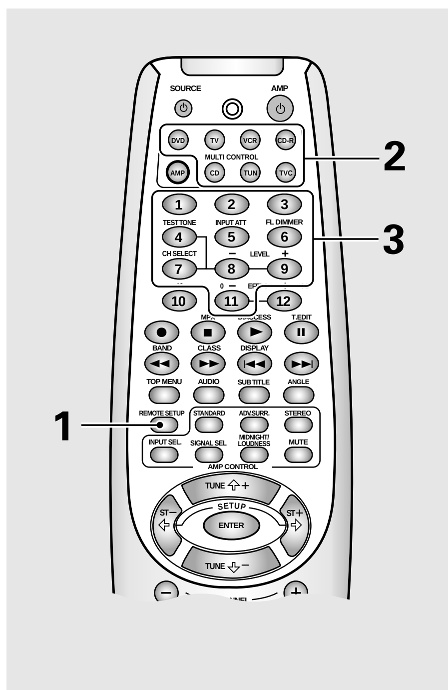
・ 旅行などで長期間本機の電源コードを電源コンセントから抜いておいたり、主電源をOFFにしておきますとステーションメモリーは消去されます。

他機器を操作するためのリモコン設定

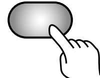
付属のリモコンを使って、本機以外のパイオニア製品や他社の機器（ビデオデッキ、テレビ、DVD、CDプレーヤーなど）　を操作することができます。お手持ちの機器のプリセットコードがリモコンに登録されている場合は、該当するコードを呼び出して簡単に本機のリモコンで操作できるようになります。お手持ちの機器のプリセットコードがリストに記載されていない場合でも、その機器に付属のリモコンから直接登録（学習）することが可能です。

他社のリモコン信号を本機のリモコンに呼び出す（ダイレクトプリセットコード設定）

リモコンを使って、お手持ちのパイオニア製品や他社の機器（DVDプレーヤー、MDレコーダー、VCR、TV、LDプレーヤー、CDプレーヤーなど）を操作することができます。他社の機器をお持ちの場合は次の設定を行ってください。



1



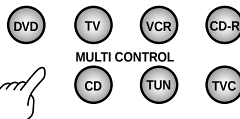
REMOTE SETUPボタンを3秒間押し続けます

プリセットコード設定モードに入る。

リモコンのLEDランプが2秒間点灯します。

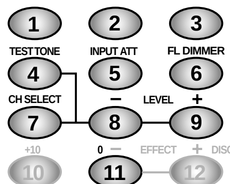
プリセットコード設定モードを中止するにはREMOTE SETUPボタンをもう一度押します。

2



設定するマルチコントロールを選ぶ。

3



メーカーコードリスト（76～82ページ）で確認したメーカーコードを入力する。

正しいコードナンバーが入力されるとLEDランプが2秒間点灯します。間違ったコードナンバーが入力されるとLEDランプが3回点滅します。

コードナンバーが正しく入力されても間違って入力されてもプリセットコード設定モードは終了します。

0は数字ボタンの11を押します。

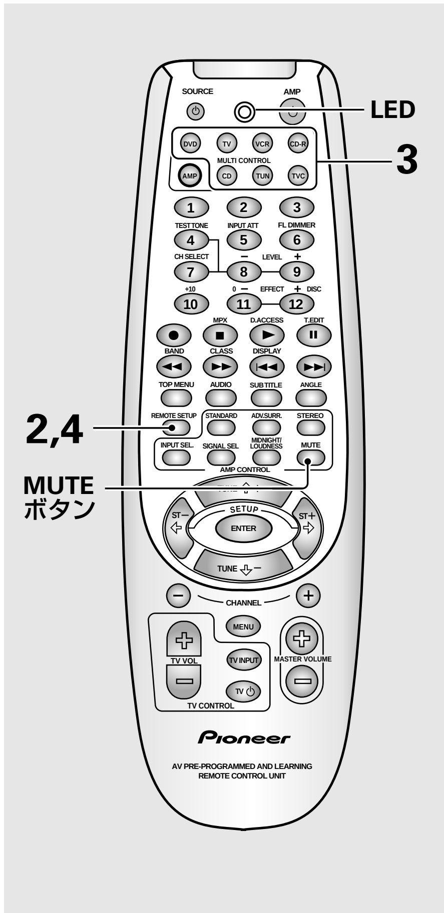
4　**他の機器もプリセットコードを設定したい場合は手順1～3を繰り返します。**

メモ

- 30秒間なにも操作がない場合は、リモコンのセットアップモードを終了します。
- チューナーに他機器のプリセットコードを設定した時は、本機のチューナーの操作ができなくなります。本機のチューナーを操作したい時は手順3で7008のコードを入力してください。
- リモコンの設定中、数字ボタンの11は0を入力する動作になります。

サーチ機能によるプリセットコード設定

10個のプリセットコードを自動的にサーチしてリモコンに呼び出します。サーチされた10個のコードに他機器が反応した場合、その１０個のコードの中から正しいコードを選びます。コードナンバーがわからないときに便利な設定のしかたです。



1 操作したい機器の電源を入れる。CDプレーヤーやビデオデッキなど再生機能がある機器のときは再生してください。

2 REMOTE SETUP

REMOTE SETUPボタンを3秒間押し続けます

プリセットコード設定モードに入る。

リモコンのLEDランプが2秒間点灯します。

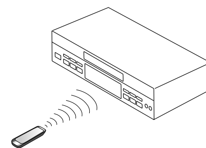
プリセットコード設定モードを中止するにはSETUPボタンをもう一度押します。

3 DVD TV VCR CD-R MULTI CONTROL CD TUN TVC

設定するマルチコントロールを選ぶ。

4 REMOTE SETUP

REMOTE SETUPボタンを3秒間押し続けます



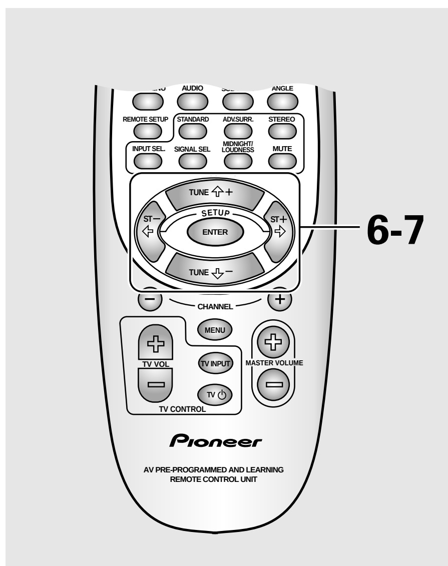
１０個のメーカーコードを呼び出す。（プリセットコードサーチモードにする）

１０個のコードを呼び出している間、リモコンのＬＥＤランプが点滅します。このときリモコンは手順1の機器に向けておいてください。手順1の機器が演奏停止したり、電源がOFFになった場合はメーカーコードが呼び出されたことになります。その場合は手順5へお進みください。LEDランプの点滅が終了しても手順1の機器になにも反応がなかった場合は、繰り返しＳＥＴＵＰボタンを３秒間押し続けます。

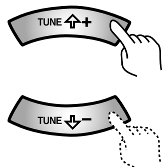
サーチモードを中止するにはMUTEボタンを２秒間押し続けます。ただし、リモコンコード送信中はサーチモードを中止することはできません。

5 操作したい機器の電源を再度入れる。再生が停止したときは再度再生する。

☞次のページへ続きます。



6



リモコンを手順1の機器に向けて手順1の機器が反応するまで押します

10個のコードの中から手順1の機器に合ったコードを1つ選択する。

ボタンを押していくうちに手順1の機器が演奏停止したり、電源がOFFになった場合はメーカーコードが呼び出されたことになります。

7



ENTERボタンを3秒間押し続けます

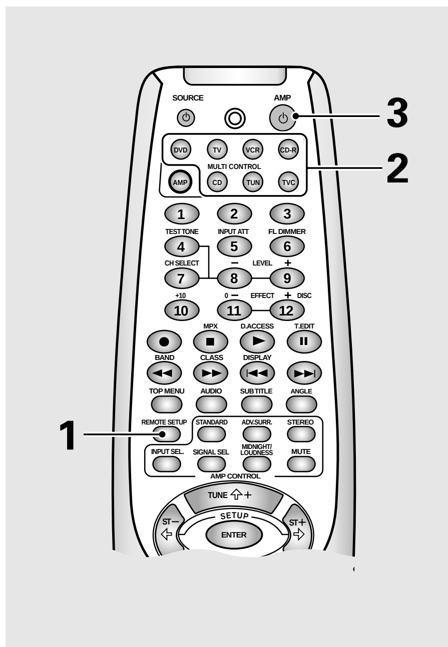
メーカーコードを設定する。

リモコンのLEDランプが2秒間点灯します。

リモコンは通常操作に戻ります。

Learningセットアップモード(他機器のリモコン操作を本機のリモコンに登録する)

本機のリモコンで操作したい他機器のプリセットコードがメーカーコードリスト(76～82ページ参照)に見当たらない場合は、以下の手順で他機器のリモコンの操作を本機のリモコンに登録することができます。プリセットコードを登録しただけでは使用できない操作についても、以下の手順で本機のリモコンに追加登録(学習)することができます。



1

REMOTE SETUP

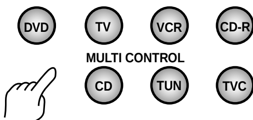
REMOTE SETUPボタンを3秒間押し続けます

リモコンのセットアップモードに入る。

リモコンのLEDランプが2秒間点灯します。

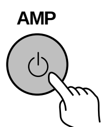
リモコンのセットアップモードを中止するにはREMOTE SETUPボタンをもう一度押します。

2



設定するマルチコントロールを選ぶ。

3



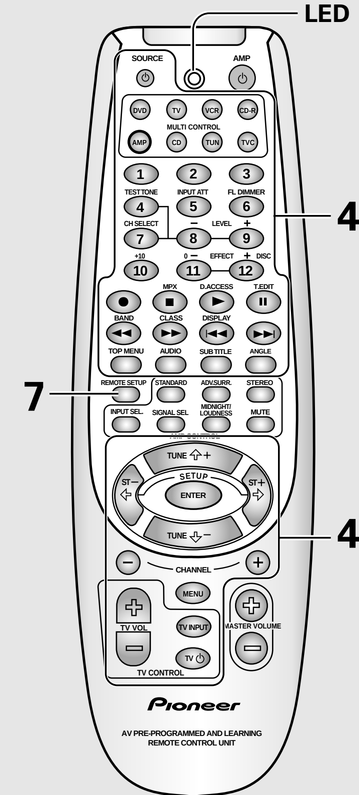
AMP ⏻ ボタンを2秒間押し続けます

Learningセットアップモードに入る。

リモコンのＬＥＤランプが点灯します。

Learningセットアップモードを中止するにはSETUPボタンを1秒間押し続けます。

３０秒間なにも操作がない場合はLearningセットアップモードを終了します。

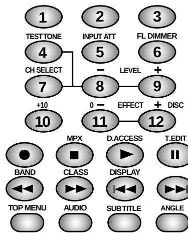


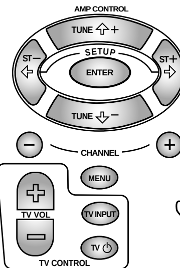

メモ

・リモコンによっては、操作を登録できないものもあります。また、手順5でリモコン同士の距離を変えてみることで、登録できる場合もあります。1～10cm程度でも試してみて下さい。

4 登録したい操作ボタンを選択する。

リモコンのLEDランプが素早く点滅します。



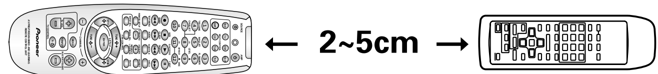



メモ

TV ⏻ 、TV INPUT、TV VOL +/－ボタンに登録できるマルチコントロールボタンは、TVCボタン(テレビ操作)とTVボタンのみです。

5 本機のリモコンに他機器リモコンの登録したい操作ボタンを登録する。（以下の1～2を行う）

① 本機と他機器のリモコンを互いに下のように向ける。

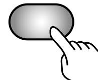


② LEDランプが素早く点滅している間に、登録したい他メーカーのリモコンのボタンを押す。リモコンのLEDランプの点滅がいったん消えて、再度点灯したときは正しく登録されたことになります。正しく登録されなかった場合は、リモコンのLEDランプが3回点滅します。

6 登録を続ける場合は、以下の手順を行います。

同じリモコンから別の操作を追加登録するには
手順4、5を繰り返します。
別のリモコンから操作を登録するには
手順2～5を繰り返します。

7 Learningセットアップモードを終了する。

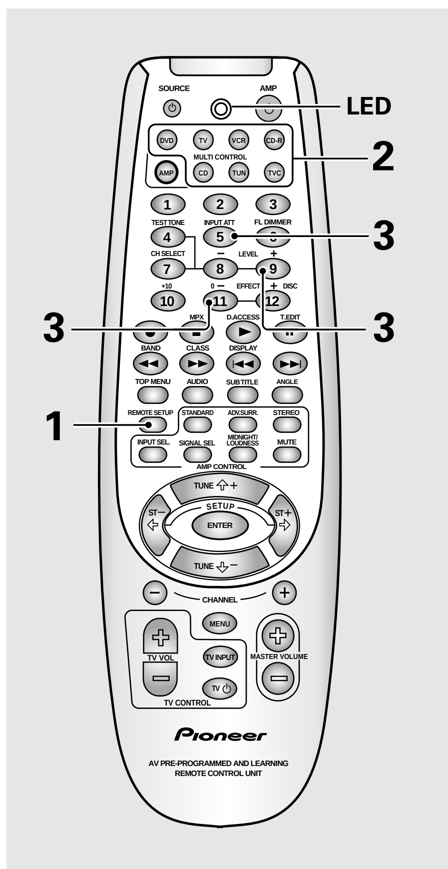


REMOTE SETUP
ボタンを1秒間押し
続けます

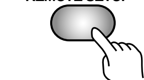
リモコンは通常動作に戻ります。

ダイレクトファンクションモードを設定する

ダイレクトファンクションはMULTI CONTROLボタンを押したときに、本機の入力セレクターを切り換えるかどうかを設定する機能です。オフにすると入力セレクターは切り換わらず、リモコンの操作ボタンの機能だけが切り換わります。本機に接続されている機器と、直接テレビに接続されているため本機の入力切換動作が必要ない機器と区別できるようにするためのモードです。工場出荷時はすべてオンになっています。



1

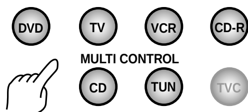


REMOTE SETUPボタンを3秒間押し続けます

リモコンのセットアップモードに入る。

リモコンのLEDランプが2秒間点灯します。
リモコンのセットアップモードを中止するにはREMOTE SETUPボタンをもう一度押します。

2

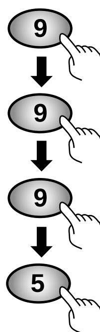


ダイレクトファンクションのON/OFF設定をしたいマルチコントロールボタンを選択する。

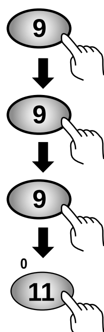
3

ダイレクトファンクションのON、OFFを設定する。

ダイレクトファンクションOFF



ダイレクトファンクションON

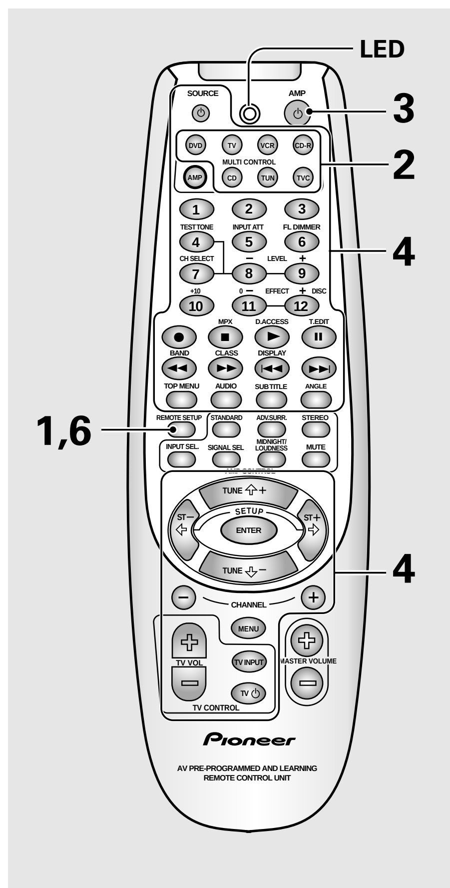


ダイレクトファンクションをOFFに設定するときは、9 ➡ 9 ➡ 9 ➡ 5 ボタンを順に押してください。
ダイレクトファンクションをONに設定するときは、9 ➡ 9 ➡ 9 ➡ 11 ボタンを順に押してください。
リモコンのLEDランプが2回点滅すれば正しく設定されたことになります。

リモコンの設定解除

リモコンのボタンに設定された機能を解除する

本機のリモコンのボタンに設定された機能を解除する方法について説明します。



1

REMOTE SETUP

REMOTE SETUP
ボタンを3秒間押し
続けます

リモコンのセットアップモードに入る。

リモコンのLEDランプが2秒間点灯します。

リモコンのセットアップモードを中止するにはREMOTE SETUPボタンをもう一度押します。

2

DVD　TV　VCR　CD-R
MULTI CONTROL
CD　TUN　TVC

設定を解除したいボタンのマルチコントロールボタンを選択する。

3

AMP

AMP ⏻ ボタンを
3秒間以内に2回押す

リモコンの設定解除モードに入る。

リモコンのLEDランプが点滅します。

4

設定を解除したいボタンを3秒間押し続けます。

リモコンのLEDランプがいったん消灯し、その後再度点滅します。

5

他にも設定を解除したいボタンがある場合は手順4を繰り返します。

6

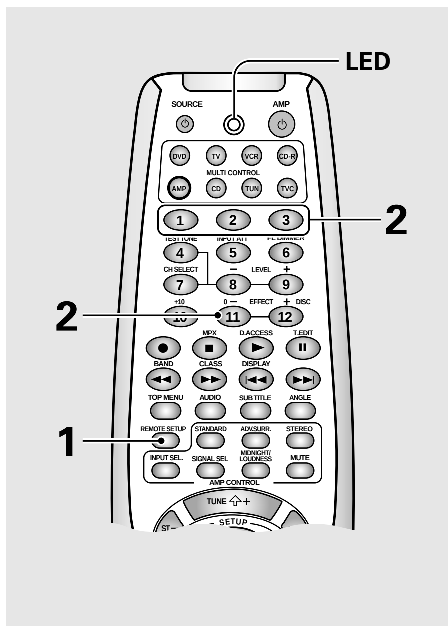
REMOTE SETUP

REMOTE SETUP
ボタンを1秒間押し
続けます

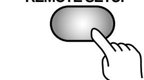
リモコンの設定解除モードを終了する。

リモコンに設定されたすべての機能を解除する

本機のリモコンに設定されたすべての機能を解除する方法について説明します。



1

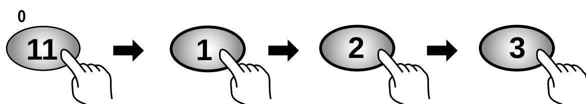


REMOTE SETUP
ボタンを3秒間押し
続けます

リモコンのセットアップモードに入る。

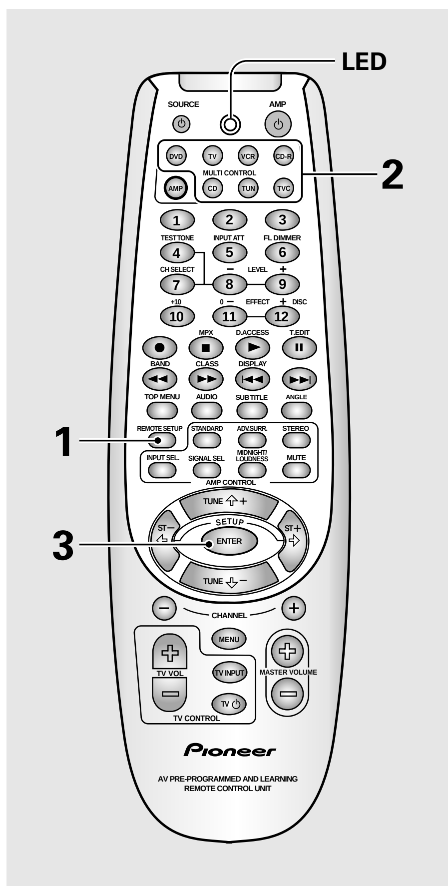
リモコンのLEDランプが2秒間点灯します。
リモコンのセットアップモードを中止するにはREMOTE SETUPボタンをもう一度押します。

2 **リモコンの設定をすべて解除する。（0123を順に押す）**

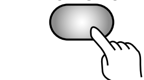


設定されたすべての機能が解除されたときは、リモコンのLEDランプが2秒間点灯します。

プリセットコードをチェックする



1

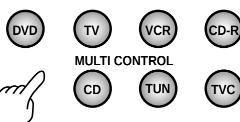


REMOTE SETUP
ボタンを3秒間押し
続けます

リモコンのセットアップモードに入る。

リモコンのLEDランプが2秒間点灯します。
リモコンのセットアップモードを中止するにはREMOTE SETUPボタンをもう一度押します。

2



プリセットコードをチェックしたいマルチコントロールボタンを選択する。

3



ENTERボタンを
2秒間押し続けます

プリセットコードをチェックする。

4桁のプリセットコードをリモコンのLEDランプが数字の回数分点滅して知らせてくれます。例えばプリセットコードが1302の場合、まずLEDランプが1回点滅します。その後に3回点滅し、その後に10回点滅し、最後に2回点滅します。

他機器の操作一覧表

- 以下の他機器操作を行うには、あらかじめ各機器のプリセットコードを呼び出しておく必要があります。詳しくは「他機器を操作するためのリモコン設定」(60～63ページ)をご覧ください。
- 実際に操作を始める前に、操作したい機器のマルチコントロールボタンを押してください。
- 機種によっては操作できないボタンもあります。
- 各機器の詳しい機能については、各機器の取扱説明書をお読みください。

ボタン	機能	機器の種類
SOURCE ⏻	機器の電源をON/OFFします。	CD/MD/CD-R/VCR/DVD/LD/DVDレコーダー/カセットデッキ
⏮	再生中に1回押すと現在再生中のトラックの初めに戻ります。繰り返し押すとさらに前のトラックの初めに戻ります。	CD/MD/CD-R/DVD/LDプレーヤー
	チャンネルを1つ下げます。	VCR/DVDレコーダー
	オートリバースデッキの場合、テープをリバース方向(◀)に再生します。	カセットデッキ
⏭	再生中に1回押すと次のトラックの初めに進みます。繰り返し押すとさらに次のトラックの初めに進みます。	CD/MD/CD-R/DVD/LDプレーヤー
	チャンネルを1つ上げます。	VCR/DVDレコーダー
	オートリバースデッキの場合、テープをフォワード方向(▶)に再生します。	カセットデッキ
⏸	再生、録音を一時停止します。	CD/MD/CD-R/VCR/DVD/LD/DVDレコーダー/カセットデッキ
▶▶	押し続けると早送り再生になります。	CD/MD/CD-R/VCR/DVD/LD/DVDレコーダー/カセットデッキ
◀◀	押し続けると早戻し再生になります。	CD/MD/CD-R/VCR/DVD/LD/DVDレコーダー/カセットデッキ
▶	再生します。	CD/MD/CD-R/VCR/DVD/LD/DVDレコーダー/カセットデッキ
■	再生を停止します。（一部のプレーヤーでは停止中に押すと、ディスクテーブルが出てくるものもあります）	CD/MD/CD-R/VCR/DVD/LD/DVDレコーダー/カセットデッキ
●	録画します。	VCR/ DVDレコーダー
数字ボタン	ダイレクトに曲を選曲します。	CD/MD/CD-R/VCR/DVD/LDプレーヤー
	ダイレクトにチャプター(トラック)を選択します。	DVD/DVDレコーダー
	ダイレクトにチャンネルを選択します。	TV/サテライトTV/ケーブルTV
+10	トラック番号の10の位を選ぶときに使用します。例えば、このボタンを押した後に数字ボタンの3を押すと、トラック番号13が選択されます。	CD/MD/CD-R/VCR/DVD/LDプレーヤー
DISC	ディスクをイジェクトします。	MD プレーヤー
	ビデオとTVチューナーを切り換えます。	VCR/ DVDレコーダー
	ディスクのA面とB面を切り換えます。	LD プレーヤー
	このボタンを押した後に数字ボタンを押して、ディスク番号を選択します。	マルチディスクタイプCDプレーヤー
MENU	DVD、DVRまたはTVなどに登録されている各種メニューを表示します。	DVD/DVDレコーダー/TV/サテライトTV/ケーブルTV
TOP MENU	タイトルメニュー画面を表示します。	DVD/DVDレコーダー
AUDIO	ディスクに記録されている音声を選択します。	DVD/DVDレコーダー
SUB TITLE	ディスクに記録されている字幕を選択します。	DVD/DVDレコーダー
ANGLE	ディスクに記録されているアングルを選択します。	DVD/DVDレコーダー
⇧	再生、録音を一時停止します。	カセットデッキ
⇩	再生を停止します。	カセットデッキ
ENTER	再生します。	カセットデッキ
⇦	テープをリバース方向へ早送りします。	カセットデッキ
⇨	テープをフォワード方向へ早送りします。	カセットデッキ
⇦ ⇨ ⇧ ⇩ & ENTER	メニュー画面を操作するときに使います。⇦ ⇨ ⇧ ⇩ で選択し、ENTERで決定します。	DVD/DVDレコーダー/TV/サテライトTV/ケーブルTV
TV ⏻	テレビの電源をON/OFFします。	TV/サテライトTV/ケーブルTV
TV INPUT	テレビの入力を切り換えます。	TV
TV VOL	テレビの音量を調整します。	TV/サテライトTV/ケーブルTV
CHANNEL +/–	テレビのチャンネルを選択します。	TV/サテライトTV/ケーブルTV VCR/ DVDレコーダー

用語解説

DVDソフトのパッケージのほとんどに以下のような表示がされています。
1枚のディスクに複数の音声が収録されている場合が多く、どの音声を聴くのか選択することができます。



1. 英　語（5.1ch サラウンド）
2. 日本語（ドルビーサラウンド）
3. 英　語（DTS 5.1ch サラウンド）





収録音声数　録音方式　音声記録方式

音声記録方式について

ドルビーデジタル

DVDの標準音声フォーマットの1つとして採用された音声圧縮記録方式です。モノラルやステレオで記録されているソフトもあれば、現在最も主流とされている5.1chサラウンドで記録されているソフトもあります。5.1chサラウンドソフトには、5つのチャンネルの個別にそれぞれのシーンに合った音声が記録されており、サブウーファーから出力される低音も記録されているため、本機とデジタルケーブルで接続して再生することにより、すべてのチャンネルの信号が伝送され、臨場感あふれるマルチチャンネルサラウンド再生をお楽しみ頂くことができます。
よってドルビーデジタル信号を再生するにはDVDプレーヤーと本機をデジタル接続することが必要です。

ドルビーデジタルサラウンドEX

ドルビーデジタルサラウンドEXは、映画「スターウォーズ・エピソード1」の製作に向けて、ドルビーラボラトリーズとルーカスフィルム社で共同開発された、6.1ch再生可能な新しい音響フォーマットです。
新たに加えられたサラウンドバックchにより空間表現力、定位感が高められ、中央から離れた客席からでも360度の回転や頭上を通過するような移動音効果・音像をより生々しく体感することが可能となりました。フィルム上ではサウンドトラックのサラウンドL/サラウンドRチャンネルにエンコードされるため、既存のドルビーデジタル(5.1ｃｈ)環境での再生互換性があります。この技術により製作された映画のリストはドルビーラボラトリーズのウェブサイトにてご覧になれます。http://www.dolby.com/

DTS

デジタルシアターシステム(Digital Theater System)の略で、DVDの標準音声フォーマットの1つとして採用された音声圧縮記録方式です。5.1chサラウンドが主流で、音声の低圧縮率とデータの高転送レートがもたらす豊富な情報量により、高音質マルチチャンネルサラウンド再生を実現します。
DTS信号を再生するにはDVDプレーヤーと本機をデジタル接続することが必要です。

DTS-ES

2000年11月に発表された新たなるサラウンドフォーマットで、DTS-ESは「DTS Extended Surround」の略称です。“DTS-ESディスクリート6.1”と“DTS-ESマトリックス6.1”の2種類があり、どちらも従来のDTS5.1chデコーダーとの下位互換性を有しています。DTS-ESは従来の5.1chシステムにサラウンドバック(SB)チャンネルを加えたもので、かつてない音像・定位感をもたらす事が可能になりました。

MPEG-2 AAC(Advanced Audio Coding)



MPEG-2オーディオの標準方式の一つで、BSデジタル放送で採用されている音声符号化規格です。低ビットレートでかつ高音質を確保できる点が特長で、番組内容によりマルチチャンネル設定が可能なフォーマットです。米国パテントナンバーは次ページの通りです。

08/937,950	5 297 236	5,481,614	5,490,170
5848391	4,914,701	5,592,584	5,264,846
5,291,557	5,235,671	5,781,888	5,268,685
5,451,954	07/640,550	08/039,478	5,375,189
5 400 433	5,579,430	08/211,547	5,581,654
5,222,189	08/678,666	5,703,999	05-183,988
5,357,594	98/03037	08/557,046	5,548,574
5 752 225	97/02875	08/894,844	08/506,729
5,394,473	97/02874	5,299,238	08/576,495
5,583,962	98/03036	5,299,239	5,717,821
5,274,740	5,227,788	5,299,240	08/392,756
5,633,981	5,285,498	5,197,087	

PCM

Pulse Code Modulationの略で、圧縮していない2チャンネルステレオデジタル音声です。CDのデジタル音声はほとんどこの方式です。DVDの音声記録方式の1つでもありますが、CDのサンプリング周波数が44kHzであるのに対し、DVDのサンプリング周波数は48kHzや96kHzと高いので、DVDの方がより高音質の音声を楽しめます。

再生方式ついて

(2ch)ステレオ再生

左右2つのスピーカーのみによる再生のことです。(ヘッドホン使用時は、ヘッドホンの左右2つのチャンネルのみ)

ドルビープロロジックサラウンド再生

2chサラウンド信号や2chステレオ信号をドルビープロロジック回路を通し、マルチチャンネルサラウンドで再生することです。2chサラウンド信号については圧縮された信号を忠実にデコード(再生)し、2chステレオ信号については2チャンネル分の信号からセンター、サラウンドチャンネルの信号をつくりだします。ただし、この再生方式ではサラウンドチャンネルはモノラルであるため、左右のサラウンドスピーカーからは同じ音声が出力されます。

ドルビープロロジックⅡサラウンド再生

ドルビープロロジックⅡは、ドルビープロロジックを更に改良し、ステレオ音声を5.1chに拡張して再生するためのマトリックスデコード技術です。ステアリングロジック回路により、全可聴帯域のメイン5chを作り出します。CDのような通常のステレオ音楽素材に対してもより優れた立体音場効果、包囲感、より明確な定位をもたらし、ドルビーサラウンドエンコードされた素材はディスクリート5.1chに匹敵する移動感をも実現できるものです。

■プロロジックとプロロジックⅡの違い

	プロロジック	プロロジックⅡ
効果的なソース	ドルビーサラウンドエンコード処理されたステレオ音声	すべてのステレオ音声
デコードチャンネル数	4.1ch (サラウンドモノラル)	5.1ch (サラウンドステレオ)
周波数特性	サラウンド 7kHz帯域制限	全チャンネル フルバンド

マルチチャンネルサラウンド再生

3本以上のスピーカーでサラウンド再生することです。音声信号が3チャンネル以上の録音方式で記録されているソフトについてはソフトに忠実に再生します。なかでも5.1chサラウンド信号の再生については、左右のサラウンドスピーカーからもそれぞれ異なる音声が出力されますし、6.1chサラウンド信号の再生については、5.1chに加えサラウンドバックスピーカーからも異なる音声が出力されるので、ドルビープロロジックサラウンド再生に比べ、より立体感のある音場で迫力のある臨場感がお楽しみいただけます。

モノラル再生

モノラル信号やデュアルモノラル信号をソフトに忠実に再生することです。

録音方式ついて

2ch ステレオ信号

左右2つのチャンネルに別々の音が記録されている信号です。通常の音楽用CDなどはほとんどこの信号で録音されています。

2ch サラウンド信号（ドルビーサラウンド信号）

フロント左/右、センター、サラウンドの4つのチャンネルの音声信号を左右2つのチャンネルに圧縮した信号です。この信号をドルビープロロジックサラウンド再生することにより、各チャンネルの音声信号がソフトに忠実に再生されます。

5.1ch サラウンド信号

フロント左/右、センター、サラウンド左/右の5つのチャンネルと超低音域専用チャンネル（LFEチャンネルと呼ばれサブウーファーから再生されます）にそれぞれ異なる信号が記録されている信号です。この信号を忠実に再生することにより、立体感のある音場を得ることができます。

6.1ch サラウンド信号

フロント左/右、センター、サラウンド左/右、サラウンドバックの6つのチャンネルと超低音域専用チャンネル（LFEチャンネルと呼ばれサブウーファーから再生されます）にそれぞれ異なる信号が記録されている信号です。この信号を忠実に再生することにより、5.1ch以上の音像・定位感を得ることができます。

保証とアフターサービス

[redacted]

保証書は、必ず「販売店名・購入日」などの記入を確かめて販売店から受け取っていただき、内容をよくお読みのうえ、大切に保管してください。

保証期間はご購入日から1年間です。

[redacted]

当社は、この製品の補修用性能部品を製造打ち切り後最低8年間保有しています。性能部品とはその製品の機能を維持するために必要な部品です。

[redacted]

お買上げの販売店または、お近くのパイオニアサービスステーションをご利用ください。
所在地、電話番号は別添の「ご相談窓口・修理窓口のご案内」をご覧ください。

[redacted]

72～75ページにしたがって調べていただき、なお異常のあるときは、必ず電源プラグを抜いてから、お買い上げの販売店、またはお近くのパイオニアサービスステーションにご連絡ください。

[redacted]

- 商品名：AVデジタルサラウンド・アンプ
- 型番：VSX-D811S
- お買い上げ日
- 故障または異常の内容（できるだけ詳しく）
- ご住所
- お名前
- 電話番号
- 訪問ご希望日
- ご自宅までの道順と目標（建物や公園など）

■ 保証期間中は：

修理に際しては、保証書をご提示ください。保証書に記載されている当社の保証規定に基づき修理いたします。

■ 保証期間が過ぎているときは：

修理すれば使用できる製品については、ご希望により有料で修理いたします。

仕様

オーディオ部

実用最大出力（EIAJ、1kHz、10%、6 Ω）
　フロント .... 100 W/CH
　センター .... 100 W
　サラウンド .... 100 W/CH
定格出力（ステレオ動作時）
　20 Hz～20 kHz、0.09%、6 Ω ...... 80 W+80 W
入力端子(感度/インピーダンス)
　CD, AUX, VCR/DVR, CD-R/TAPE/MD, DVD/LD, TV/SAT, VIDEO
　............ 200 mV/47 kΩ
SN比(IHF、ショートサーキット、Aネットワーク)
　CD, AUX, VCR/DVR, CD-R/TAPE/MD, DVD/LD, TV/SAT, VIDEO .... 98 dB
周波数特性
　CD, AUX, VCR/DVR, CD-R/TAPE/MD, DVD/LD, TV/SAT, VIDEO
　............ 5 Hz～100,000 Hz $^{+0}_{-3}$ dB
出力端子(レベル/インピーダンス)
　VCR/DVR REC, CD-R/TAPE/MD REC
　............ 200 mV/2.2 kΩ
トーンコントロール
　BASS .... ± 6dB（100 Hz）
　TREBLE .... ± 6dB（10 kHz）
　LOUDNESS ..... + 9dB/+9dB（100 Hz/10 kHz）

ビデオ部

入力端子(感度/インピーダンス)
　VCR/DVR、DVD/LD、TV/SAT、VIDEO
　............ 1 Vp-p/75 Ω
出力端子(レベル/インピーダンス)
　VCR/DVR .... 1 Vp-p/75 Ω
周波数特性
　VCR/DVR、DVD/LD、TV/SAT、VIDEO
　→MONITOR .... 5 Hz～10 MHz、$^{+0}_{-3}$ dB
クロストーク(3.58 MHz) .... 55 dB
SN比 .... 65 dB

FMチューナー部

受信周波数 .... 76.0MHz～90.0MHz
実用感度 .... モノ；15.2dBf (1.6μV/75 Ω)
S/N 50dB感度 ...... モノ；20.2dBf (2.8μV/75 Ω)
　ステレオ；41.2dBf (31.6μV/75 Ω)
S/N比 (85dBf入力時) .... モノ；76 dB
　ステレオ；72 dB
高調波歪率 .... ステレオ；0.5% (1kHz)
実効選択度 .... 65 dB(±400kHz)
ステレオセパレーション .... 40 dB(1kHz)
周波数特性 .... 30Hz～15kHz(±1dB)
アンテナ .... 75 Ω不平衡型

AMチューナー部

受信周波数 .... 522kHz～1,629kHz
実用感度（付属ループアンテナ） 350μV/m
選択度 .... 25 dB
S/N比 .... 50 dB
アンテナ .... ループアンテナ(付属)

電源部・その他

電源 .... AC 100V、50/60 Hz
消費電力（電気用品取締法） .... 280 W
スタンバイ時消費電力 .... 1 W
電源スイッチ連動 .... 1 (100 W)
外形寸法
　....... 420 (幅) × 158 (高さ) × 401 (奥行) mm
質量 .... 10.0 kg

付属品

リモコン 1
単3形乾電池（IEC R6P） 2
AMループアンテナ 1
FMアンテナ 1
取扱説明書 1
安全上のご注意 1
保証書 1
ご相談窓口・修理窓口のご案内 1

●仕様および外観は改良のため予告なく変更することがあります。

思った通りに動かないときは

思った通りに動かないと思ったときは以下を確認してみてください。案外簡単なミスや勘違いをしていることもあります。また、本機以外に原因がある場合も考えられますので、ご使用中の他の機器や、同時に使用している電気機具も合わせてご確認ください。それでも正常に動作しない場合はお買い上げの販売店またはお近くのパイオニアサービスステーションに修理を依頼してください。

音が出ないスピーカーがあるときは、、

1 **テストトーンを出力してみる（➡55ページ）**

全てのスピーカーからテストトーン(ザーという音)が出力されていることを確認してください。 テストトーンが出力されないスピーカーがあるときは、接続やスピーカーの設定(➡46、47ページ)をもう一度確かめてください。

2 **それでも音が出ないときは、以下から75ページまでをご覧ください。**

電源が入らなかったり、切れるとき

症状	考えられる原因	対応
電源が入らない。	主電源ボタンがOFF（■）になっている。	主電源ボタンをON（▂）にする。
	保護回路が動作している。	電源プラグを一度コンセントから外して、再び差し込む。
本機使用中にOVERLOADと点滅表示し、自動的に電源が切れる。	音量を上げすぎている。	電源を入れ直し、音量を下げてみる。
	スピーカーコードがショート（接触）している。	スピーカーコードの芯線をもう一度しっかりねじり直し、スピーカー端子からはみ出ないように接続する。
AMP ERRと点滅して自動的に電源が切れる。	本機の故障です。	速やかに使用を停止し、修理を依頼してください（70ページ）。この症状が起きた後に電源のON/OFFを繰り返すのはお止めください。
DSP NGと表示され音が出なかったり操作が出来ない。	本機の故障です。	速やかに使用を停止し修理を依頼して下さい。

音が出なかったり、ノイズが出るとき

症状	考えられる原因	対応
音が出ない。	入力切換が再生機器に合っていない。	再生機器の入力に合わせる。（➡30ページ）
	ミューティング状態になっている。	リモコンの消音ボタンを押す。
	音量が下がっている。	音量（MASTER VOLUME）を調整する。
	ヘッドホンが差し込まれている。	ヘッドホンを抜く。
	接続コードが端子から外れている、または間違えて接続されている。	接続を確認する。（➡19～29ページ）
	スピーカーコードがショート（接触）している。	スピーカーコードの芯線をしっかりとねじり、もう一度スピーカーコードを接続し直す。
	端子や接続コードのピンプラグが汚れている。	汚れを拭きとる。
デジタル機器の音が出ない、またはノイズが出る。	DVDプレーヤーでデジタル出力設定をOFFにしている。	DVDプレーヤーのデジタル出力設定をONにする。
	CD-ROMなどのデータ信号を入力している。	本機はデータ信号には対応していません。
フロントの片チャンネルから音が出ない。	左右のチャンネルレベルがかたよっている。	左右のチャンネルレベルを調整する。（➡55ページ） 左右のスピーカーの接続を確認する。
サラウンドスピーカーまたはセンタースピーカーから音が出ない。	スピーカーの設定で「無し」に設定している。	スピーカーを正しく設定する。（「スピーカーの設定」（➡46ページ）をご覧ください）
	サラウンド、センタースピーカーのレベルが下がっている。	スピーカーのレベルを上げる。（「スピーカー出力レベルの設定」（➡55ページ）をご覧ください）
	サラウンド、センタースピーカーの接続が外れている、または間違えて接続されている。	スピーカーを正しく接続する。（「スピーカーの接続」（➡22ページ）をご覧ください）
	2ch出力のリスニングモード（「ステレオ」など）を選んでいる。	マルチ出力のリスニングモード（「STANDARD」など）を選ぶ。（➡33～35ページ）
	再生ソフトや放送自体に2ch分の音声しか入っていない。（ステレオ放送など）	入力信号の種類に関わらず、常にマルチチャンネルサラウンドで聴きたいときはリスニングモードをマルチ出力のリスニングモード（「STANDARD」など）にしてください。（➡33～35ページ）
サラウンドバックスピーカーから音が出ない。	サラウンドバックスピーカーの設定で「無し」に設定している。	スピーカーを正しく設定する。（「サラウンドバックスピーカーの設定」（➡47ページ）をご覧ください）
	入力信号の種類とリスニングモードの関係が間違っている。	「各リスニングモードにおけるサラウンドバックスピーカーからの音声出力」（➡36ページ）をご覧になり入力信号に合ったリスニングモードを選択する。
サブウーファーの音が出ない（または小さい）。	スピーカーやサブウーファーの設定でサブウーファーから音が出ない設定になっている。	サブウーファーの設定をPLSまたはONにするか、フロントスピーカーの設定をSMALLにする（➡46、48ページ）。
	サブウーファーのレベルが下がっている。	サブウーファーのレベルを上げる。（「スピーカー出力レベルの設定」（➡55ページ）をご覧ください）
	LFEアッテネーターの設定がOFFになっている。	0 dBまたは－10 dBに設定する。（「LFEアッテネーターの設定」（➡49ページ）をご覧ください）
	サブウーファーの接続が外れている。	サブウーファーを接続する（➡22ページ）。
	低音が含まれていないソフトを再生している。	低音が含まれていないソフトの場合、サブウーファーから音が出ない場合があります。
DD/DTSなどのソフトを再生しても音が出ない。またはノイズが出る。	デジタル接続が外れて、アナログ入力信号を再生している。（DIGITALインジケーター消灯）	機器を正しくデジタル接続する。（➡25ページ）
	使用しているDVDプレーヤーがDTS信号を出力していない。またはDTS信号の出力設定がOFFになっている。	DVDプレーヤーの取扱説明書をお読みになり、DTS信号を出力できるように設定する。
	デジタル出力レベル調整機能がついているCDプレーヤーなどの場合、デジタル出力レベルの設定が低すぎる。	機器のデジタル出力レベルを上げる。
DTS対応のCDプレーヤーでサーチ中にノイズが出る。	サーチ中にCDに含まれるデジタル情報を読み取ってしまう。	故障ではありません。サーチ中はアンプの音量を下げ、スピーカーから出る音を抑える。

その他

症状	考えられる原因	対応
音がひずむ	音量を上げすぎている。 アナログ入力信号のレベルが大きすぎる。	マスターボリュームを下げる。 インプットアッテネータをONにする。
スピーカーから高音しか出ない。	スピーカーの設定が小（SMALL）に設定されている。 低音域を再生する能力がないスピーカーを使っている。	スピーカーの設定を大（LARGE）に設定する。（➡46ページ） スピーカーを変える。
発振している。（異常音が出たり映像が乱れる）	本機と接続機器間にループができている。	接続またはテレビの入力切換を変える。
96kHz/24bitのソフトを再生すると音が大きい。	ソフトによっては、収録されている音量レベルが大きい。	マスターボリュームを下げる。
映像が乱れたり、カセットデッキにノイズが入ったりする。	本機と干渉している。	本機またはカセットデッキの設置場所を変える。
デュアルモノの設定をしてもBSデジタル放送の二か国語音声が切り換わらない。	放送がステレオの二か国語放送などで、デュアルモノラル信号ではない。	デュアルモノの設定は入力信号がデュアルモノラルフォーマットのときのみ有効です。それ以外のときは、BSデジタルチューナー側(テレビ側)で切換操作を行ってください。
本機を通して録画したのに音が録音されていない。	入力選択した機器の音声がデジタルでしか接続されていない。	デジタル入力信号はVTR出力端子からは出力されません。入力選択した機器の音声をアナログでも接続してください。
テストトーンが出てこないスピーカーがある	接続がはずれている スピーカーの設定（➡46ページ）で「無し」に設定されている	正しく接続し直してください。 スピーカーの設定を正しく行ってください。

映像が出なかったり、乱れるとき

症状	考えられる原因	対応
入力切換を合わせても、映像が出ない。	入力機器およびテレビとの接続に、違うタイプのビデオコードを使用している。 入力機器の映像出力設定が正しくない。 テレビとの接続をS映像端子と映像端子の両方でつないでいて、テレビ側でS映像入力を優先している。	同じタイプの映像ケーブルで入力機器およびテレビを接続する（19ページ）。 入力機器の取扱説明書をお読みになり、正しい映像出力設定を行う。 テレビの取扱説明書をお読みになり、正しく接続する。
録画できない。	入力と出力の接続に違うタイプの映像端子を使用している。	同じタイプの映像端子を接続する。
映像が乱れる。	本機と干渉している。	本機の設置場所を変える。

インジケーターが点灯しなかったり、違うとき

症状	考えられる原因	対応
DD/DTSなどのソフトを再生しているときにデコードのインジケーターが点灯しない。または違うインジケーターが点灯する。	再生しているプレーヤーが停止か一時停止の状態になっている。	再生しているプレーヤーの再生を開始する。
	再生しているプレーヤーの音声出力設定が間違っている。	再生しているプレーヤーの音声出力設定を正しく行う。
	再生しているソフトの音声設定が間違っている。	再生しているソフトの音声設定を正しく行う。
	DDやDTSで収録されていない部分を再生している。(メニュー画面など)	DDやDTSで収録された音声を再生しているときのみインジケーターが点灯します。
BSデジタル放送をデジタル接続で聴いているときに、MPEGインジケーターが点灯しない。	BSデジタルチューナー（またはBSデジタルチューナー内蔵テレビ）の音声出力設定でPCMを選択している。	チューナーの取扱説明書を読んで、MPEG(AAC)信号を出力するように設定する。

リモコンや設定、その他

症状	考えられる原因	対応
リモコン操作ができない。	リモコンの操作モードが違っている。	リモコンの操作モードを切り換える。
	リモコンの電池が消耗している。	電池を交換する（3ページをご覧ください）。
	距離が離れすぎている。角度が悪い。	7m以内、左右30˚以内で操作する（15ページをご覧ください）。
	途中に信号を遮る障害物がある。	障害物を取り除くか、操作する場所を移動する。
	蛍光燈などの強い光がリモコン信号受光部に当たっている。	リモコン信号受光部に光が直接当たらないようにする。
クロスオーバー周波数の設定ができない。	「スピーカーの設定」で「SMALL」に設定されているスピーカーがない。	「スピーカーの設定」でフロント、センター、サラウンドのいずれかのスピーカーを「SMALL」に設定する。(➡46ページ)
表示が暗すぎたり、明るすぎたりする。	表示部の明るさ調整が適切でない。	表示部の明るさ調整（ディマー）を行う。（➡41ページ）
表示が操作時に点灯し、すぐに消える。	表示部の明るさがOFFになっている。	表示部の明るさ調整（ディマー）を行う。（➡41ページ）
設定が全てクリアされている	約1ヶ月以上、主電源をOFFにしたり電源コードを抜いたままにしておいた。	左記の状態では、各設定はクリアされます。再度設定してください。
CH SELECTボタンを押しても選択できないスピーカーがある	スピーカーの設定（➡46、47ページ）で「無し」に設定されている	スピーカーの設定を正しく行ってください。
	2ch出力のリスニングモードを選択している	マルチ出力のリスニングモードを選択してください。（➡33～35ページ）

メーカーコードリスト

メーカーコードはそれぞれ決められたファンクションにのみプリセットすることができます。例えば、TVのメーカーコードはTVまたはTVCのファンクションにのみ設定することができます。以下のリストに設定できるファンクションも記載されていますので、ご参照ください。

テレビ

TV TVC

メーカー名	メーカーコード
PHILIPS	1008, 1017, 1020, 1025, 1104, 1115
SONY	1001, 1007, 1016
PANASONIC	1023, 1054, 1055, 1075, 1076, 1082, 1087, 1121, 1124
TOSHIBA	1015, 1016, 1027, 1031, 1050, 1051, 1085
FUNAI	1059, 1063, 1064, 1089, 1095, 1096
HITACHI	1014, 1016, 1018, 1020, 1021, 1026, 1044, 1046, 1047, 1055, 1069, 1070, 1079, 1081, 1097
SHARP	1016, 1019, 1041, 1056, 1124
NEC	1011, 1013, 1016, 1026, 1058
SAMSUNG	1006, 1011, 1013, 1017, 1026, 1027, 1039, 1062, 1079, 1089, 1092, 1102
MITSUBISHI	1011, 1016, 1041, 1045, 1049, 1062, 1114
GOLDSTAR	1002, 1011, 1013, 1017, 1019, 1026, 1046, 1062, 1079, 1092
VICTOR	1016, 1024, 1053, 1087
JVC	1016, 1024, 1030, 1053, 1065, 1067, 1103, 1122
DAEWOO	1006, 1011, 1017, 1019, 1028, 1040, 1050, 1104, 1110, 1118, 1119
ADMIRAL	1041, 1055, 1075, 1112
ADYSON	1014, 1079
AIKO	1040
AKAI	1013, 1074
AKURA	1080, 1089
ACURA	1006
ALARON	1063, 1078
ALBA	1006, 1016, 1017, 1080, 1103
ALLORGAN	1095
ANAM	1004, 1006, 1029, 1054, 1064, 1087, 1108
ANAM NATIONAL	1054, 1087, 1108
AMBASSADOR	1061
AMERICA ACTION	1064
AMPLIVISION	1079
AMPRO	1126

AMSTRAD	1006, 1017, 1103, 1105
ANITECH	1006, 1029, 1036
AOC	1011, 1013
ARCAM	1078, 1079
ASBERG	1036
ASUKA	1080
ATLANTIC	1073
AUDIOSONIC	1017, 1046
AUDIOVOX	1040, 1064, 1110, 1118
AUTOVOX	1036, 1073
BANG & OLUFSEN	1116
BASIC LINE	1006, 1080
BAYSONIC	1064
BAUR	1007, 1017, 1114, 1115
BEKO	1102
BELCOR	1011
BELL & HOWELL	1009, 1050
BEON	1017
BLAUPUNKT	1066, 1068, 1071, 1075, 1115
BINATONE	1079
BLUE SKY	1080
BLUE STAR	1090
BONDSTEC	1086
BOOTS	1079
BPL	1090
BSR	1095
BRADFORD	1064
BRANDT	1046, 1069, 1070, 1072
BRITANNIA	1078
BROCKWOOD	1011
BROKSONIC	1083, 1112
BTC	1080
BUSH	1006, 1016, 1017, 1080, 1090, 1095, 1103, 1104
CANDLE	1013, 1026
CARNIVALE	1013
CARREFOUR	1016
CARVER	1025, 1058
CASCADE	1006
CATHAY	1017
CENTURY	1075
CENTURION	1017
CELEBRITY	1001
CCE	1017
CGE	1034, 1036, 1038, 1086, 1097
CIMLINE	1006
CINERAL	1040, 1110
CITIZEN	1013, 1019, 1026, 1027, 1040
CLARIVOX	1017
CLATRONIC	1036, 1086, 1102
CME	1007, 1015, 1114
CONCERTO	1026
CONDOR	1098, 1102
CONTEC	1006, 1016, 1064, 1078

CONTINENTAL EDISON	1069, 1070, 1072
CRAIG	1054
CROSLEY	1025, 1034, 1036, 1038, 1075
CROWN	1006, 1017, 1019, 1036, 1064, 1102, 1106
CRYSTAL	1109
CS ELECTRONICS	1078
CTC	1086
CURTIS MATHES	1009, 1013, 1019, 1022, 1023, 1025, 1026, 1027, 1041, 1047, 1050, 1057, 1110, 1113, 1129, 1131
CYBERTRON	1080
CXC	1064
DAINICHI	1077, 1080
DANSAI	1017
DAYTRON	1006, 1011
DECCA	1017, 1032
DE GRAAF	1074
DENON	1047
DIXI	1006, 1017
DUAL TEC	1079
DUMONT	1010, 1011, 1031
DWIN	1125, 1127
ECE	1017
ELBE	1088
ELECTROBAND	1001
ELIN	1017
ELITE	1080, 1098
ELTA	1006
EMERSON	1011, 1018, 1019, 1050, 1061, 1062, 1063, 1064, 1075, 1083, 1090, 1112, 1118, 1119
ENVISION	1013
ERRES	1008, 1017
ETRON	1006, 1120
EXPERT	1073
FERGUSON	1005, 1017, 1033, 1046, 1065, 1084, 1091
FIDELITY	1078
FINLANDIA	1074
FINLUX	1017, 1031, 1032, 1044
FISHER	1050, 1074, 1079, 1096, 1102
FLINT	1111
FORMENTI	1017, 1075, 1098
FORTRESS	1041
FRONTECH	1055, 1086, 1089, 1109
FUJITSU	1032, 1063, 1073
FUTURETECH	1064

GE	1012, 1022, 1023 1041, 1062, 1090 1110, 1129, 1131
GEC	1017, 1020, 1032 1072, 1079
GELOSO	1006, 1075
GENEXXA	1055, 1080
GIBRALTER	1010, 1011, 1013
GOODMANS	1016, 1017, 1032 1079, 1103, 1104
GORENJE	1102
GPM	1080
GRAETZ	1055
GRANADA	1017, 1032, 1048 1074, 1079, 1100
GRADIENTE	1024, 1026, 1058
GRANDIN	1090
GRUNDIG	1031, 1066, 1068 1072, 1115
GRUNPY	1063, 1064
HALLMARK	1062
HANSEATIC	1017, 1098
HARLEY DAVIDSON	1063
HARVARD	1029, 1064
HARMAN/KARDON	1025
HCM	1006, 1090, 1105
HINARI	1006, 1016, 1017 1080
HISAWA	1090, 1111
HUANYU	1078, 1104
HYPSON	1017, 1089, 1090
ICE	1079, 1089, 1103
ICES	1080
IMPERIAL	1034, 1036, 1038 1086, 1102, 1106
INDIANA	1017
INFINITY	1025
INGELEN	1055
INNO HIT	1032
INNOVA	1017
INTEQ	1010
INTERBUY	1029
INTERFUNK	1017, 1055, 1086 1114
INTERVISION	1017, 1029, 1043 1079, 1089
ISUKAI	1080
ITS	1103
ITT	1055
JBL	1025
JCB	1001
KAISUI	1006, 1078, 1079 1080, 1090,
KAMP	1078
KAPSCH	1055, 1073
KAWASHO	1078
KEC	1064
KENDO	1017
KNEISSEL	1088
KENWOOD	1011, 1013
KINGSLEY	1078
KONIG	1114
KORPEL	1017
KOYODA	1006
KTV	1013, 1019, 1064
LEYCO	1017, 1032, 1089 1095
LG	1026
LIESENK&TTER	1017
LLOYTRON	1014
LOEWE	1035, 1114

LOGIK	1009
LUMA	1073
LUXMAN	1026
LXI	1022, 1025, 1050 1051, 1062
M ELECTRONIC	1006, 1017, 1029 1044, 1046, 1055 1079, 1091, 1104
MAGNAVOX	1013, 1016, 1025 1063
MAGNADYNE	1043, 1086
MAGNAFON	1036, 1043, 1075
MAJESTIC	1009
MANESTH	1079, 1089, 1098
MARANTZ	1013, 1017, 1025
MARK	1017
MATSUI	1006, 1015, 1016 1017, 1032, 1074, 1079, 1095, 1103
MATSUSHITA	1087
MCMICHAEL	1020
MEDIATOR	1008, 1017
MEGATRON	1047, 1062
MEMOREX	1006, 1009, 1026 1049, 1050, 1062 1087, 1112
METZ	1075
MGA	1011, 1013, 1049 1062
MIDLAND	1010, 1019, 1022 1023
MINERVA	1031, 1115
MINOKA	1105
MINUTZ	1012
MIVAR	1078, 1092, 1093 1094
MOTION	1036
MOTOROLA	1041
MTC	1011, 1013, 1026 1027, 1078, 1114
MULTITECH	1006, 1036, 1043 1064, 1078
NAD	1051, 1057, 1062
NECKERMANN	1017, 1066, 1075 1115
NEI	1017, 1109
NETSAT	1017
NICAMAGIC	1078
NIKKAI	1014, 1015, 1017 1032, 1078, 1080 1089
NIKKO	1013, 1040, 1062
NOBLIKO	1036, 1043
NORDMENDE	1046, 1069, 1070 1075, 1091
NTC	1040
OCEANIC	1055, 1077
ONWA	1064
OPTIMUS	1050, 1057, 1087
OPTONICA	1041, 1056
ORION	1017, 1063, 1083 1095, 1098, 1099 1112
OSAKI	1014, 1032, 1079 1080, 1089, 1105
OSO	1080
OSUME	1014, 1032, 1052
OTTO	1007, 1114
OTTO VERSAND	1007, 1016, 1017 1066, 1075, 1079 1098, 1115
PALLADIUM	1102, 1106

PANAMA	1079, 1089
PATHE MARCONI	1069, 1070, 1072
PATHE CINEMA	1075, 1078, 1084 1098
PAUSA	1006
PENNEY	1003, 1011, 1012 1013, 1019, 1022 1023, 1026, 1027 1051, 1062, 1131
PERDIO	1098
PHAPSODY	1078
PHASE	1014
PHILCO	1011, 1013, 1025 1034, 1036, 1038 1047, 1075, 1086 1112
PHONOLA	1008, 1017
PILOT	1011, 1013, 1019
PORTLAND	1011, 1019, 1040
PRISM	1023
PROFEX	1006, 1037
PROLINE	1099
PROSOCAN	1022
PROTECH	1006, 1017, 1043 1079, 1086, 1089 1106, 1109
PROTON	1062, 1113
PULSAR	1010, 1011
PYE	1008
QUASAR	1023, 1056, 1087
QUELLE	1007, 1017, 1031 1034, 1038, 1071 1075, 1097, 1114 1115
QUESTA	1016
R-LINE	1017
RADIOLA	1008, 1017
RANK ARENA	1016
RBM	1031
RCA	1011, 1018, 1022 1023, 1039, 1041 1128, 1129, 1130 1131, 1132
REALISTIC	1011, 1013, 1019 1026, 1050, 1056 1062, 1064
REX	1055, 1073, 1088 1089
REVOX	1017
ROADSTAR	1006, 1080, 1089 1106
RUNCO	1010, 1013, 1117
SABA	1035, 1046, 1055 1069, 1070, 1072 1075, 1091
SACCS	1084
SAISHO	1006, 1089, 1109
SALORA	1055
SAMBERS	1036, 1043, 1075
SAMPO	1013, 1019
SAMSUX	1019
SANDRA	1078
SANSEI	1110
SANSUI	1112
SANYO	1016, 1032, 1048 1050, 1052, 1074 1075, 1100
SBR	1008, 1017, 1020
SCHNEIDER	1017, 1080, 1086 1096, 1103
SCIMITSU	1011
SCOTCH	1062
SCOTT	1011, 1062, 1063 1064, 1083

SEARS	1022, 1025, 1026, 1050, 1051, 1059, 1062, 1063
SEG	1016, 1036, 1079, 1089
SEI	1043, 1075, 1095
SEI-SINUDYNE	1007
SELECO	1055, 1073, 1088
SEMIVOX	1064
SEMP	1051
SENTRA	1015
SHOGUN	1011
SHORAI	1095
SSS	1011, 1064
SIAREM	1043, 1075
SIEMENS	1017, 1052, 1066, 1068, 1071, 1075, 1115
SINDYNE	1043, 1075, 1095
SIGNATURE	1009
SILVER	1016
SKY	1017
SKY-WORTH	1017
SOLAVOX	1014, 1055
SONITRON	1074
SONOKO	1006, 1017
SONOLOR	1055, 1074, 1077
SONTEC	1017
SOUNDESIGN	1062, 1063, 1064
SOUNDWAVE	1017, 1106
SQUAREVIEW	1059
STANDARD	1006, 1079, 1080
STARLITE	1064
STERN	1055, 1073, 1088
SUNKAI	1095, 1099
SUPERTECH	1078
SUPREME	1001
SUSUMU	1080
SYLVANIA	1013, 1025
SYMPHONIC	1059
SYSLINE	1017
TANDY	1032, 1041, 1055, 1079, 1080
TASHIKO	1016, 1020, 1079
TEC	1079, 1086
TECHNEMA	1098
TECHNICS	1023, 1087, 1121
TECHNOL ACE	1063
TECHWOOD	1023, 1026
TEKNIKA	1009, 1011, 1019, 1025, 1026, 1027, 1040, 1049, 1063, 1064
TELEAVIA	1072
TELEFUNKEN	1005, 1026, 1034, 1038, 1042, 1046, 1075, 1097
TELEMEISTER	1098
TELETECH	1006
TELETON	1016, 1073, 1079
TENSAI	1080, 1095, 1098
TEXET	1078, 1080
THOMSON	1046, 1069, 1070, 1072, 1091
THORN	1015, 1017, 1032, 1034, 1038, 1065, 1067, 1114
TMK	1026, 1061, 1062
TOMASHI	1090
TOTEVISION	1019
TRIUMPH	1085
TUTUNG	1017, 1032, 1079
UHER	1073, 1096, 1098
ULTRA	1067
ULTRAVOX	1043
UNIVERSUM	1017, 1044, 1089, 1102
VECTOR RESEARCH	1013
VESTEL	1017
VIDEOSAT	1086
VIDEOTECHNIC	1079
VIDIKRON	1025
VIDTECH	1011, 1016, 1062
VISION	1098
VOXSON	1055
WALTHAM	1079
WATSON	1017, 1098
WATT RADIO	1043
WARDS	1009, 1011, 1012, 1013, 1025, 1026, 1056, 1062, 1063
WEGA	1016
WHITE WESTINGHOUSE	1017, 1078, 1098, 1112, 1118, 1119
YAMAHA	1011, 1013
YOKO	1017, 1079, 1101, 1109
ZANUSSI	1073
ZENITH	1009, 1010, 1040, 1112
PIONEER	1018, 1046, 1055, 1057, 1060, 1091, 1107, 1123, 1124

MDプレーヤー

CD-R CD

メーカー名	メーカーコード
SONY	5401
KENWOOD	5402,5407
SHARP	5403
ONKYO	5404
ORION	5406
DENON	5405
PIONEER	5408

LDプレーヤー

DVD

メーカー名	メーカーコード
AKAI	5222
BBK	5224
CYRUS	5207
DENON	5202
DISCO VISION	5201
FUNAI	5217
HITACHI	5201
HONG DENG	5213
IDALL	5219
KEBAO	5215
MARANTZ	5203, 5205
MITSUBISHI	5202
NAD	5202
PANASONIC	5210
PHILIPS	5203, 5207, 5209
RADIOLA	5207
ROWA	5212
SALORA	5203
SEGA	5201
SHARP	5221
SHINCO	5211
SMC	5220
SONY	5204, 5206, 5216, 5218
SUPER	5215
TELEFUNKEN	5202
TOSHIBA	5223
PIONEER	5201,5202, 5208, 5214

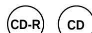
CDプレーヤー

CD CD-R

メーカー名	メーカーコード
AIWA	5016, 5021
AKAI	5014, 5020, 5032
ANAM	5041
ARCAM	5021
AUDIOLAB	5021
AUDIOMECA	5021
AUDIO TON	5021
BESTAR	5022
BURMESTER	5045
CALIFORNIA AUDIO LABS	5004
CARVER	5021, 5025, 5046
CONDOR	5018, 5022
CURTIS MATHES	5004
CYRUS	5021
DENON	5002, 5006, 5040, 5060
DKK	5001
DUAL	5031
DYNAMIC BASS	5025
EMERSON	5038
EROICA	5053, 5054
FANTASIA	5051
FISHER	5024, 5025
GARRARD	5044, 5045
GENEXXA	5005, 5038
GOLDSTAR	5043, 5051
GRUNDIG	5021
HARMAN/KARDON	5021, 5023
HITACHI	5005
INKEL	5015, 5026, 5046
JVC	5011
KENWOOD	5003, 5008, 5029, 5056, 5057, 5062
KRELL	5021
LINN	5021
LUXMAN	5036
LXI	5038
MAGNAVOX	5021, 5038
MARANTZ	5004, 5009, 5017, 5021, 5026
MATSUI	5021
MCS	5004
MEMOREX	5022
MERIDIAN	5021
MICROMEGA	5021
MISSION	5021
MITSUBISHI	5014, 5020
MTC	5045
NAD	5001
NAIM	5021
NIKKO	5024, 5041, 5051
NSM	5021
ONKYO	5012, 5013, 5042, 5059
OPTIMUS	5001, 5005, 5008, 5019, 5025, 5038, 5045, 5046, 5048
ORION	5061

PANASONIC	5004, 5037
PARASOUND	5045
PHILIPS	5021, 5055
PMG	5022
POPPY	5022
PROTON	5021
QED	5021
QUAD	5021
QUASAR	5004,
RCA	5010, 5025, 5038
REALISTIC	5025, 5026, 5045
REVOX	5021
ROTEL	5021, 5045
SAE	5021
SANSUI	5021, 5033, 5038
SANYO	5025, 5039
SCHNEIDER	5018
SCOTT	5038
SEARS	5038
SHARP	5008, 5026, 5058
SHERWOOD	5015, 5026, 5031
SONY	5001, 5027, 5050
SOUDESIGN	5019
TASCAM	5045
TEAC	5024, 5026, 5044 5045
TECHNICS	5004, 5034, 5037
THORENS	5021
TOSHIBA	5049
UNIVERSUM	5021
YAMAHA	5007, 5028
YORX	5047
VICTOR	5011
WARDS	5010, 5021
PIONEER	5005, 5030, 5035 5038, 5048, 5052 5063

テープデッキ



メーカー名	メーカーコード
ADC	6013
AIWA	6002, 6022, 6017 6018
AKAI	6015, 6016
ANAM	6035
ARCAM	6005
CARVER	6002, 6028
DENON	6005, 6039
DUAL	6037
DYNAMIC BASS	6028
EROICA	6041
FISHER	6028
GARRARD	6036
GOLDSTAR	6036
GRUNDIG	6002
HARMON/KARDON	6002, 6014
INKEL	6003
JVC	6027, 6030, 6031
KENWOOD	6003, 6004, 6019 6024, 6025
KYOCERA	6013
LOTTE	6034
LUXMAN	6029
MAGNAVOX	6002
MARANTZ	6002
MEMOREX	6008, 6009
MITSUBISHI	6016
NAKAMICHI	6020
NIKKO	6035
OLYMPUS	6029
ONKYO	6010, 6011, 6032
OPTIMUS	6001, 6021
PANASONIC	6023
PHILIPS	6002
RCA	6028
RENAISSANCE	6040
REVOX	6002
SAMSUNG	6038
SANSUI	6002
SANYO	6028
SHARP	6019
SONIC	6036
SONY	6012, 6026, 6033
TEAC	6038
TECHNICS	6023
THORENS	6002
VICTOR	6027, 6030
WARDS	6001
YAMAHA	6006, 6007, 6019
PIONEER	6001, 6008, 6009 6021,

DVDプレーヤー



メーカー名	メーカーコード
TOSHIBA	5302
SONY	5306
PANASONIC	5301, 5322
KENWOOD	5307
JVC	5311, 5318
SAMSUNG	5313
AKAI	5316
HARMAN/KARDON	5314
MAGNAVOX	5302
MITSUBISHI	5303
ONKYO	5302, 5317, 5319
PROSCAN	5304
RCA	5304
SHARP	5320
THETA DIGITAL	5312
TECHNICS	5301
THOMSON	5310
YAMAHA	5301, 5309
PHILIPS	5302, 5308
ZENITH	5302, 5315
PIONEER	5305, 5312, 5321 5322

その他

ビデオデッキ 

メーカー名	メーカーコード
PHILIPS	2015, 2035, 2074, 2075
PANASONIC	2015, 2042, 2053, 2054, 2055, 2087
THOMSON	2021, 2064, 2074
SONY	2001, 2009, 2012, 2013, 2014, 2015
JVC	2008, 2021, 2033, 2049, 2050, 2074, 2080
GRUNDIG	2003, 2005, 2007, 2010, 2034, 2035, 2048, 2050, 2054, 2069, 2071, 2075
AKAI	2021, 2029, 2038, 2060, 2063
HITACHI	2001, 2004, 2021, 2022, 2043, 2056, 2057
TOSHIBA	2021, 2023, 2024, 2035, 2074
MITSUBISHI	2023, 2027, 2033, 2035, 2045
SHARP	2027, 2073
ORION	2002, 2004, 2016, 2036, 2046, 2052, 2070, 2072, 2078
SANYO	2025, 2026, 2037, 2057
FERGUSON	2021, 2039, 2064, 2065
BLAUPUNKT	2003, 2005, 2010, 2014, 2041, 2042, 2048, 2054, 2055, 2075
NOKIA	2025, 2037, 2038, 2057
ADMIRAL	2027, 2052
ADVENTURA	2001
AIKO	2059
AIWA	2001, 2017, 2062, 2070, 2072
AKIBA	2034
ALBA	2011, 2034, 2052, 2059, 2063, 2072
AMBASSADOR	2011
AMERICA ACTION	2059
AMERICAN HIGH	2015
AMSTRAD	2001, 2059, 2067, 2068
ANAM	2017, 2042, 2054, 2057, 2059, 2082, 2084
ANAM NATIONAL	2042, 2054, 2087
ANITECH	2034
ASA	2017, 2035
ASHA	2057
ASUKA	2017
AUDIOVOX	2017
BAIRD	2001, 2021, 2037, 2039
BASIC LINE	2011, 2034, 2059
BEAUMARK	2057
BELL & HOWELL	2037
BRANDT	2047, 2064, 2065
BRANDT ELECTRONIC	2021
BROKSONIC	2002, 2040, 2046, 2052, 2078
BUSH	2034, 2052, 2059, 2072
CALIX	2017
CANON	2015
CAPEHART	2011
CARVER	2035
CATRON	2011
CCE	2034, 2059
CGE	2001
CIMLINE	2034
CINERAL	2059
CITIZEN	2017, 2059
CLATRONIC	2011
COLT	2034
COMBITECH	2072
CONDOR	2011
CRAIG	2017, 2026, 2034, 2057, 2058
CROWN	2011, 2034, 2059
CURTIS MATHES	2015, 2021, 2032, 2042
CYBERNEX	2057
CYRUS	2035
DAEWOO	2011, 2024, 2025, 2059, 2083
DANSAI	2034
DAYTRON	2011
DECCA	2001, 2035
DE GRAAF	2022, 2043
DENON	2022
DUAL	2021
DUMONT	2001, 2035, 2037
DYNATECH	2001
ELBE	2018
ELCATECH	2034
ELECTROHOME	2017
ELECTROPHONIC	2017
EMEREX	2012
EMERSON	2001, 2002, 2017, 2023, 2040, 2046, 2051, 2052, 2059, 2078, 2083
ESC	2057, 2059
FIDELITY	2001
FINLANDIA	2035, 2037
FINLUX	2001, 2022, 2035, 2037
FIRSTLINE	2017, 2023, 2024, 2034, 2052
FISHER	2025, 2026, 2030, 2037
FRONTECH	2011
FUJI	2015
FUNAI	2001
GARRARD	2001
GE	2015, 2027, 2032, 2057
GEC	2035
GENERAL	2011, 2028
GOLDHAND	2034
GOLDSTAR	2017, 2018, 2053, 2079
GOODMANS	2001, 2017, 2034, 2059, 2075
GO VIDEO	2077, 2081
GRAETZ	2005, 2021, 2037, 2057
GRANADA	2025, 2035, 2037
GRADIENTE	2001, 2008
GRANDIN	2001, 2017, 2034
HANSEATIC	2017
HARMAN/KARDON	2018, 2035
HARLEY DAVIDSON	2001
HARWOOD	2034
HCM	2034
HEADQUARTER	2025
HINARI	2004, 2034, 2057, 2072
HI-Q	2026
HUGHES NETWORK SYSTEMS	2022
HYPSON	2034
IMPERIAL	2001
INGERSOL	2004
INTERFUNK	2035
ITT	2005, 2021, 2025, 2037, 2038, 2057, 2074
ITV	2017, 2059
JENSEN	2021
KAISUI	2034
KEC	2017, 2059
KENDO	2038, 2052
KENWOOD	2018, 2021, 2033
KLH	2034
KODAK	2015, 2017
KORPEL	2034
LAYCO	2034
LENCO	2059
LG	2079
LLOYD'S	2001, 2051
LOEWE	2004, 2005, 2017, 2035
LOGIK	2004, 2034, 2057
LUXOR	2023, 2025, 2027, 2037, 2038
LXI	2017
M ELECTRONIC	2001
MAGNASONIC	2059
MAGNAVOX	2001, 2015, 2019, 2035
MAGNIN	2057
MANESTH	2024, 2034
MARANTZ	2003, 2005, 2015, 2035
MARTA	2017
MATSUI	2004, 2016, 2036, 2052, 2070, 2072
MATSUSHITA	2015, 2042, 2055
MEI	2015
MELECTRONIC	2018

MEMOREX	2001, 2015, 2017 2019, 2025, 2026 2027, 2037, 2052 2057, 2062, 2085 2087, 2088
MEMPHIS	2034
METZ	2003, 2005, 2017 2042, 2048, 2055 2069
MGA	2023, 2057
MGN TECHNOLOGY	2057
MINCRVA	2048
MINERVA	2005, 2010, 2048
MINOLTA	2022
MOTOROLA	2015, 2027
MTC	2001, 2057
MULTITECH	2001, 2034
MURPHY	2001
NAD	2031
NATIONAL	2054
NEC	2018, 2020, 2021 2033, 2037
NECKERMANN	2035
NESCO	2034
NIKKO	2017
NIKON	2014
NOBLEX	2057
NOKIA	2021, 2025, 2037 2038, 2057
NORDMENDE	2021, 2061, 2064 2065, 2074
OCEANIC	2001, 2021
OKANO	2063, 2070
OLYMPUS	2015, 2054
OPTIMUS	2017, 2027, 2031 2037, 2042, 2077 2086, 2087, 2088
OSAKI	2001, 2017, 2034
OTTO VERSAND	2035
PALLADIUM	2005, 2017, 2021 2034
PATHE MARCONI	2021
PATHE CINEMA	2016
PENTAX	2022
PENNY	2015, 2017, 2018 2020, 2022, 2057
PERDIO	2001
PHILCO	2015, 2018, 2052 2078
PHONOLA	2035
PILOT	2017
PORTLAND	2011
PROFEX	2066
PROFITRONIC	2057
PROLINE	2001
PROSCAN	2032
PROTEC	2034
PULSAR	2019
PYE	2035
QUARTER	2025
QUARTZ	2025
QUASAR	2015, 2042, 2087
QUELLE	2035
RADIO SHACK	2001, 2085
RADIOLA	2035
RADIX	2017
RANDEX	2017
RCA	2015, 2022, 2027 2032, 2038, 2057
REALISTIC	2001, 2015, 2017, 2025, 2026, 2027, 2037
REX	2021, 2074
RFT	2075
RICOH	2014
ROADSTAR	2017, 2034, 2057 2059
RUNCO	2019
SABA	2021, 2049, 2050 2061, 2064, 2065 2074
SAISHO	2004, 2016, 2036 2052
SALORA	2023, 2025, 2038
SANKY	2019, 2027
SANSUI	2001, 2021, 2033 2052, 2058, 2078
SAMSUNG	2024, 2057, 2076 2077
SAVILLE	2072
SBR	2035
SCHAUB LORENZ	2001, 2005, 2021 2037
SCHNEIDER	2001, 2034, 2035
SCOTT	2023, 2024, 2040 2046
SEARS	2001, 2015, 2017 2022, 2025, 2026 2037
SEG	2057, 2066
SEI	2004, 2035
SELECO	2021
SEMP	2024
SENTRA	2011
SHINTOM	2034, 2037
SHOGUN	2057
SHORAI	2004
SIEMENS	2003, 2005, 2010 2017, 2030, 2035 2037, 2048
SILVA	2017
SINGER	2024, 2034
SINUDYNE	2004, 2035
SOLAVOX	2011
SONOLOR	2025
SONTEC	2017
STS	2022
SUNKAI	2070
SUNSTAR	2001
SUNTRONIC	2001
SYLVANIA	2001, 2015, 2023 2035
SYMHONIC	2001
TASHIKO	2001
TATUNG	2001, 2021, 2035
TEAC	2001, 2021
TEC	2011
TECHNICS	2015, 2042, 2054
TEKNIKA	2001, 2015, 2007 2017, 2028
TELEAVIA	2021
TELEFUNKEN	2021, 2047, 2058 2064, 2074
TENOSAL	2034
TENSAI	2001, 2066
THOMAS	2001
THORN	2016, 2021, 2037 2051, 2057
TMK	2017, 2057
TOTEVISION	2017, 2057
TOWADA	2066
UHER	2057
UNITECH	2057
UNIVERSUM	2001, 2006, 2010 2017, 2035, 2038 2048, 2057, 2067
VECTOR	2024
VECTOR RESEARCH	2018, 2020
VICTOR	2008, 2021, 2033
VIDEO CONCEPTS	2020, 2024
VIDEOSONIC	2057
WARDS	2001, 2015, 2022 2026, 2027, 2032 2034, 2035, 2057
WHITE WESTINGHOUSE	2052, 2059
XR-1000	2001
XR-1001	2015
XR-1002	2034
YAMAHA	2018
YAMISHI	2034
YOKAN	2034
YOKO	2011, 2057
ZENITH	2001, 2014, 2019 2052, 2078
PIONEER	2031, 2033, 2035 2044, 2056

サテライトチューナー TV TVC

メーカー名	メーカーコード
ABSAT	4006
AST	4027
ALBA	4029, 4034, 4037 4052
ALDES	4019
AMSTRAD	4003, 4016, 4025 4038, 4039, 4042
ANKARO	4013, 4019, 4030 4044
ANTTRON	4009, 4034
ARMSTRONG	4015
ASTRA	4005
ASTRO	4008, 4039, 4045
AVALON	4031
AXIS	4030, 4046
BT	4053
BEKO	4010
BEST	4030
BLAUPUNKT	4008
BOCA	4015, 4043
BRAIN WAVE	4022
BRITISH SKY BROADCASTING	4058
BUSH	4002
CNT	4045
CAMBRIDGE	4024
CANAL SATELLITE	4059
CANAL+	4059
CHANNEL MASTER	4029
COMLINK	4019
CONNEXIONS	4031
CROWN	4015
CYRUS	4011
D-BOX	4054
DDC	4029
DNT	4011, 4031
ECHOSTAR	4031, 4036, 4061
EMANON	4034
FTE HUMAX	4060
FERGUSON	4002, 4009, 4010 4023
FIDELITY	4016

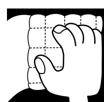
その他

FINLUX	4005, 4024, 4032, 4037
FRACARRO	4061
FREECOM	4034
FUBE	4030, 4031, 4034
G-SAT	4009
GALAXIS	4019, 4057, 4060
GENERAL INSTRUMENT	4012
GOLD BOX	4059
GOODING	4048
GOODMANS	4010
GRUNDIG	4008, 4010, 4048
HINARI	4009
HIRSCHMANN	4008, 4032, 4039, 4040, 4049
HITACHI	4037
HOUSTON	4053
HUTH	4013, 4015, 4019, 4026
ITT	4005
INVIDEO	4061
INTERVISION	4050
JVC	4048
JOHANSSON	4022
KATHREIN	4004, 4006, 4008, 4011, 4035, 4041
KREISELMEYER	4008
KYOSTAR	4034
LA SAT	4043, 4045
LENCO	4034
LENNOX	4050
LUPUS	4030
LUXOR	4005, 4049
MANHATTAN	4037, 4045, 4050
MARANTZ	4011
MASPRO	4004, 4023
MATSUI	4024, 4048
MEDIASAT	4059
MEDIAMARKT	4015
MINERVA	4048
MORGAN'S	4015, 4043
NAVEX	4022
NEUHAUS	4039
NEUSAT	4057
NEWHAUS	4013
NIKKO	4028
NOKIA	4005, 4032, 4037, 4049, 4054, 4063
NORDMENDE	4029
ORBITECH	4039
OXFORD	4024
PACE	4002, 4009, 4014, 4023, 4037, 4055, 4058
PALLADIUM	4048
PALSAT	4039
PANDA	4037
PHILIPS	4007, 4011, 4020, 4037, 4048, 4059
PHONOTREND	4019, 4050
PIONEER	4021, 4059
PLANET	4061
PROMAX	4037
PROSAT	4019
QUADRAL	4029, 4044
RADIOLA	4011
RADIX	4031, 4064
RFT	4011, 4013, 4019
SAT	4027, 4038
SABA	4023, 4045
SABRE	4037
SAGEM	4056
SALORA	4005
SATCOM	4026, 4051
SATEC	4009
SATMASTER	4026
SATPARTNER	4022, 4034, 4040, 4045
SCHWAIGER	4009, 4041
SEEMANN	4031, 4046
SEG	4030, 4034
SIEMENS	4008
SKYMASTER	4019, 4044, 4051
SONY	4017, 4018
STRONG	4062
SUNSTAR	4043
TPS	4056
TANTEC	4023, 4037
TECHNISAT	4001, 4039
TECHNILAND	4026
TELEFUNKEN	4034
TELEKA	4015, 4052
TELESAT	4051
THOMSON	4037, 4059
TONNA	4026, 4053
TRIAD	4027
TRIASAT	4040
UNITOR	4022
UNIVERSUM	4008, 4049
VENTANA	4011
VORTEC	4034
VTECH	4027
WINERSAT	4022
WISI	4008, 4027, 4031, 4037
XSAT	4006, 4065
XCOM MULTIMEDIA	4065
ZEHNDER	4033, 4045, 4047

ケーブルテレビ



メーカー名	メーカーコード
ABC	3002, 3003, 3004, 3006, 3008
ANDOVER	3037
BELL & HOWELL	3006
BIRGMINGHAM CABLE COMMUNICATION	3020
BRITISH TELECOM	3002, 3012
CABLETIME	3016, 3019, 3025, 3029
CONTEC	3009
CLYDE	3011
CRYPTOVISION	3038
DAEHAN	3043
DAERYUNG	3003
DECSAT	3027
EVERQUESST	3007
FILMNET	3028
FRANCE TELECOM	3030
GEC	3011
GEMINI	3007
GENERAL INSTRUMENT	3004, 3020, 3031, 3046
GOLDSTAR	3014, 3047
GRUNDIG	3035
HITACHI	3004
JASCO	3007
JERROLD	3002, 3004, 3005, 3006, 3007, 3020, 3031, 3046
LG ALPS	3044
MEMOREX	3001
MNET	3009, 3028
NOW	3041
OAK	3009
PACIFIC	3039
PANASONIC	3001, 3013
PARAGON	3001
PULSAR	3001
PVP STEREO VISUAL MATRIX	3002
PIONEER	3010, 3014, 3018, 3036
QUASAR	3001
RADIO SHACK	3007
REMBRANDT	3004
RUNCO	3001
SAMSUNG	3014, 3040
SATBOX	3024
SIGNAL	3007
SIGNATURE	3004
STS	3015
SALORA	3026
SCIENTIFIC	3003, 3032, 3049
SCIENTIFIC ATLANTA	3003, 3008, 3021
SEAWOO	3045
STARCOM	3002, 3007
STARGATE	3007
STARQUEST	3007
TAIHAN	3043
TELESERVICE	3022
TELE+1	3028
TUDI	3023
TUSA	3007
TOCOM	3005
TONGKOOK	3042, 3048
TOSHIBA	3001
UNITED CABLE	3002
VIDEOWAY	3017
VISICABLE+	3033
WESTMINSTER	3012
WOLSEY GENE	3037
ZENITH	3001, 3034



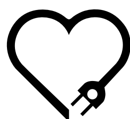
お手入れについて

通常は柔らかい布で空拭きしてください。汚れがひどい場合は水で5～6倍に薄めた中性洗剤に柔らかい布を浸してよく絞った後、汚れを拭き取り、その後乾いた布で拭いてください。アルコール、シンナー、ベンジン、殺虫剤などが付着すると、印刷、塗装などがはげることがありますのでご注意ください。また、化学ぞうきん等をお使いの場合は、化学ぞうきん等に添付の注意事項をよくお読みください。



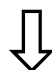
音のエチケット

楽しい音楽も時と場所によっては気になるものです。隣近所への思いやりを十分にいたしましょう。
ステレオの音量は、貴方の心がけ次第で大きくも小さくもなります。
とくに静かな夜間には小さな音でも通りやすいものです。夜間の音楽鑑賞にはとくに気を配りましょう。近所へ音が漏れないように窓を閉め、お互いに心を配り、快い生活環境を守りましょう。



長年ご使用のオーディオ製品の点検をおすすめいたします。こんな症状はありませんか

- **電源コードや電源プラグが異常に熱くなる。**
- **電源コードにさけめやひび割れがある。**
- **電気が入ったり切れたりする。**
- **本体から異常な音、熱、臭いがする。**



すぐに使用を中止し、電源プラグをコンセントから抜き、故障や事故防止のため電気店または当社サービスステーションに点検（有料）をご依頼ください。

製品のご購入や取り扱いについてのご相談窓口

● **パイオニア・カスタマーサポートセンター**（全国共通フリーフォン）

受付　月曜～金曜　9：30～17：00、土曜　9：30～12：00、13：00～17：00　（日曜・祝日・弊社休日は除く）

家庭用オーディオ／ビジュアル製品のご相談窓口	フリーフォン **0070-800-8181-22**
カタログのご請求窓口	フリーフォン **0077-800-8181-33**
ファックス	**03-3490-5718**

<ご注意>
フリーフォンは、ＰＨＳ、携帯電話、自動車電話、列車公衆電話、船舶電話、ピンク電話および海外からの国際電話ではご利用になれません。あらかじめご了承ください。

パイオニアホームページでのご案内

お問い合わせ先のご案内	*http://www.pioneer.co.jp/support/*
カタログ請求とメールサービス登録のご案内	*http://www.pioneer.co.jp/support/ctlg/index.html*

部品のご購入についてのご相談窓口

付属品（リモコン・取扱説明書など）のご購入や、補修用性能部品（修理使用部品）に関するご相談についてはパイオニア部品受注センターにご相談ください。部品の交換方法などの技術相談につきましては下記のパイオニア修理受付センターにご相談ください。

● **パイオニア部品受注センター**

受付　月曜～金曜　9：30～18：00、土曜　9：30～12：00、13：00～17：00　（日曜・祝日・弊社休日は除く）

電話（フリーダイアル）：	フリーダイヤル **0120-5-81095**
一般電話：	**0538-43-1161**
ファックス（フリーダイアル）：	フリーダイヤル **0120-5-81096**

<ご注意>
フリーダイアルは、携帯電話、ＰＨＳではご利用になれません。あらかじめご了承ください。

修理のご依頼／修理についてのご相談窓口

修理を依頼される前に取扱説明書の「思った通りに動かないときは」の項目をご確認ください。それでも異常のある時は、必ず電源プラグを抜いてから、ご購入店へご連絡ください。
ご購入店がわからないときやお近くにないときは、パイオニア修理受付センターへご相談ください。（沖縄県を除く）

● **パイオニア修理受付センター**（沖縄県を除く全国）

受付　月曜～金曜　9：30～18：00、土曜　9：30～12：00、13：00～17：00　（日曜・祝日・弊社休日は除く）

電話（フリーダイアル）：	フリーダイヤル **0120-5-81028**（ゴーパイオニア）
一般電話：	**03-5496-2023**
ファックス（フリーダイアル）：	フリーダイヤル **0120-5-81029**

<ご注意>
フリーダイアルは、携帯電話、ＰＨＳではご利用になれません。あらかじめご了承ください。

● **沖縄サービスステーション**（沖縄県のみ）

受付　月曜～金曜　9：30～18：00　（土曜・日曜・祝日・弊社休日は除く）

一般電話：	**098-879-1910**
ファックス：	**098-879-1352**

高調波ガイドライン適合品

パイオニア株式会社　〒153-8654 東京都目黒区目黒1丁目4番1号

<TNGZW/02G00001>
<XRA3007-B>